

キルギス共和国
共同森林管理実施能力向上
プロジェクト
終了時評価報告書

平成26年4月
(2014年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
JR
14-105

**キルギス共和国
共同森林管理実施能力向上
プロジェクト
終了時評価報告書**

**平成26年4月
(2014年)**

**独立行政法人国際協力機構
地球環境部**

目 次

目次

地図

写真

略語表

評価結果要約表（和文・英文）

第1章 終了時評価調査の概要.....	1
1-1 プロジェクトの概要.....	1
1-2 終了時評価の目的.....	1
1-3 調査団の構成.....	1
1-4 調査日程.....	2
1-5 調査方法.....	2
第2章 プロジェクトの実績.....	5
2-1 投入の実績.....	5
2-1-1 日本側.....	5
2-1-2 キルギス側.....	6
2-2 成果の達成状況.....	6
2-3 プロジェクト目標の達成予測.....	9
2-4 上位目標の達成見込み.....	10
2-5 実施プロセスの検証.....	10
第3章 評価5項目による分析.....	12
3-1 妥当性.....	12
3-2 有効性.....	12
3-3 効率性.....	13
3-4 インパクト.....	13
3-5 持続性.....	14
第4章 合同評価の結論・提言・教訓.....	16
4-1 結論.....	16
4-2 提言.....	16
4-3 教訓.....	16
第5章 所感.....	18
5-1 団長所感（JICA 宍戸健一）.....	18
5-2 技術面から見た所感（林野庁 井上幹博）.....	19
5-2-1 パイロットサイトの視察.....	19
5-2-2 ビシュケク市郊外のチュイ LH（営林署）の現場視察.....	24
5-2-3 JFM ガイドラインについて.....	24

別添資料.....	27
1. 合同評価報告書（英文）.....	29
2. 第7回合同調整委員会ミニッツ（英文）.....	71
3. 他ドナー機関の主な動向（面談結果概要）.....	77

地 図



パイロットサイト位置図

写

真



環境保全林業庁次官への表敬訪問



第1回合同評価委員会



Balykchy LHの建物



ソ連時代から30年以上使用している農業機械



Balykchy LHでの現地調査



Balykchy LHのアプリコット植林地
での現地調査



Balykchy LHのアプリコット植林地に
設置されたプロジェクトの看板



Balykchy LHのプロジェクト支援による
灌漑施設での現地調査



Issyk-Kul LHのJFMパイロットサイトの
ポプラ植林地



Jeti-0guzのトウヒ植林地での
現地調査



第3回合同評価委員会
(合同評価報告書への署名後)



プロジェクト合同調整委員会での
終了時評価結果の報告

略 語 表

略語	現地名・英語名	和名
AO	Ail-Okumotu (Local Self-Governance Unit)	村役場
C/P	Counterparts	カウンターパート
DFED	Department for Forest Ecosystem Development	森林生態系開発局
GPS	Global Positioning System	全地球測位システム
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JFM	Joint Forest Management	共同森林管理
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
LH	Leskhoz (Forestry enterprise or District Forest Office)	営林署
NALSG	National Agency for the Affairs of Local Self-Governance	地方自治庁
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SAEPF	State Agency for Environmental Protection and Forestry	環境保全林業庁
SALGIR	State Agency for Local Self Governance and Interethnic Relations	地方自治・民族間関係庁
WGM	Working Group Meeting	実務グループ会議

評価結果要約表

1. 案件の概要	
国名：キルギス共和国	案件：共同森林管理実施能力向上プロジェクト
分野：環境（森林保全）	援助形態：技術協力
所轄部署：地球環境部	協力金額（予定）：2.9 億円
協力期間	(R/D)：2009 年 1 月～2014 年 1 月 (延長)：
	(F/U)：
先方関係機関：環境保全林業庁（SAEPF）、地方自治庁（NALSG）* *NALSG は地方自治・民族間関係庁（SALGIR）に改組	
日本側協力機関：林野庁	
他の関連協力：なし	
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>キルギス共和国（以下「キルギス」と記す）の森林は、非効率な林業経営のため、119 万 ha（国土の 6%：1930 年）から 62 万 ha（同 3%：1966 年）まで減少した。その後の植林政策の推進により、87 万 ha（同 4.3%：2003 年）まで森林面積が回復したものの、植林後の保育間伐が行われず、森林の質が低下している。</p> <p>キルギスは効率的な森林の経営を図るため、国有林における林産物の生産活動を政府から民間部門へ移管するなどの改革に取り組み、本改革推進の柱の 1 つとして、共同森林管理（JFM）¹を新たに導入することとなった。</p> <p>しかし、JFM は制度としては定められたものの、活動の具体的な内容は定められておらず、またキルギスにおける体制が不十分であったことから、JFM を実践・推進するための関係者の能力向上及び体制の強化が強く望まれていた。</p> <p>このような背景のもと、キルギス政府は 2007 年に JFM による森林再生・保全にかかる技術協力をわが国に要請した。2009 年 1 月に討議議事録（R/D）が署名され、同 2009 年 1 月から 2014 年 1 月までの 5 年間の期間でプロジェクトが開始された。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>JFM の実施箇所が拡大される。</p> <p>(2) プロジェクト目標</p> <p>SAEPF 及び NALSG の JFM を自立的に展開する体制が強化される。</p> <p>(3) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イシクル州とチュイ州で選定された JFM 対象地区において関係者が意思決定に関わる体制が機能する。 2. JFM 対象地区において森林利用者による林業経営活動が行われる。 3. JFM 対象地区における林業経営活動、支援の実施状況が適切にモニタリングされる。 4. JFM の実施に関するガイドラインが関係者に理解される。 <p>(4) 投入</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本側投入： <ol style="list-style-type: none"> a) 専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期専門家：チーフアドバイザー、業務調整/参加型森林管理（合計 122M/M）を派遣した。 ・ 短期専門家：苗畑管理、病虫害対策等 5 名（合計 145 日）を派遣した。 b) 研修員受入 <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト期間中に合計 33 名の研修員を日本で受け入れた。 c) 供与機材 <ul style="list-style-type: none"> ・ 車両 2 台、GPS、PC、その他プロジェクト実施上必要な物品を供与した。 d) 現地費用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地雇用や出張旅費等の費用がプロジェクト予算から支出された。 	

¹ 国有地及び公有地において、営林署（Leskhoz）・村役場（Ail-Okumotu）・森林利用者（テナント）の三者の合意形成に基づき森林利用者が林業経営を担う制度。

- 2) 相手国側投入 :
- a) 人員配置
- ・ 中央及び地方事務所においてプロジェクトに従事する人員が配置された。
- b) 事務所スペース及び設備・物品
- ・ プロジェクト事務所のスペースが SAEPF 本庁建物内に提供された。
 - ・ パイロットサイト
- c) プロジェクト経費
- ・ 車両燃料や現地雇用に係る費用の一部が先方政府により支出された。

2. 評価調査団の概要

調査者	宍戸 健一 【総括／団長】 国際協力機構 (JICA) 地球環境部次長 兼 森林・自然環境グループ長 井上 幹博 【森林管理】 農林水産省 林野庁 林政部 木材産業課 海外森林資源情報分析官 北村 健二 【協力企画】 JICA 地球環境部 森林・自然環境保全第一課 専門嘱託 浅野 剛史 【評価分析】 日本工営 (株) コンサルタント海外事業本部 環境技術部 副参事
-----	--

調査期間	2013年7月7日(日)～2013年7月27日(土)	評価種類：終了時評価
------	----------------------------	------------

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

- (1) 投入の実績 (上記のとおり)
- (2) 成果の達成状況

1) 成果 1

- 指標 1.1 両州で 5 カ所以上の対象地区が選定される。
- 指標 1.2 対象地区において役割を理解した JFM 担当者が意思形成過程に参画する。
- 指標 1.3 対象地区が JFM の実施箇所として SAEPF に認定される。

成果 1 について、設定された 3 つのプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 指標のすべてが達成されたと判断される。

- ・ イシクル州、チュイ州、タラス州の 3 州において、合計 10 カ所でパイロットサイトが選定された。(指標 1.1)
- ・ 多くの JFM パイロット事業では、Leskhoz 所長と Ail-Okumotu 代表がテナント選考委員会において主要な役割を果たしており、更に Ail-Okumotu の土地担当者等もテナント選考委員会に参加していた。(指標 1.2)
- ・ すべての JFM パイロット事業は、SAEPF と SALGIR の担当者が参加したワーキング・グループ会合 (WGM) によって承認された (指標 1.3)。

2) 成果 2

指標 2.1 森林利用者が JFM の考え方を歓迎し、森林保全に向けた意識が JFM の活動を通して拡大する。

指標 2.2 土地利用に関する手続き等の行政手続きが明確になる。

成果 2 について、設定された 2 つの PDM 指標のうち、1 つは達成され、もう 1 つはほぼ達成と判断される。

- ・ 多くの JFM パイロット事業周辺では、JFM 事業実施を希望するテナントへの応募が増加している。他方、森林管理を通じて木材生産や生計向上の手段が確保された事により、違法伐採された木材の利用が減った。これらの事から、森林保全や JFM に関する意識が、プロジェクトにより啓発されたと判断される (指標 2.1)。
- ・ 土地賃貸に関する法制度や手続きは既に存在しているが、それらに対する関係者の理解は浅い。JFM ガイドラインは、既存の法制度や手続きを簡潔に解りやすく整理することにより、関係者の理解を促進することが期待される。他方、これまで JFM アプローチの適用を困難にしていたと考えられる既存の法制度 (例：テナント選定の際のクライテリアの考え方など) については、改正素案などを提案する予定である (指標 2.2)。

3) 成果 3

指標 3.1 三者で共有・理解されたモニタリングの手順・指標が定められている。

指標 3.2 森林経営活動、支援活動に関する記録が文書化されている。

成果 3 について、設定された 2 つの PDM 指標のすべてが達成されたと判断される。

- ・ プロジェクトの支援により、SAEPF は Leskhoz が四半期ごと（2012 年からは半年ごと）に提出すべきモニタリング・フォーマットと手続きを改良した（指標 3.1）。
- ・ 各 Leskhoz は、管轄する JFM パイロット事業をモニタリングし、モニタリング・フォーマットを用いて記録し、半年ごとに SAEPF 本部へ提出している。モニタリングが四半期ごとに実施されていた時期は提出率が極めて低かったが、プロジェクトがフォーマットを簡略化し、更に提出を半年ごとに改めた後は、すべての Leskhoz が提出するようになった（指標 3.2）。

4) 成果 4

指標 4.1 対象州の各郡において 1 回以上のセミナーが開催され、郡内全村役場（AO）の担当者が参加する。

指標 4.2 SAEPF と NALSG に JFM の実施に関するガイドラインが認められる。

成果 4 について、設定された 2 つの PDM 指標は、現段階ではどれもいまだ達成されていないと判断される。

- ・ JFM ガイドラインが完成した後、イシククル州とチュイ州のすべての Raion（地区）において、JFM を促進するためのセミナーを実施する予定である（指標 4.1）。
- ・ JFM ガイドライン（英語版、ロシア語版）の第 2 案が 2013 年 6 月に完成した。この第 2 案に対するコメントを求めるため、JFM ガイドラインセミナーが 2013 年 6 月に開催された。プロジェクトは、集められた意見や必要な改訂案を反映させた後にガイドラインを完成させる。またプロジェクトは、JFM 促進に必要な関連法制度の改訂に関する議論を、今後始める予定である（指標 4.2）。

(3) プロジェクト目標の達成予測

指標 1. JFM の実施に関する知識・経験を SAEPF 及び NALSG の職員が共有・理解する。

指標 2. プロジェクトの終了までにパイロットサイトとは別のサイトで 2 カ所以上、キルギス側のみの努力により JFM が実施される。

指標 3. JFM の実施に必要な規則の政令化に向けた取り組みが開始される。

指標 4. 「JFM の実施に関するガイドライン」が関係者に活用される。

プロジェクト目標の達成状況について、上記の設定された 4 つの PDM 指標のうち、2 つは達成されたが 2 つはいまだ達成されていない。しかしながらすべての指標がプロジェクト終了までに達成されると予測される。

- 1) JFM 実施に関する SAEPF と SALGIR の関係者の知見や経験は確実に蓄積されていると判断される。プロジェクトは一州を除いたすべての州にて、JFM セミナーを計 7 回実施したが、JFM 実施の重要性に関する疑問は出ず、他方 JFM 活動を実施したいとの多くの希望が確認された。プロジェクト活動に関する最新ニュースはプロジェクト会報に整理され、SAEPF、SALGIR、Leskhoz、Ail-Okumotues の他、国立公園や国際機関などへも配布された（プロジェクト目標 指標 1）。
- 2) JFM パイロット事業が始まった Leskhoz と Ail-Okumotues に対する聞き取り調査によれば、プロジェクトの支援を得ていない新たな JFM 活動が、既に 4 つの Leskhoz と 3 つの Ail-Okumotues で始まった（プロジェクト目標 指標 2）。
- 3) JFM ガイドラインの第 1 案が完成したことを受け、関連法令の適正化を働きかけるための提案書を、プロジェクトは SAEPF と SALGIR に対し提出した。更に JFM ガイドラインの第 2 案が完成した際、プロジェクトは SAEPF に対し、既存の法制度の改正や新たな法制度の制定を開始するように提案した（プロジェクト目標 指標 2）。
- 4) JFM ガイドラインの第 2 案は既に完成しているが、現在、関係者から出たコメントを反映させるなどの最終化の作業を行っている（プロジェクト目標 指標 3）。

(4) 上位目標の達成見込み

指標 1. プロジェクト対象地区以外に 10 カ所以上で JFM が実施され、それらの実施地区が国有林だけでなく村有地からも選定される。

指標 2. JFM ガイドラインが他州においても活用される。

上位目標の達成見込みを測るには時期尚早であるものの、既にいくつかのよい兆候が確認できた。

- 1) JFM パイロット事業が始まった Leskhozoes と Ail-Okumotues に対する聞き取り調査によれば、プロジェクトの支援を得ていない新たな JFM 活動が、既に 4 つの Leskhozoes と 3 つの Ail-Okumotues で始まった（上位目標 指標 1）。
- 2) JFM ガイドラインの第 2 案に対するコメントを集めるため、プロジェクトは JFM ガイドラインセミナーをほぼすべての州において実施した。またプロジェクトは、フィールド訪問のような機会を利用して、他州の Leskhozoes に対しても JFM ガイドラインの促進活動を行う予定である（上位目標 指標 2）。

3-2 評価 5 項目の確認

(1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は、以下の分析結果から「高い」と判断された。

- 1) 地域住民を森林の共同管理に巻き込む JFM アプローチは、キルギスの「森林開発基本方針」のなかの 3 つの柱の 1 つと合致している。また世界銀行が提唱する包括的援助フレームワークや、貧困削減戦略ペーパー、中期開発プログラム（2012 年～2014 年）における開発課題とも合致している。
- 2) プロジェクトは机上で理論を議論するより、フィールドにおいて JFM を実践することを重点に置いたが、これは SAEPF、SALGIR、更に地域住民からの期待とニーズに合致したものである。また JFM パイロット事業は、相互利益を基本に置いた複数主体（地域住民、自治体（Ail-Okumotues と市）、森林管理組織（Leskhozoes と国立公園オフィス）、その他の関係者）の合意と協力による森林管理の有効性を示すものであったと考えられる。
- 3) キルギスの地方部における失業率は高いため、JFM プロジェクトを通じて地域住民に収入手段を提供することは、地域住民の暮らしの改善にも貢献するものである。また、複数主体（Leskhozoes、Ail-Okumotues、地域住民）の合意と協力による森林管理を目指すプロジェクトアプローチは、地域住民の期待とニーズに合致したものである。
- 4) JFM アプローチは、効果的な森林管理と同時に農村開発を実現するものである。農村開発は「対キルギス共和国国別援助方針」の開発課題の 1 つであり、したがって本プロジェクトは、わが国の援助方針に合致したものである。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は、以下の分析結果から「中程度」と判断された。

- 1) 「3-1 (2) 成果の達成状況」で要約されるように、プロジェクトは既に多くの成果を達成した。PDM 指標では 2 つの州で 5 カ所以上の JFM パイロット事業が選定される事が規定されているが、プロジェクトは既に 3 州で 10 カ所のパイロット事業を実施している。これは将来展開される JFM 事業が場所、自然条件、活動内容などの多様性を確保することに貢献している。すべての JFM パイロット事業は順調に進捗していると判断され、プロジェクトは効果的に JFM 事業を実施するための知識と経験を蓄積している。
- 2) 成果 1 から成果 3 で実施しているパイロット事業からは、成果 4 で作成している JFM ガイドラインを実効性の伴ったものにするための知見や経験を得る事が意図されている。プロジェクト目標を達成するためには、実際の JFM パイロット事業の実施をとおして教訓を抽出し（成果 1、2）、更に最新のモニタリング結果を分析して（成果 3）、現在作成中の JFM ガイドラインをより良いものへ改良する必要がある。プロジェクトは、JFM ガイドラインが最終化されたらすぐに、SAEPF に対し関連法制度の改正あるいは立案のために必要な支援を実施する必要がある。その上で SAEPF は JFM の普及活動を独自に実施するため、必要な予算措置を取るなどの努力が求められる。

(3) 効率性

プロジェクトの効率性は、以下の分析結果から「ある程度高い」と判断された。

- 1) プロジェクト期間中、その時のプロジェクト進捗と状況をかながみて、PDM は 2 回、活動計画（PO）は 3 回改訂された。すべての活動は状況を適切に反映した PDM と PO に基づいて実施され、専門家、機材、施設、本邦研修などの日本側の投入の質・量・タイミングは適切に行われた。すべての日本側の投入は、プロジェクト活動のために適切に利用された。
- 2) 終了時評価までの過去 54 カ月間に、合同調整委員会（JCC）会議が計 6 回、WGM が計 18 回行なわれた。さらに各 JFM パイロット事業では、Leskhozoes と Ail-Okumotues が、プロジェク

ト調整のための定期会議を週1回の頻度で行った。これらの会議は、カウンターパート（C/P）と JICA 専門家の間や、更に C/P 間で緊密なコミュニケーションを可能にし、期待された成果を効率的に得ることに貢献したと考えられる。

- 3) プロジェクト・ディレクター、プロジェクト・マネージャーは配置されたものの、日々の活動を専門家とともに実施する専属の C/P は SAEPF と SALGIR 両機関とも配置されなかった。そのためプロジェクト活動の多くは、日本人専門家が中心となって実施された。この状況は日本人専門家から C/P へ対する技術/知識移転を妨げたと考えられる。また JFM ガイドラインの技術面の議論や、JFM 促進に必要な関連法制度の改訂に関する議論に参加できるだけの専門性を持った C/P は、SAEPF、SALGIR とともに極めて限定されていた。

(4) インパクト

プロジェクト実施によるインパクトは、以下の分析結果から「ある程度高い」と見込まれる。

- 1) JFM アプローチは、Leskhoz 地域住民が共同で森林を管理することを通じて相互利益を目指すものである。例えば Kok-Moinok パイロットサイトに代表される果樹栽培などで、住民が経済的に多くの利益を得た事例が確認された。このようないくつかの成功ケースは、パイロットサイト周辺を中心として広範囲にデモンストレーション効果を発揮していると認められた。
- 2) しかしながら近い将来、上位目標の指標に設定されているように、SAEPF の管轄地以外でも JFM が展開されるためには、SAEPF は広範囲でガイドライン普及のための活動を実施し、JFM を重点として促進する努力が必要である。
- 3) JFM パイロット事業は地域住民のための雇用を生み出し、代替生計手段をもたらしていることが確認された。特にキルギスの地方部においては失業率が高く、社会不安を生みだしているが、プロジェクトが雇用を生み出し社会不安の減少にも良い影響を与えていることが確認された。
- 4) 多くの JFM パイロット事業は、農業や観光業などの林業の周辺産業の活性化に貢献し、それは地域の活性化にもつながっていることが確認された。イシククル Leskhoz の事例では、風倒木の搬出を主目的としてプロジェクトが整備した林道であったが、地域住民が家畜をより標高の高い放牧地へ移すための移動路として、またキルギスの山岳地域で盛んな Yurta（遊牧民が使う移動式の住居）を使って行う滞在型観光のアクセス・ルートとしても活発に利用されており、地域住民が副収入を得ることに貢献していることが確認された。

(5) 持続性

プロジェクト終了後の持続性の見通しは、以下の分析結果から「中程度」と見込まれる。

- 1) <政策・制度・組織面> JFM はキルギスの森林政策や制度と合致しており、SAEPF の管轄する土地に限っては、JFM 事業を実施する上で政策・制度面での持続性は高いと判断される。しかしながら SAEPF と SALGIR はここ数年、組織改編を繰り返しており、職員の JFM 事業における役割が不明確なままであるなど、組織面の持続性に不安が残る。このような組織改編が繰り返される場合、上位目標の発現に必要な JFM 普及に悪影響を及ぼすおそれがある。
- 2) <技術面> Leskhoz の職員は、JFM パイロット事業を継続的に管理するための必要十分な技術を有していると判断されるものの、全地球測位システム（GPS）調査、苗床管理、アプリコット栽培、トウヒ天然林調査など、プロジェクトが導入した技術は、今後の森林の生育状況や新たなサイトの条件に合わせて、継続的な技術発展が求められる。また果実生産を次の段階へ進ませるためには、加工、運搬、販売、マーケティングなどに関して、農業などの他セクターとの協力による新たな技術導入が求められる。
- 3) <人員面> プロジェクト実施期間を通じて、SAEPF と SALGIR 本部におけるマネジメントレベルの人事異動は頻繁であったが、Leskhoz、Ail-Okumotues などのフィールドレベルの人事は比較的安定していた。多くの Leskhoz と Ail-Okumotues では、十分な数の人員を確保しており、彼らは隣接する地域に JFM を普及することに興味も高いため、フィールドレベルでの人員面の持続性は確保されていると判断される。他方、フィールドレベルで専門的な知識を有している人員は極めて限られている。
- 4) <財政面> プロジェクト期間を通じて、SAEPF と SALGIR の予算は極めて限られていた。この状況は今後も続くと思われる。プロジェクトが支援した施設（フェンス、井戸、水車、低温種苗保管施設、吊り橋など）を維持・管理するためには、今後も継続的な予算措置が求められる。上位目標で示されるように、JFM 事業をキルギス全体で展開するためには、外部の財政支援を確保するなどの方法を検討すべきである。特に新たな JFM 事業を開始するためには、

灌漑施設、フェンス、苗木などのための事業開始資金を確保する必要がある。SAEPF の持つ「森林基金」は、通常の政府予算より安定していると考えられるため、JFM 事業の普及のための利用を検討すべきである。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

キルギスにおける開発課題との整合性が高いことと、机上の議論でなく現場での実践を重視したことが適切な計画に貢献した。

(2) 実施プロセスに関すること

JCC 及び WGM という 2 つのレベルの定例会議に加え、各パイロット事業においても関係者が定期的に協議の場を持ち、プロジェクト関係者間の密接なコミュニケーションが維持されたことがプロジェクトの円滑な運営に貢献した。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

プロジェクト専属の C/P が配属されず、活動の多くの部分を日本人専門家が実施しなければならなかったことが技術移転の制約要因となった。

3-5 結論

(1) 本プロジェクトは、キルギスにおいて画期的な JFM の枠組みを実践した。政変など想定外の状況下にあいながらも、パイロットサイトにおける活動を通じて、森林面積の増加、地域住民の生計向上、JFM に対する理解増進、地域組織（具体的には Leskhoz 及び Ail-Okumotues）間の協力、地域住民の参加などの効果をもたらすことに成功した。プロジェクトサイトによっては環境教育への貢献も見られた。

(2) このようにパイロットサイトが立ち上げられ、成果を徐々に上げつつ活動が進められており、その経験がガイドラインとしてまとめられている。JFM がより多くの人々に理解され、より多くの場所で活用される兆候を見せている。以上から、本プロジェクトは成功裡に実施されてきたと結論づけることができる。

(3) 一方で、JFM のより広範な展開のためには、法的枠組みや組織的な能力（SAEPF における人材や予算など）が強化される必要がある。JFM の枠組みが更に強化・活用されるためには、パートナー機関との連携の機会を模索する努力も継続されるべきである。

3-6 提言

(1) JFM 制度は、生産や環境保護など多様な活動目的に応じたものとすべきである。また、JFM 活動を公平かつ戦略的に拡大していくため、実践の結果を基にガイドラインは定期的に見直されるべきである。

(2) 前述のガイドライン見直しと呼応しながら、SAEPF による法令整備が検討されるべきである。さらに、長期的な森林管理を担保するため、JFM 実施において専用の基金などのメカニズムが標準化されるべきである。このようなメカニズムにより初期投資も促進され、JFM 普及の加速につながることを期待される。

(3) 国有林野以外の土地においても JFM を普及させるため、SAEPF と SALGIR の間の協力が更に強化されるべきである。

(4) SAEPF と SALGIR において JFM を担当する職員の能力を更に強化すべきである。

(5) JFM の普及拡大のため、農業セクター、大学・研究機関、ドナー機関、NGO など関連する団体とのネットワークを強化すべきである。また、JFM 実施サイト間の相互学習のため、優良事例や知見を共有すべきである。

3-7 教訓

(1) 参加型の JFM は、森林面積の増加に加え、地域住民の理解や生計の向上に関しても効果的である。また、公共インフラストラクチャー、林産品生産や観光などの関連産業の発展にも寄与する。

(2) 森林及び地方自治の両セクターの地域組織（具体的には Leskhoz 及び Ail-Okumotues）が参加する

ことにより、JFM 実施のために効果的な体制となっている。これはキルギスの実態にも馴染むものである。

- (3) 本プロジェクトは、机上で理論を議論するよりも現場で実践することに重点を置いている。パイロットサイトでの活動を通じて実務的なガイドラインが作成され、関係者による理解と参加を促進している。

以上

Summary Sheet for Terminal Evaluation

1. Outline of the Project		
Country: The Kyrgyz Republic		Project Title: Project for the Support for Joint Forest Management
Issue/Sector: Environment (Forest Conservation)		Cooperation Scheme: Technical Cooperation
Division in Charge: Global Environment Dept.		Total Cost (planned): 290 Million JPY
Period of Cooperation	(R/D): Jan. 2009 to Jan. 2014	Partner Country's Implementing Organization: State Agency for Environment Protection and Forestry (SAEPF), National Agency for Affairs of Local Self-Governance (NALSG)* *NALSG has been reorganized as State Agency for Local Self-Governance and Interethnic Relations (SALGIR).
	(Extension): (F/U): (E/N):	
1-1 Background of the Project		
<p>Due to inefficient forest management, the forest cover in the Kyrgyz Republic decreased from 1.19 million hectares (6% of total land area: 1930) to 0.62 million hectares (3%: 1966). After that, by promoting the afforestation policy, the forest area increased to 0.87million hectares (4.3%: 2003), although a lack of thinning has resulted in forest degradation.</p> <p>Aimed at efficient forest management, the Kyrgyz Republic has undertaken reforms including the privatization of productive activities in the forests. One of the pillars of the reforms was the adoption of the Joint Forest Management (JFM) scheme, in which forest users (tenants) manage forests based on the agreement between three parties: local forest stations (Leskhozoes), village associations (Ail-Ockumoruues) and the forest users.</p> <p>While JFM was decided as a policy institution, however, detailed activities were not specified, and the institutional base was not adequate. For these reasons, there was a need to enhance the capacity of key players and strengthen the institution in order to implement and promote JFM.</p> <p>With this background, the Government of the Kyrgyz Republic requested for technical cooperation to the Japanese Government in 2007 for reforestation and conservation by JFM. The Record of Discussions (R/D) was signed in January 2009, and the project started for the five-year period between January 2009 and January 2014.</p>		
1-2 Project Overview		
(1) Overall Goal		
JFM implemented area is increased.		
(2) Project Purpose		
Framework for expanding JFM in a sustainable manner by the State Agency for Environmental Protection and Forestry (SAEPF) and National Agency for the Affairs of Local Self-Governance (NALSG) is strengthened.		
(3) Outputs		
<ol style="list-style-type: none"> 1. JFM mechanism on involving stakeholders into decision-making are functioned in the Project Sites of JFM in Issyk-Kul Province and Chui Province. 2. The forest management activities are implemented by Forest Users in the Project Sites of JFM. 3. The forest management activities by Forest Users and the supporting activities by Leskhozoes and Ail-Okumotues in the Project Sites of JFM are monitored properly. 4. JFM implementation guideline is comprehended among relevant organizations. 		
(4) Inputs		
<ol style="list-style-type: none"> 1) Japanese side: <ol style="list-style-type: none"> a) Dispatch of Experts <ul style="list-style-type: none"> -Long-term experts: Chief Advisor and Project Coordinator/Participatory Forest Management (122 man/months in total) were dispatched during the project period. -Short-term experts: Experts in five fields including nursery management and disease/pest control were dispatched (145 days in total). b) Trainings in Japan <ul style="list-style-type: none"> -A total of 33 counterparts participated in the training courses in Japan during the project period. c) Provision of equipment <ul style="list-style-type: none"> -Two vehicles, GPSs, PCs and other items necessary for the project implementation were provided. d) Local cost <ul style="list-style-type: none"> -Local operation was supported by the project budget, including local employment and travels. 		

<p>2) Kyrgyz side:</p> <p>a) Assignment of counterpart personnel -Counterpart personnel of the Project were assigned in Bishkek and local offices.</p> <p>b) Office space -Office space for the Project was provided by SAEPF in the building of its headquarters in Bishkek.</p> <p>c) Project cost -Part of local costs for project activities including vehicle fuel and maintenance, employment and travel expenses was provided by the Kyrgyz side.</p>		
<p>2. Evaluation Team</p>		
Members of the Mission	<p>Mr. Kenichi Shishido, Leader, Deputy Director General, Global Environmental Department, JICA Mr. Mikihiro Inoue, Forest Management, Senior Policy Analyst for Overseas Forestry, Forestry Agency, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries Mr. Kenji Kitamura Planning Cooperation, Technical Advisor, Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environmental Department, JICA Mr. Koji Asano, Analysis & Evaluation, Senior Engineer, Environmental Science & Engineering Department, Nippon Koei Co.,LTD.</p>	
Period of Evaluation	From 7 July 2013 to 27 July 2013	Type of Evaluation: Terminal Evaluation
<p>3. Results of Evaluation</p>		
<p>3-1 Achievement of the Project</p> <p>(1)Results of Inputs (as described above)</p> <p>(2)Project Progress</p> <p>1) Output 1</p> <p>Indicators:</p> <p>1.1 More than 5 Project Sites of JFM are selected in the two Provinces.</p> <p>1.2 Persons of Leskhazes and Ail-Okumotues who understand their role of JFM are involved in decision-making of JFM pilot project in each Project Site.</p> <p>1.3 Selected Project Sites are approved as JFM implementation area by SAEPF.</p> <p>Out of three indicators set for the output 1, all are achieved.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nine in Issyk-Kul and Chui and one in Talas, a total of ten pilot sites were selected. (Indicator 1.1) • There were many cases of those persons in charge for lands in Ail-Okumotues have taken part in the tenant selection committee. Besides, directors of Leskhaz and heads of Ail-Okumotu took major role in the tenant selection committee in many cases. (Indicator 1.2) • All pilot sites were approved by Working Group Meetings (WGM). (Indicator 1.3) <p>2) Output 2</p> <p>Indicators:</p> <p>2.1 Forest users will appreciate JFM scheme and their awareness for forest conservation will be enhanced through JFM activities.</p> <p>2.2 Administrative procedures related to JFM such as on land use are clarified.</p> <p>Out of two indicators set for the output 2, one is achieved and another is almost achieved.</p> <ul style="list-style-type: none"> • The number of application for JFM tenant recruitment at each pilot site has been increasing. Besides, forest users became not use the wood of illegal logging in some JFM pilot sites, as the Project secured forest for their timber production or the revenue from forest activities. For above reasons, people's consciousness on forest conservation was considered to be raised by the Project. (Indicator 2.1) • Although the regulatory procedures on land lease already exist, level of understanding in staff concerned is considered to be low. The Guidelines will provide summary of existing regulatory procedures in precise and comprehensive manner that is expected to deepen their understanding. For existing legislations, which are considered to have been making the JFM application difficult (e.g. tenant selecting criteria, etc.), possible revision is to be suggested. (Indicator 2.2) <p>3) Output 3</p> <p>Indicators:</p> <p>3.1 Procedure and indicator of the monitoring are set down in each Project Site.</p> <p>3.2 The forest management activities and the supporting activities are recorded in the documents.</p>		

Out of two indicators set for the output 3, all are achieved.

- The Project supported SAEPF to revise the monitoring format and procedures to receive information from Leskhozoes in every quarter (from 2012, every half a year). (Indicator 3.1)
- Leskhozoes have been implementing monitoring activities in JFM pilot sites, and submitting monitoring reports using monitoring format to SAEPF HQ every half a year. When monitoring was carried out quarterly, the submission ratio was considered to be low, however, after revising monitoring format, and at the same time, made it to be submitted every half a year, all Leskhozoes became to submit. (Indicator 3.2)

4) Output 4

Indicators:

- 4.1 At least one seminars is conducted in each Raion of Issyk-kui Chui Oblast, and all of AOs in each Raion are participated to those.
- 4.2 "JFM implementation guideline" is admitted by SAEPF and NALSG.

Out of two indicators set for the output 4, all are not yet achieved.

- As soon as the Guidelines will be completed, the Project plans to conduct seminars in each Raion (district) of Issyk-kul and Chui Oblast(province) to promote JFM application. (Indicator 4.1)
- Second draft of the Guidelines (English and Russian version) was completed in June 2013. JFM guideline seminar was held in June 2013 to collect comments on the second draft. After collection of opinion and amendment necessary, the Project will finalize the Guidelines. Besides, the Project will discuss on proposal of necessary revision of related legislations to promote JFM. (Indicator 4.2)

(3) Progress towards the Project Purpose

Indicators:

1. Comprehension on the JFM implementation knowledge and experience is shared among relevant staff of SAEPF and NALSG.
2. JFM is implemented by only Kyrgyz side in more than two (2) sites different from the project pilot sites by the end of the project.
3. Legalization process of rules and regulations for JFM implementation should be initiated.
- 4."JFM implementation guideline" is utilized by relevant organizations.

Out of four indicators set for the project purpose, two are achieved and other two are not yet achieved. All indicators are predicted to be achieved before the completion of the Project.

- The understanding on JFM implementation among relevant staff of SAEPF and SALGIR is considered to be deepening enough. Since project conducted seven seminars, invited concerned staff of Leskhozoes in all provinces except one, and there was no doubt on the importance of JFM; on the other hand, there found many needs for similar JFM activity in their territory. Latest news concerning project activities has been provided by newsletters widely not only to SAEPF, SALGIR, Leskhozoes and related Ail-Okumotues, but also to all State Parks and international organizations. (Project Purpose Indicator 1)
- According to survey to Leskhozoes and Ail-Okumotues where pilot sites were established, new JFM activity without Project's support has started in the territory of four (4) Leskhozoes and three (3) Ail-Okumotues. (Project Purpose Indicator 2)
- When first draft of the Guidelines was presented, to promote legalization process, the Project suggested on new regulations or amendment of existing regulations to SAEPF and SALGIR. Besides, when presented the second draft of the Guidelines, the Project suggested SAEPF to initiate drafting of new or amendment of regulations. (Project Purpose Indicator 2)
- The second draft of the Guidelines has prepared, yet to be finalized after integrating comments from related parties. (Project Purpose Indicator 3)

(4) Prospects of achieving the Overall Goal

Indicators:

1. JFM is implemented in not less than 10 sites different from the project sites and such sites should be selected not only from SFF areas but also from AO areas.
- 2."JFM implementation guideline" is utilized in other Provinces.

The situation is too premature to assess the prospects of achieving the overall goal. However, there are some good signs for achieving the overall goal in future.

- According to survey to Leskhozoes and Ail-Okumotues where pilot sites were established, new JFM activity without Project's support has started in the territory of four (4) Leskhozoes and three (3) Ail-Okumotues.

(Overall Goal Indicator 1)

- The Project sought opinion in the seminars held in almost all provinces of the country in order to improve the second draft of the Guidelines. The JFM Project plans to diffuse the Guidelines to Leskhozoes of other provinces using occasion such as field visit. (Overall Goal Indicator 2)

3-2 Review by the Five Criteria

(1) Relevance

The relevance of the Project is evaluated as “high” from the following reasons.

- 1) Project’s JFM approach to involve local residents in Joint Forest Management is concordant with one of the main aims of the forest policy of the Kyrgyz Republic. Also the JFM approach is concordant with the development policy indicated in the Comprehensive Development Framework (CDF) which the World Bank advocated, the State Poverty Reduction Strategy (PRSP) and the Medium-Term Development Program (2012-2014).
- 2) The approach to start JFM practices in the field rather than developing theory on the desk is relevant considering the needs and expectation of implementing agencies(SAEPF and SALGIR) and local residents. Pilot projects has demonstrated advantages of forest management based on multiple partnerships for mutual benefit, which includes local people, local self-governance bodies (Ail-Okmotu and city), territorial state forest management bodies (Leskhozoes, and State Park Office) and other parties.
- 3) Unemployment rate especially in interior part of the country is very high. The approach for forest management of the Project is to support local residents to improve their livelihood by providing way of income through JFM project. It is the approach of the Project to advance forest management under the agreement among Leskhozoes, Ail-Okumotues, and forest users that meets local resident's needs.
- 4) The JFM approach seeks the way to realize rural development and effective forest management in parallel. Rural development is one of the priority areas for Japan’s development assistance policy in the Kyrgyz Republic.

(2) Effectiveness

The effectiveness of the Project is evaluated as “medium” from the following reasons.

- 1) The Project has already achieved most of its Outputs as summarized in “3-1(2) Project Progress”. PDM states to have more than five pilot projects in two provinces in its indicator. The Project undertook ten model JFMs in three provinces that secured the diversity of the contents of location, natural conditions, and activity. All pilot projects have been successfully implemented, and the Project effectively accumulated knowledge and experience for the implementation of JFM projects.
- 2) Activities of Output 1, 2 and 3 were designed to extract lessons for developing the Guidelines in Output 4. To achieve the Project Purpose, the Project needs to further integrate the latest results of the monitoring (Output 3) at the same time, lessons learned obtained through implementation of pilot projects (Output 1 & 2) into the Guidelines. As soon as finalizing the Guidelines, the Project needs to support SAEPF on drafting of amendment or/and new regulations concerning JFM. Besides, to promote JFM application on the forest management in the state, SAEPF HQ is expected to have an effort to get an additional budget for JFM dissemination.

(3) Efficiency

The efficiency of the Project is evaluated as “moderately high” from the following reasons.

- 1) In view of the project progress and the situation at the time, PDM was revised twice and PO was revised three times. Activities have been conducted according to the latest version of PDM and PO. The revised PDM and PO made it possible to have appropriate input, in terms of quality, quantity and timing, of experts, equipment, facilities, training in Japan and so on, and contributed to have outputs efficiently as expected. All inputs from Japanese side were properly used for project activities.
- 2) By the time of terminal evaluation, over the past fifty-four (54) months, JCC meetings were conducted six (6) times, and WGMs have been conducted eighteen (18) times. Besides, Leskhozoes and Ail-Okumotues who are managing JFM pilot project had weekly regular meetings to have coordination for the Project. The periodical and daily communication between Japanese experts and C/Ps as well as among C/Ps contributed to have expected outputs efficiently.
- 3) Although, the Project Director and the Co-Project Managers have been assigned, C/Ps under exclusive assignment for daily operation have not been existed in both SAEPF and SALGIR; therefore, many of the project activities had been implemented by the Japanese experts. The situation made technology/knowledge transfer from the Japanese experts not efficient. Since qualified C/Ps in SAEPF and SALGIR to discuss on the technical aspect of the Guidelines and the regulatory framework to promote JFM was inadequate, participation in the development of the JFM Guideline was limited.

(4) Impact

The impact of the Project is evaluated as “moderately high” from the following reasons.

- 1) The Project aims at that local residents and Leskhozoes become Win-Win; for example, the fruit tree development as represented at Kok-Moinok pilot site had great success economically. Such success case had demonstrated advantage of JFM project extensively especially in the neighborhood of pilot sites.
- 2) However, to achieve the Overall Goal in near future which states to have JFM projects also in lands of Ail-Okumotues, SAEPF is expected to work extensively for the diffusion of the Guidelines and to promote JFM application as their priority.
- 3) JFM pilot projects have generated employment for local residents. As, there are many people who don't have job in local communities in the Kyrgyz Republic, the Project provided ways of getting income for those people and decrease social grievance.
- 4) Many cases of that the JFM pilot projects stimulated other neighboring businesses such as tourism and agriculture were observed. For example in the case at Issyk-Kul Leskhoz, the pilot project repaired the forest road to spruce forests which are located at the higher part of the mountain. The road, originally facilitated to gather wind fallen trees, provided access to pasture land for local farmers to graze their livestock, also it attracted tourists so that tourism companies constructed “Yurtas(tent-style house which are used by nomads)” for getting extra income.

(5) Sustainability

The prospect of sustainability is evaluated as “medium” from the following reasons.

- 1) (Policies, legislations & institutional viewpoint) JFM practices under the jurisdiction of Leskhoz are in line with the Forest Code of the Kyrgyz Republic. However, because the reform on organizational structure in SAEPF and SALGIR is still undergoing, jurisdiction of staff for the JFM Project has been unclear. Continuous reform may spoil efficient dissemination of JFM concept as stated in the overall Goal.
- 2) (Technical viewpoint) Although, the field operational staffs in Leskhozoes seem to be confident for continuous management of JFM pilot projects, GPS survey technique, nursery managerial technique, apricot cultivation techniques and spruce forest research, which were introduced by the Project, need to have continuous improvement to be self-sustainable technically. Besides, to go to next stage of fruit production, technology/knowledge on processing, transportation, marketing, harvesting and so on, need to be developed through the cooperation with other sectors such as agriculture.
- 3) (Human resource viewpoint) Although change of personnel in the management level at SAEPF and SALGIR has been frequent, the personnel in the field level at Leskhozoes and Ail-Okumotues are comparatively stable. Many of Leskhozoes and Ail-Okumotues have adequate number of personnel and they are willing to disseminate JFM scheme to their neighboring territories. On the other hand, it seems that there is not sufficient number of people who have technical expertise in the field level.
- 4) (Financing viewpoint) The government budget has been observed to be quite limited, and the situation may continue. Continuous financial input will be required to maintain facilities (e.g. fence, water-well, water-wheel, low-temperature storage, suspension bridge) supported by the Project. As stated in the Overall Goal, to disseminate JFM concept in all over the Kyrgyz Republic, external financial assistance may be necessary. To start new JFM project, financial incentive for installing irrigation, fencing, seedling etc., may be required. Forestry fund shall be spent for financing of forest management activities and is considered to be stable rather than the ordinary government budget.

3-3 Factors positively affected the results

(1) Planning

High relevance of the project to the development policy of the Kyrgyz Republic, and the emphasis on implementation on the ground rather than conceptual work on documents contributed to appropriate planning.

(2) Implementation Process

In addition to the two levels of regular meetings, Joint Coordinating Committee (JCC) and Working Group Meeting (WGM), pilot sites also had occasional discussions maintaining close communication among the stakeholders of the project, which contributed to smooth operation of the project.

3-4 Factors negatively affected the results

(1) Planning

N/A

(2) Implementation Process

There was no counterpart under exclusive assignment for the project in either SAEPPF or SALGIR; therefore, many of the project activities were implemented by JICA side. This situation limited the extent of technology/knowledge transfer from the project experts.

3-5 Conclusions

- (1) The Project implemented an innovative framework of JFM in the Kyrgyz Republic. The Project undertook activities in the pilot sites, where positive impacts were observed such as increase in the forest area, improvement in the local livelihoods, awareness regarding JFM, cooperation between local authorities (Leskhozoes and Ail-Okumotues) and participation of local people, despite unexpected political reforms during its implementation. In some cases, JFM also contributed to environmental education.
- (2) The pilot sites were set up and they are moving forward with positive outcomes being expected. These experiences in the pilot sites were compiled as the guidelines. JFM is understood by an increasing number of people, and is in the process of spreading out more broadly. We conclude that the Project has been successfully implemented.
- (3) However, for broader application of JFM, the legal framework and the institutional capacity, such as human and financial resources (including the forestry fund) in SAEPPF, need to be strengthened. Efforts of seeking opportunities for collaboration with partner organizations should also be continued in order for the JFM framework to be developed and applied further.

3-6 Recommendations

- (1) The JFM scheme should be adaptive to variations of forest activities such as production and environmental protection. Based on more practices, the guidelines should be revised occasionally for fair and strategic expansion of JFM activities.
- (2) In accordance with the above mentioned revision of the guidelines, legislative adjustment should be considered by SAEPPF. In addition, mechanisms like a dedicated fund should become a standard in JFM arrangements for securing long-term forest management. Those mechanisms would also facilitate initial investment for accelerating the expansion of JFM.
- (3) To promote JFM application in areas other than state forest fund, the cooperation between SAEPPF and SALGIR should be continued and further strengthened.
- (4) Capacity of staff responsible for JFM in SAEPPF and SALGIR should be further developed.
- (5) Networking with relevant groups such as the agricultural sector, universities and research institutes, donor organizations and NGOs should be enhanced for expansion of JFM. Good practices and knowledge should be shared for mutual learning among the people in different JFM sites.

3-7 Lessons Learned

- (1) Participatory JFM is effective in not only increasing the forest area but also awareness and livelihoods of local population, and contributes to the development of public infrastructure and related industries such as production and tourism.
- (2) Participation of local authorities in both forestry (Leskhozoes) and local governance (Ail-Okumotues) is an effective institutional arrangement for implementing JFM, which suits to the realities in the Kyrgyz Republic.
- (3) The Project places emphasis on implementation on the ground rather than conceptual work on documents. Through the activities in the pilot sites, JFM produces practical guidelines and promoted understanding and participation by stakeholders.

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 プロジェクトの概要

キルギス共和国（以下、「キルギス」と記す）の森林は、非効率な林業経営のため、119万ha（国土の6%：1930年）から62万ha（同3%：1966年）まで減少した。その後の植林政策の推進により、87万ha（同4.3%：2003年）まで森林面積が回復したものの、植林後の保育間伐が行われず、森林の質が低下している。

キルギスは効率的な森林の経営を図るため、国有林における林産物の生産活動を政府から民間部門へ移管する等の改革に取り組み、本改革推進の柱の1つとして、共同森林管理（Joint Forest Management：JFM）¹を新たに導入することとなった。

しかし、JFMは制度としては定められたものの、活動の具体的な内容は定められておらず、またキルギスにおける体制が不十分であったことから、JFMを実践・推進するための関係者の能力向上及び体制の強化が強く望まれていた。

このような背景のもと、キルギス政府は2007年にJFMによる森林再生・保全にかかる技術協力をわが国に要請した。2009年1月に討議議事録（Record of Discussions：R/D）が署名され、同2009年1月から2014年1月まで5年間の予定でプロジェクトが開始された。

- 上位目標：JFMの実施箇所が拡大される。
- プロジェクト目標：環境保全林業庁（SAEPPF）及び地方自治庁（NALSG）*のJFMを自立的に展開する体制が強化される。
- 成果：
 1. イシククリ州とチュイ州で選定されたJFM対象地区において関係者が意思決定に関わる体制が機能する。
 2. JFM対象地区において森林利用者による林業経営活動が行われる。
 3. JFM対象地区における林業経営活動、支援の実施状況が適切にモニタリングされる。
 4. JFMの実施に関するガイドラインが関係者に理解される。

*）地方自治庁は省庁再編を経て、地方自治・民族間関係庁（SALGIR）に再編（2013年7月現在）。

1-2 終了時評価の目的

プロジェクト開始から5年目を迎えるにあたり、終了時評価調査団を派遣して、これまでの活動実績を評価するとともに、終了までの期間及び終了後に向けた提言や、他の協力案件に役立つ教訓を抽出する。

1-3 調査団の構成

日本から派遣した調査団の構成は表1のとおりである。

¹国有地及び公有地において、営林署（LH）・村役場（AO）・森林利用者（テナント）の三者の合意形成に基づき森林利用者が林業経営を担う制度

表 1 調査団メンバー

氏名	担当業務	所属・役職
宍戸 健一	総括／団長	国際協力機構（JICA）地球環境部次長 兼 森林・自然環境グループ長
井上 幹博	森林管理	農林水産省 林野庁 林政部 木材産業課 海外森林資源情報分析官
北村 健二	協力企画	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全第一課 専門嘱託
浅野 剛史	評価分析	日本工営（株）コンサルタント海外事業本部 環境技術部 副参事

1-4 調査日程

現地調査は、2013年7月7日（日）から7月27日（土）までの21日間、このうち官団員による調査は7月14日（日）から7月27日（土）までの14日間にわたって実施された。主要日程は表2（詳細日程は「合同評価報告書（英文）（別添資料1）」のAnnex 3）のとおりである。

表 2 調査日程

日付	行程
7月7日（日）	（浅野団員）東京発
7月8日（月）	ビシュケク着／JICA 事務所・専門家チーム・SAEPF 打合せ
7月9日（火） ～14日（日）	関係者インタビュー（チュイ州、イシククル州）
7月15日（月）	（宍戸・井上・北村合流）／SAEPF 次官、NALSG 長官表敬
7月16日（火）	合同評価委員会（第1回）／サイト視察（①コクモイノク）【 Cholponata泊】
7月17日（水）	サイト視察（②カラサエフ、③ジュティオグス、④トン）
7月18日（木）	サイト視察（⑤アクベシム、⑥ケゲティ、⑦イワノコフ）
7月19日（金）	サイト視察（⑧ジャンパフタ）、ドナー〔ドイツ国際協力公社（GIZ）、国連食糧農業機関（FAO）〕との意見交換
7月20日（土） ～21日（日）	評価結果とりまとめ作業
7月22日（月）	合同評価委員会（第2回）
7月23日（火）	UNDP と意見交換
7月24日（水）	関連事業等視察（①アラ・アルチャ国立公園、②フルンゼ LH 苗畑）
7月25日（木）	合同評価委員会（第3回、合同評価報告書への署名） 合同調整委員会（JCC）、ミニッツへの署名
7月26日（金）	大使館、JICA 事務所報告／ビシュケク発
7月27日（土）	東京着

1-5 調査方法

本終了時評価調査は、経済協力開発機構（Organization for Economic Cooperation and Development : OECD）開発援助委員会（Development Assistance Committee : DAC）が1991年に採択した「開発援助における評価原則」を踏まえて作成された『新 JICA 事業評価ガイドライン第1版』（2010年6月）に基づき実施された。評価対象であるプロジェクトの枠組みとして、2011年

6月23日に改訂・合意されたプロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : PDM) 第3版を使用した。

評価の手順は JICA 事業評価ガイドラインに基づいて、先ず必要な情報を収集、分析した上で、「実績 (投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度)」「実施プロセス」「因果関係」を検証し、更に「評価5項目」の視点から価値判断を行い、最後に提言・教訓を抽出した。

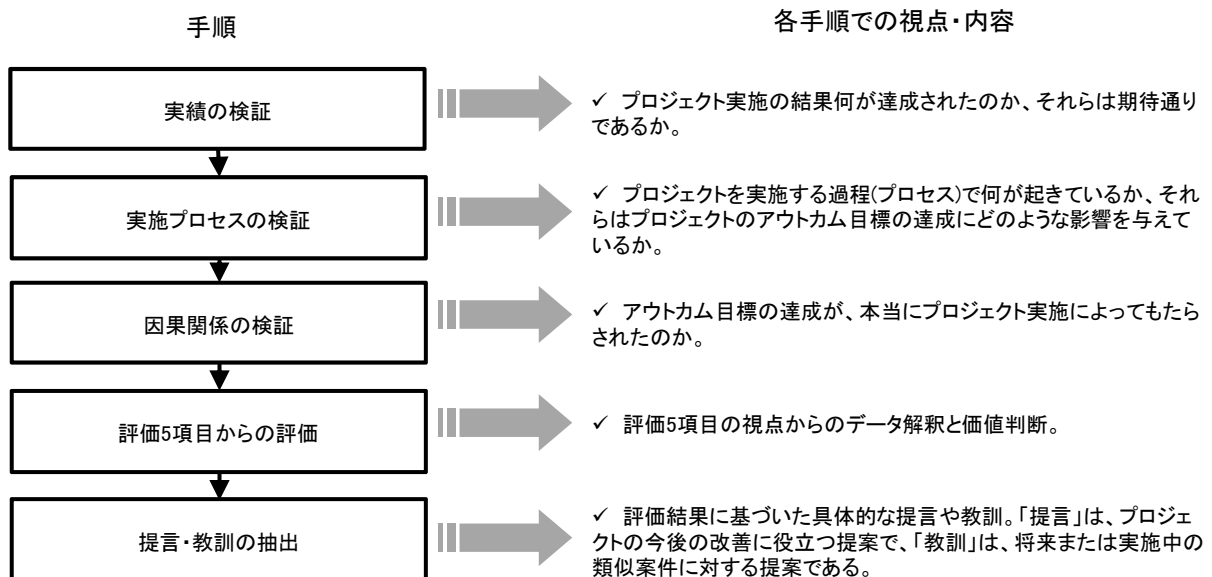


図1 事業評価の手順

(新 JICA 事業評価ガイドライン第1版 (2010) に基づいて調査団作成)

終了時評価に必要な情報は、それぞれ調査項目を設定した上で、文献調査、質問票調査、聞き取り調査、現場視察を通じて収集された。文献調査では、主にプロジェクトの報告書や関連資料などをレビューした。情報ソースとして日本人専門家からは、主に調査項目に基づいて事前に情報を収集し、それらを3種類のグリッド [2種の達成度グリッドと1種の評価グリッド、合同評価報告書 (英文) (別添資料1)の Annex11~Annex13 参照] に整理したうえで、聞き取り調査により必要な情報を収集・整理した。また、キルギス側の2つのカウンターパート (Counterpart : C/P) 機関の職員からは、主に日本側調査団が作成した質問票を事前に配布し、それに対する回答を収集・確認したうえで、追加的な情報について調査団到着後に聞き取り調査を行った。キルギス側の質問票調査、聞き取り調査の対象としては、C/P 機関である SAEPF、SALGIR の本庁職員と、これら2つの省の各 JFM パイロット事業の現場関係者に加えて、パイロット事業に参加した地域住民など、広範な関係者に対して聞き取りを行った (「別添資料1. 合同評価報告書 (英文)」Annex4 参照)。現場視察は、プロジェクトが設定した10カ所の JFM パイロット事業のうち9カ所を実際に訪問し、関係者から説明を受けるとともに植林地やプロジェクトが支援した施設などの状況を検分した。各 Leskhoz 並びに村役場 (Ail-Okumotu : AO) の関係者に対しては、日本側調査団が作成した質問票に基づいて、各現場において聞き取り調査 (セミ・ストラクチャード・インタビュー) を実施した。

文献調査、質問票調査、聞き取り調査、現場視察などを通じて収集された情報は、3種類のグリッドに整理したうえで、「プロジェクト実績」「実施プロセス」「因果関係」の検証を行い、更に

「評価5項目」の視点からの価値判断を行った。最後に提言・教訓を抽出した。「評価5項目」の視点からの判断基準は、表3のとおりである。

表3 評価5項目の判断基準

評価項目	評価内容
妥当性 (Relevance)	プロジェクトの目標が、受益者の要望、対象国のニーズ、地球規模の優先課題及び援助関係者とドナーの政策との整合性の度合い。
有効性 (Effectiveness)	プロジェクトの目標が実際に達成された、あるいはこれから達成されると見込まれる度合い。PDMのアウトプットの達成がプロジェクトの目標の達成につながったかの因果関係を明確にして判断する。
効率性 (Efficiency)	投入に対するアウトプット(定性ならびに定量的)を計測する。投入のタイミング、規模、内容などを整理して、資源が効率的に利用されたかを判断する。
インパクト (Impact)	開発援助によって直接または間接的に、意図的であるか否かを問わず生じる、肯定的、否定的及び一次的、二次的な効果。
持続性 (Sustainability)	プロジェクトが終了しても、開発援助による便益が継続するか。政策・制度・組織面、財政面、技術面、人員面などの観点を用いて、現時点の持続性を見通しから判断する。

第2章 プロジェクトの実績

2-1 投入の実績

2-1-1 日本側

(1) 専門家派遣

日本側とキルギス側の政府代表者の間で2009年1月13日に合意・署名されたR/Dに基づいて日本人専門家が派遣された。最初の長期専門家の木村チーフアドバイザーが2009年1月に到着し、次いで同年2月に町田専門家（業務調整/参加型森林資源管理）が到着した。彼らの後任として2011年5月に徳川チーフアドバイザーが到着し、次いで2011年7月に西川専門家（業務調整/参加型森林資源管理）が到着した。5年間のプロジェクト期間における長期専門家の総派遣人月は122人月であった（2名×5年間、プロジェクト終了までの見込みを含む）。

長期専門家の活動を支援するため、延べ8名の短期専門家が派遣された。5年間のプロジェクト期間における短期専門家の総派遣人日の実績は145人日であった。プロジェクトに関するさまざまなサポートのため、現地スタッフが延べ6名（常時2名体制）雇用され、その他必要に応じて通訳が雇用された（各専門家の氏名や派遣期間は、「別添資料1. 合同評価報告書（英文）」Annex 5に示す）。

(2) 本邦研修

プロジェクト期間中に、SAEPF/Leskhozes並びにSALGIR/AO²から合計33名のC/Pが、研修のため日本へ派遣された。研修員のうち、8名がSARPFやSALGIRの政府高官を含む本庁職員であったが、残り25名はJFMパイロット事業の運営に携わっていたLeskhozoes署長、AO代表また苗床責任者など、フィールドレベルのC/Pであった〔各研修員の氏名・所属、派遣期間、コース名並びに主な訪問先を、合同評価報告書（英文）Annex 6に示す〕。

(3) 資機材供与

プロジェクト活動を円滑に実施するため供与された主な機材は、車両2台、全地球測位システム（Global Positioning System : GPS）機器、気象観測機器のほかPCなどである〔機材名と各数量を合同評価報告書（英文）Annex 7に示す〕。

またプロジェクトは、各Leskhozoes/AOでJFMパイロット事業を始めるに際して、水車、低温種苗保管施設、吊り橋などの施設の建設を支援した（各施設の種類、プロジェクトから供与された内容、費用などを、「別添資料1. 合同評価報告書（英文）」のAnnex 8に示す）。

² SAEPP（環境保全林業庁）については、担当部局のDFED（森林生態系開発局）が一時森林生態系開発課（UFED）に縮小され、2012年に再びDFEDとなる変更があった。地方自治庁（NALSG）は、2012年1月に建築・地方開発庁（SACRD）となり、2013年3月SALGIRへと再々編が続いた。本報告書の記述の中では、複数部局があったとの誤解を避けるため、すべてSALGIRとしている。

(4) プロジェクト予算（日本側）

日本側はプロジェクト活動実施に必要なプロジェクト予算を提供した。プロジェクト運営、施設設置、資機材購入、ローカルスタッフの雇用、旅費・交通費などを含んだ現地業務費の総額は5年間で105,993,000円であった（その他の支出等を「別添資料1. 合同評価報告書（英文）」のAnnex 8,9に示す）。

2-1-2 キルギス側

(1) C/Pの配置

SAEPFとSALGIRの両方から、首都ビシュケク市の本庁で働く職員とともに、現場であるJFMパイロット事業に関わる職員がC/Pとして配置された。本庁ではSAEPFからプロジェクト・ディレクターが1名、またSAEPF、SALGIRから共同プロジェクト・マネージャー2名が任命された（ただし2013年4月19日から7月26日現在まで、SAEPF側のプロジェクト・マネージャーは不在）。本プロジェクトでは、プロジェクト専属のC/Pは配置されなかったため、各職員は必要に応じプロジェクト活動に参加した。終了時評価までの過去54カ月間では、SAEPF/Leskhozesから延べ54名、SALGIR/AOから延べ19名が、主要なC/Pとしてプロジェクト活動に携わった（C/Pの氏名・所属、及びプロジェクト活動に携わった機関を、「別添資料1. 合同評価報告書（英文）」Annex 10に示す）。

(2) プロジェクト事務所及び資機材の提供

首都ビシュケク市にあるSAEPF本庁4階の森林生態系開発局（Department for Forest Ecosystem Development : DFED）内に、プロジェクト執務室（広さ約30㎡）が提供された。

(3) プロジェクト予算（キルギス側）

SAEPF/Leskhozes並びにSALGIR/AOは、それぞれに所属する職員の報酬とともに、プロジェクト活動を実施するための費用の一部を負担した。フィールドにおいてJFMパイロット事業を運営監理するため、Leskhozes並びにAOは、燃料代、資材購入代、機材メンテナンス代、人員雇用代、旅費、その他雑費などについて負担した。特にプロジェクトが施設を整備するに際しては、Leskhozes並びにAOが管理主体として求められる経費を可能な限り負担し、更に労働力や車両等の機材も提供した（チュイ州とBalykchyの各Leskhozesが、施設を整備する際に負担した経費を「別添資料1. 合同評価報告書（英文）」のAnnex 9に示す）。

2-2 成果の達成状況

以下に各指標に対応した活動実績を成果ごとに整理する。PDMの各成果に対応したプロジェクト活動の主な実績は「別添資料1. 合同評価報告書（英文）」のAnnex12、*Accomplishment Grid 2 (Accomplishment based on the activities)*に整理した。

成果 1

成果 1	指 標
イシククル州とチュイ州で選定された JFM 対象地区において、関係者を意思形成過程に参画させる JFM 実施体制が機能する。	1.1 両州で 5 カ所以上の対象地区が選定される。 1.2 対象地区において役割を理解した JFM 担当者が意思形成過程に参画する。 1.3 対象地区が JFM の実施箇所として SAEPF に認定される。

設定された上記 3 つの PDM 指標のうち、そのすべてが達成されたと判断される。以下にその主な判断理由を挙げる。

- (1) イシククル州、チュイ州、タラス州の 3 州において、合計 10 カ所に JFM パイロットサイトが選定され、そのすべてのサイトで実際に JFM パイロット事業が始まった。(指標 1.1)
- (2) 多くの JFM パイロット事業では、Leskhoz 所長と AO 代表がテナント選考委員会で主要な役割を果たしており、更に AO の土地担当者等もテナント選考委員会に参加していた。(指標 1.2)
- (3) すべての JFM パイロット事業は、SAEPF と SALGIR の担当者が参加した実務グループ会議 (Working Group Meeting : WGM) によって承認された。(指標 1.3)

成果 2

成果 2	指 標
対象地区において森林利用者による森林経営活動が行われる。	2.1 森林利用者が JFM の考え方を歓迎し、森林保全に向けた意識が JFM の活動を通して拡大する。 2.2 土地利用に関する手続き等の行政手続きが明確になる。

設定された上記 2 つの PDM 指標のうち、1 つは達成され、もう 1 つはほぼ達成されたと判断される。以下にその主な判断理由を挙げる。

- (1) 多くの JFM パイロットサイト周辺では、JFM 事業の実施を希望するテナントへの応募が増加している。また、天然林における JFM パイロット事業の関係者のほぼすべてが、プロジェクトの要請に応じて植栽活動に参加した。他方、いくつかの JFM パイロット事業では、プロジェクトにより森林が貸与され、森林管理を通じて木材生産や生計向上の手段が確保されたことにより、違法伐採された木材の利用が減ったと関係者から報告されている。これらは、森林保全や JFM に関する彼らの意識が JFM パイロット事業の実施を通じて啓発された結果だと判断される。(指標 2.1)

- (2) SAEPF が管轄する国有林野の土地賃貸に関する法制度や手続きは既に存在しているが、それらに対する関係者の理解は浅いと報告されている。プロジェクトが作成する JFM ガイドラインは、既存の法制度や手続きを簡潔に分かりやすく整理することにより、関係者の理解を促進することが目的の 1 つである。他方、これまで現場で JFM アプローチの適用を困難にしていたと考えられる既存の法制度（例：テナント選定の際のクライテリアの考え方など）については、JFM ガイドラインの作成とは別に、プロジェクトは改正素案などを提案する予定である。（指標 2.2）

成果 3

成果 3	指標
対象地区における森林経営活動。支援の実施状況が適切にモニタリングされる。	3.1 三者で共有・理解されたモニタリングの手順・指標が定められている。
	3.2 森林経営活動、支援活動に関する記録が文書化されている。

設定された上記 2 つの PDM 指標のうち、そのすべてが達成されたと判断される。以下にその主な判断理由を挙げる。

- (1) プロジェクトの支援により、Leskhozoes が四半期ごと（2012 年からは半年ごと）に提出すべきモニタリング・フォーマットと手続きを、SAEPF は改良した（指標 3.1）。
- (2) 各 Leskhozoes は、管轄する JFM パイロット事業の活動をモニタリングし、その結果をフォーマットを用いて記録し、半年ごとに SAEPF 本部へ提出している。モニタリングが四半期ごとに実施されていた期間は、報告書の提出率は極めて低かったが、プロジェクトがフォーマットを簡略化し、更に提出を半年ごとに改めた後は、すべての Leskhozoes が提出するようになった（指標 3.2）。

成果 4

成果 4	指標
JFM の実施に関するガイドラインが関係者に理解される。	4.1 対象州の各郡において 1 回以上のセミナーが開催され、郡内 AO の担当者が参加する。
	4.2 SAEPF と NALSG に JFM の実施に関するガイドラインが認められる。

設定された上記 2 つの PDM 指標のうち、現地調査時点では、そのどれも達成されていないと判断される。以下にその主な判断理由を挙げる。

- (1) JFM ガイドラインが完成次第、プロジェクトはイシクル州とチュイ州のすべての Raion（地区）において、JFM を促進するためのセミナーを実施する予定である（指標 4.1）。

- (2) JFM ガイドライン（英語版、ロシア語版）の第2案が2013年6月に完成した。この第2案に対する関係者からのコメントを求めるため、JFM ガイドラインセミナーが2013年6月に開催された。プロジェクトは、ここで集められた意見や必要な改訂案を反映させた後にガイドラインを完成させる。完成版はキルギス語へ翻訳し、より広く関係者の使用に供する予定である。またプロジェクトは、JFM 促進に必要な関連法制度の改訂に関する議論を、SAEPF とともに始める予定である（指標 4.2）。

2-3 プロジェクト目標の達成予測

プロジェクト目標	指標
環境保全林業庁（SAEPF）及び地方自治庁（NALSG）の JFM を自立的に展開する体制が強化される。	<ol style="list-style-type: none"> 1. JFM の実施に関する知識・経験を SAEPF 及び NALSG の職員が共有・理解する。 2. プロジェクトの終了までにパイロットサイトとは別のサイトで2カ所以上、キルギス側のみの努力により JFM が実施される。 3. JFM の実施に必要な規則の政令化に向けた取り組みが開始される。 4. 「JFM の実施に関するガイドライン」が関係者に活用される。

設定された4つのPDM指標のうち、2つは達成されたが2つははまだ達成されていない。ただし、すべての指標がプロジェクト終了までに達成されると予測される。以下にその主な判断理由を挙げる。

- (1) SAEPF と SALGIR の関係者の中で、JFM 実施に関する知見や経験は確実に蓄積されていると判断される。プロジェクトは一州を除いたすべての州の Leskhoz 関係者を招き、JFM セミナーを7回実施したが、JFM 実施の重要性に関する疑問は出ず、他方、JFM 活動を彼らの土地で実施したいとの多くの希望が出た。プロジェクト活動に関する最新ニュースはプロジェクト会報に整理され、SAEPF、SALGIR、Leskhoz、AO のほか、更に国立公園や国際機関などへも配布された（プロジェクト目標 指標 1）。
- (2) JFM パイロット事業が始まった Leskhoz と AO に対する聞き取り調査によれば、プロジェクトの支援を得ていない新たな JFM 活動が、既に4つの Leskhoz と3つの AO で始まったことが判明した（プロジェクト目標 指標 2）。
- (3) JFM ガイドラインの第1案が完成したことを受け、プロジェクトは SAEPF と SALGIR に対し、関連法令の適正化のための既存法制度の改正や新たな法制度の制定に関する提案書を、2012年に開催された第16回の WGM の場にて提出した。更に JFM ガイドラインの第2案が完成した際、プロジェクトは SAEPF に対し、既存の法制度の改正や新たな法制度の制定を、JFM ガイドラインが完成次第に開始するように提案した（プロジェクト目標 指標 2）。
- (4) JFM ガイドラインの第2案は既に完成しているが、現在関係者から出たコメントを反映させるなどの最終化の作業を行っている（プロジェクト目標 指標 3）。

2-4 上位目標の達成見込み

上位目標	指標
JFM 実施地域が増加する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクト対象地区以外に 10 カ所以上で JFM が実施され、それらの実施地区が国有林だけでなく村有地からも選定される。 2. JFM ガイドラインが他州においても活用される。

上位目標の達成見込みを測るには時期尚早であるが、すでにいくつかの良い影響が確認できた。以下にその主な判断理由を挙げる。

- (1) JFM パイロット事業が始まった Leskhozoes と AO に対する聞き取り調査によれば、プロジェクトの支援を得ていない新たな JFM 活動が、既に 4 つの Leskhozoes と 3 つの AO で始まったことが判明した（上位目標 指標 1）。
- (2) JFM ガイドラインの第 2 案に対するコメントを集め、それらを最終版へ反映させるため、プロジェクトは JFM ガイドラインセミナーをすべての州において実施した。またプロジェクトは、フィールド訪問のような機会を利用して、他州の Leskhozoes に対して JFM ガイドラインの促進活動を行う予定である（上位目標 指標 2）。

2-5 実施プロセスの検証

プロジェクト活動はおおむね計画どおりに進捗し、そのマネジメントは適切であったと判断される。日本人専門家は C/P との信頼関係を築くことに成功し、プロジェクト内部の人間関係も良好であった。以下に、実施プロセスに関連した特記事項を整理する。

- (1) プロジェクトのニーズに基づいた専門性を持った 4 人の長期専門家と、8 人の短期専門家が計画通りに派遣され、適切なプロジェクト活動のマネジメントに貢献した。またプロジェクト活動に主要な役割を果たしていた C/P の中から合計 33 名が日本へ本邦研修のために派遣された。彼らはキルギスへの帰国後、プロジェクト活動に対してより積極的になり、また日本で得た技術を活用したことにより、プロジェクト活動のスムーズなマネジメントに貢献した。
- (2) プロジェクト専任の C/P は、SAEPF、SALGIR の両機関ともに、プロジェクト期間を通じて配置されなかった。そのため多くの活動は、日本人専門家が直接現場に赴き、各 JFM パイロット事業のサイト関係者とともに実施された。この状況は、特に専門家から本省の C/P への技術/知識移転を困難なものとする阻害原因となった。
- (3) すべての投入のタイミング、量、内容は、プロジェクト活動の進捗状況や活動を実施するのに最適な季節などを考慮して、おおむね適切に行われた。供与された資機材はプロジェクト活動のために効果的に活用され、実施プロセスをスムーズなものにした。ただし機材の中には GPS や気象観測所のような、専門的な知識を必要とする機材も含まれており、それらを有効活用しプロジェクト活動に貢献するためには、専門家による継続的な技術指導

が必要である。

- (4) JFM パイロットサイトでプロジェクト活動を実施するのに際して、特に施設を建設するために必要なリソースは、Leskhozoes と AO からタイムリーに提供され、スムーズな JFM パイロット事業の進捗に貢献した。
- (5) 本調査までの 54 カ月の間に JCC 会議が 6 回行なわれ、プロジェクトのマネジメントに関わる関係者のコミュニケーションは十分に図られた。更に WGM が 18 回実施され、プロジェクトの実施に関わる関係者間の意思疎通も図られた。これらの会議は日本人専門家と C/P が協力してプロジェクト活動を実施するための意志決定プロセスとして重要な役割を果たした。
- (6) SAEPF と SALGIR の間で、プロジェクト実施に関する協力を促進するための覚書 (Memorandum of Understanding : MoU) が 2011 年に交わされ、両機関が協力してプロジェクト活動を推進する組織的な根拠となった。また現場でパイロット事業の運営に携わる Leskhozoes と AO の関係者は、定期会議の場を毎週設け、プロジェクト活動に関する調整をするとともに、お互いの意思疎通を図った。

第3章 評価5項目による分析

3-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は、以下の理由から「高い」と判断された。

- (1) 地域住民を森林の共同管理に巻き込む JFM アプローチは、キルギスの「森林開発基本方針」のなかの3つの柱の1つと合致している。また世界銀行が提唱する包括的援助フレームワークや、キルギス貧困削減戦略ペーパー、キルギス政府の中期開発プログラム（2012年～2014年）における開発課題とも合致している。
- (2) PDM に設定された4つの成果のうち3つ（成果1～3）が、JFM パイロット事業の発掘・形成、実施、モニタリングに関連するものである。このようにプロジェクトは、机上で理論を議論するよりむしろ、フィールドにおいて JFM 活動を実際に始めることを重点に置いたが、これは SAEPF 及び SALGIR の本省、更にフィールドで JFM 普及を担う Leskhozoes と AO の期待とニーズに合致したものだとして判断される。JFM パイロット事業により、地域住民、自治体（Ayil-Okmotues と市）、森林管理組織（Leskhozoes と国立公園オフィス）、その他関係者の合意と協力による森林管理を進めることは、それら複数主体の相互利益を確保するものであった。JFM パイロット事業（成果1～3）は PDM において5カ所以上で選定されることが規定されているが、複数のパイロット事業を実施する戦略は、JFM ガイドライン（成果4）において想定される JFM プロジェクトの活動内容や自然条件などの多様性を確保する上で妥当であったと判断される（注：これらは「効率性」を高めることにもつながった）。
- (3) キルギスの地方部における失業率は高いため、収入確保のための一手段として森林管理に参加する強い動機が地域住民の間に存在した。複数主体（Leskhozoes、AO、地域住民）の合意と協力によって森林管理を目指す JFM は、地域住民に森林管理に参加する機会を与え、それは収入手段を確保することにつながる。JFM は地域住民の暮らしの改善にも貢献するもので、地域住民の期待とニーズに合致したものである。
- (4) JFM アプローチは効果的な森林管理と同時に農村開発を実現するものである。農村開発は「対キルギス共和国別援助方針」の開発課題の1つであり、したがって本プロジェクトは、わが国の援助方針に合致したものである。

3-2 有効性

プロジェクトの有効性は、以下の分析結果から「中程度」と判断された。

- (1) 「2-2 成果の達成状況」で要約されるように、プロジェクトはプロジェクト目標の達成につながる多くの成果を得た。PDM 指標では2つの州で5カ所以上の JFM パイロット事業が選定されることが規定されているが、プロジェクトは既にチュイ州、イシクル州、タラス州の3州で10カ所のパイロット事業を実施している。これは将来展開される JFM 事業が場所、自然条件、活動内容などの多様性を確保することに貢献している。すべての JFM パイロット事業は順調に進捗していると判断され、プロジェクトは効果的に JFM 事業

を実施するための知識と経験を蓄積しており、これらの成果はプロジェクト目標の達成に貢献すると判断される。

- (2) 成果 1～3 で実施しているパイロット事業からは、成果 4 で作成している JFM ガイドラインを実効性の伴ったものにするための知見や経験を得ることが意図されている。プロジェクト目標を達成するためには、実際の JFM パイロット事業の実施を通して教訓を抽出し(成果 1 及び 2)、更に最新のモニタリング結果を分析して (成果 3)、現在作成中の JFM ガイドラインをより現場のニーズに即した使いやすいものへ改良する必要がある。プロジェクトは、JFM ガイドラインが最終化され次第、SAEPF に対し関連法制度の改正あるいは立案のために必要な支援を実施する必要がある。その上で SAEPF は、森林管理の手段としての JFM の普及活動を独自に実施するため、必要な予算措置を取るなどの努力が求められる。

3-3 効率性

プロジェクトの効率性は、以下の理由から「ある程度高い」と判断された。

(注：投入と比較して成果が効率的に得られたかに関する詳細は、「別添資料 1. 合同評価報告書 (英文)」の Annex 11～13 で分析した)

- (1) プロジェクト期間中、その時のプロジェクト進捗と状況にかんがみて、PDM は 2 回、活動計画 (Plan of Operations : PO) は 3 回改訂された。すべての活動は、状況を適切に反映した PDM と PO に基づいて実施されたため、専門家、機材、施設、本邦研修などの、日本側の投入の質・量・タイミングを適切にし、計画どおり効率的に成果を得ることにつながったと判断される。すべての日本側の投入は、プロジェクト活動のために適切に利用された。
- (2) 終了時評価までの過去 54 カ月間に、JCC が計 6 回、WGM が計 18 回行なわれた。更に各 JFM パイロットサイトでは、事業を管轄する Leskhozoes と AO が、プロジェクト調整のための定期会議を週 1 回の頻度で行った。これらの会議は、C/P と JICA 専門家の間や、更に C/P 間で緊密なコミュニケーションを可能にし、期待された成果を効率的に得ることに貢献したと考えられる。
- (3) プロジェクト・ディレクター、プロジェクト・マネージャーは配置されたものの、日々の活動を専門家とともに実施する専属の C/P は SAEPF と SALGIR 両機関とも配置されなかった。そのためプロジェクト活動の多くは、日本人専門家が中心となって実施された。この状況は日本人専門家から C/P へ対する技術/知識移転の阻害要因になったと考えられる。また JFM 促進に必要な関連法制度に関する議論を出来るだけの専門性を持った C/P は、SAEPF、SALGIR ともに限定されていたため、JFM ガイドラインの技術面の議論の阻害要因になったと考えられる。

3-4 インパクト

プロジェクト実施によるインパクトは、以下の理由から「ある程度高い」と見込まれる。

- (1) JFM アプローチは、Leskhozoes と地域住民が共同で森林を管理することを通じて相互利益を目指すものである。例えば Kok-Moinok パイロットサイトに代表される果樹栽培では、住民が経済的に多くの利益を得た事例が確認された。このようないくつかの成功ケースが、

パイロットサイト近辺を中心として広範囲にデモンストレーション効果を発揮していることが認められた。こういったデモンストレーション効果により、聞き取り調査によれば、プロジェクトの支援を得ていない新たな JFM 活動が、既に 4 つの Leskhoz と 3 つの AO で始まっている。この状況は上位目標にあるように JFM が将来キルギス全体で展開される基礎となると期待される（注：これらは「有効性」で判断されるプロジェクト目標の達成にもつながる）。

- (2) しかしながら近い将来、上位目標の指標に設定されているように、SAEPF の管轄地以外でも JFM が展開されるためには、SAEPF は広範囲でガイドライン普及のための活動を実施し、JFM を率先して促進する努力が必要である。さらに、JFM ガイドラインと関連法制度は、将来の状況に応じて SAEPF により適切に改良が繰り返される必要がある（注：これらは「有効性」で判断されるプロジェクト目標の達成にもつながる）。
- (3) 多くの JFM パイロット事業は、地域住民の雇用を生み出し代替生計手段をもたらしていることが確認された。特にキルギスの地方部においては失業率が高く、社会不安を生みだしているが、プロジェクトが雇用を生み出し社会不安の減少にも良い影響を与えていることも、聞き取り調査の結果明らかとなった。
- (4) 多くの JFM パイロット事業は、農業や観光業などの林業の周辺産業の活性化に貢献し、更に地域の活性化にもつながっていることが確認された。イシククル州 の Leskhoz の事例では、風倒木の搬出を主目的としてプロジェクトが整備した林道であったが、地域住民が家畜をより標高の高い放牧地へ移すための移動路として、またキルギスの山岳地域で盛んな Yurta（遊牧民が使う移動式の住居）を使って行う滞在型観光のアクセス・ルートとしても活発に利用されており、地域住民が副収入を得ることに貢献している。

3-5 持続性

プロジェクト終了後の持続性の見通しは、以下の理由から「中程度」と見込まれる。なお、以下に挙げる技術導入や人員・予算の確保は現状では必ずしも容易でないが、他組織との連携等によって一定程度の実現を見込むことができる（他ドナー機関の動向については別添資料 3 を参照）。

(1) 政策・制度・組織面：

JFM はキルギスの森林政策や制度と合致しており、SAEPF の管轄する土地に限っては、JFM 事業を実施する政策・制度面での持続性は高いと判断される。しかしながら SAEPF と SALGIR はここ数年、組織改編を繰り返しており、職員の JFM 事業における役割が不明確なままであるなど、組織面の持続性に不安が残る。このような組織改編が繰り返される場合、上位目標の発現に必要な JFM 普及に悪影響を及ぼすおそれがある。

(2) 技術面：

Leskhoz の職員は、JFM パイロット事業を継続的に管理するための必要十分な技術を有していると判断されるものの、GPS 調査、苗床管理、アプリコット栽培、トウヒ天然林調査など、プロジェクトが導入した技術は、今後の森林の生育状況や新たな JFM 事業のサイトの条件に合わせて、継続的な技術発展が求められる。また果実生産を次の段階へ進ませるためには、加工、運搬、販売、マーケティングなどに関しても新たな技術導入が求められる。森林技術に関する研究機関、また農業省などの他セクターとの協力を模索して JFM の更なる発展のための努力が

必要である。

(3) 人員面：

プロジェクト実施期間を通じて、SAEPF と SALGIR 本部における管理レベル職員の人事異動は頻繁であった。その一方、Leskhozės、AO などフィールドレベルの人事は比較的安定していた。多くの Leskhozės と AO では、十分な数のフィールドレベルの人員を確保しており、彼らは JFM パイロット事業の隣接する地域に JFM を普及することにも関心が高いため、フィールドレベルの人員面の持続性は確保されていると判断される。また多くの地域住民が JFM 事業に参入する意欲を示していることも持続性を高める要因となっている。他方、フィールドレベルで専門的な知識を有している人員は極めて限られているため、SAEPF 本省と協力することが求められる。

(4) 財政面：

プロジェクト期間を通じて、職員の報酬以外の SAEPF と SALGIR の予算は極めて限られていた。この状況は今後も続くと予想される。プロジェクトが支援した各種施設（フェンス、井戸、水車、低温保管施設、吊り橋など）を維持・管理するためには、今後も継続的な予算措置が求められる。また、上位目標で示されるように、JFM 事業をキルギス全体で展開するためには、外部の資金的支援を確保するなどの方法を検討すべきである。特に新たな JFM 事業を開始するためには、灌漑施設、フェンス、苗木などのための事業開始資金を確保する必要がある。SAEPF の持つ「森林基金」は、通常の政府予算より安定していると考えられるため、SAEPF は JFM 事業の普及のための利用を検討すべきである。

第4章 合同評価の結論・提言・教訓

4-1 結論

- (1) 本プロジェクトは、キルギスにおいて画期的な JFM の枠組みを実践した。政変など想定外の状況下でありながらも、パイロットサイトにおける活動を通じて、森林面積の増加、地域住民の生計向上、JFM に対する理解増進、地域組織（具体的には Leskhoz と AO）間の協力、地域住民の参加などの効果をもたらすことに成功した。サイトによっては環境教育への貢献も見られた。
- (2) 前述のとおり、パイロットサイトが立ち上げられ、成果を徐々に上げつつ活動が進められており、その経験がガイドラインとしてまとめられている。JFM がより多くの人々に理解され、より多くの場所で活用される兆候を見せている。以上から、本プロジェクトは成功裡に実施されてきたと結論づけることができる。
- (3) 一方で、JFM のより広範な展開のためには、法的枠組みや組織的な能力（SAEPF における人材や予算など）が強化される必要がある。JFM の枠組みが更に強化・活用されるためには、パートナー機関との連携の機会を模索する努力も継続されるべきである。

4-2 提言

- (1) JFM 制度は、林産品生産や環境保護など多様な活動目的に応じたものとするべきである。また、JFM 活動を公平かつ戦略的に拡大していくため、実践の結果をもとにガイドラインは定期的に見直されるべきである。
- (2) 前述のガイドライン見直しと呼応しながら、SAEPF による法令整備が検討されるべきである。更に、長期的な森林管理を担保するため、JFM 実施において専用の基金などのメカニズムが標準化されるべきである。このようなメカニズムにより初期投資が促進され、JFM 普及の加速につながることを期待される。
- (3) 国有林野以外の土地においても JFM を普及させるため、SAEPF と SALGIR の間の協力が更に強化されるべきである。
- (4) SAEPF と SALGIR において JFM を担当する職員の能力を更に強化すべきである。
- (5) JFM の普及拡大のため、農業セクター、大学・研究機関、ドナー機関、NGO など関連する団体とのネットワークを強化すべきである。また、JFM 実施サイト間の相互学習のため、優良事例や知見を共有すべきである。

4-3 教訓

- (1) 参加型の JFM は、森林面積の増加に加え、地域住民の理解や生計の向上に関しても効果的である。また、公共インフラストラクチャーや、生産や観光などの関連産業の発展にも寄与する。
- (2) 森林及び地方自治の両セクターの地域組織（具体的には Leskhoz と AO）が参加することにより、JFM 実施のために効果的な体制となっている。これはキルギスの実態にも馴染むものである。

- (3) 本プロジェクトは、机上で理論を議論するよりも現場で実践することに重点を置いている。パイロットサイトでの活動を通じて実務的なガイドラインが作成され、関係者による理解と参加を促進している。

第5章 所感

5-1 団長所感（JICA 宍戸健一）

キルギスにおける Joint Forest Management（共同林管理）は、ソビエト連邦時代の国有林経営の組織である Leskhoz（営林署）が管理する森林（実際には荒廃地している箇所が多い）の有効活用を図るため、Ail-Okumotu（村）と協力し、有償で住民に土地を貸与し、林産物生産のビジネスを振興するものである。

本プロジェクトは、評価結果に記載のとおり、法律は存在しながら具体的なルールや実務的なガイドラインが存在せず、関係行政機関の職員ですら理解していなかった JFM に関して、北部 2 州 10 カ所のサイトにおいて、制度面の課題のみならず、技術的な課題も解決し、パイロット事業を成功させた。パイロット事業に参加した地域住民の中には既にアプリコットの販売により大きな収入を得ているものもあり、注目を集めたことは特筆に値する。これらの現場の活動と並行して、ガイドラインづくり・政策提言、関係職員の能力強化を行い、当初のプロジェクト目標を達成する見込みである。さらに、調査団帰国後には、プロジェクトが提案したガイドラインが正式に承認されたことも特筆に値する。

今後の課題は、本プロジェクトにより構築された JFM の枠組みを他地域に広げていくために、他州の LH や AO を通じた住民への普及活動や住民が事業を推進するうえでのインセンティブ（灌漑施設の整備や苗木の提供など）のための予算を確保する必要がある。調査団としては、キルギス政府の自助努力を強く促すとともに、JFM の普及について、他のドナーの理解と支援を得ていく必要がある。

ドナーや関係者からの情報によれば、キルギス政府の中長期課題として、国有財産である国有林を生かした経済の活性化のため、一層の民間セクターの資金や活力を導入することを目指しているが、キルギス政府が森林管理・活用を強化し、新たな課題に取り組んでいくためには、国のトップクラスのリーダーシップが必要との指摘があった。

今回の調査団滞在中、キルギス側より、再三にわたり、プロジェクト終了後も引き続き協力を継続してほしいとの要望が出された。特に森林分野の①法令制度整備、②育種の分野などのニーズが高いとのことであった。本件は、キルギスにおいて実施された森林分野の第 1 号の事業であったにも関わらず、法令やガイドライン整備という国有林経営の根幹にかかわる活動について要請を受けたということは、本プロジェクトの派遣された専門家の 5 年間の活動が高く評価された証と言える。

本プロジェクトのアセットを生かした今後の協力については、JICA の対キルギス支援方針の 1 つである「農業・ビジネス振興」に合致する形で、JFM の一層の普及及び生産された林産物の加工・販売などに取り組むことが望ましいと考える。

5-2 技術面から見た所感（林野庁 井上幹博）

7月16日から19日まで、JFMプロジェクトで実施した10カ所のパイロットサイトのうち8カ所を視察した。プロジェクト側からの情報も含め、これらのパイロットサイト等で気がついた技術面での感想及び所感は以下のとおりである。

5-2-1 パイロットサイトの視察

(1) コクモイノク

当プロジェクトサイトは、植栽時期が雨量の関係から春の短い期間に限られ、また、植樹対象地が1,600mから2,100mまで標高差が500mにも及ぶ。バリクチ LH 所長の提案を受け JICA で設置した苗木の低温貯蔵庫は、適期な発芽や霜害の防止という観点から、今後の有効利用が期待される。

室温は-5℃以下に保つこととしているということであるが、わが国におけるトドマツの試験例でも-5℃程度が最も活着率がよかったという過去の報告例があり、わが国の経験的にも適切な判断である。苗木の貯蔵方法としては、裸根を丸出しにしてその回りに氷塊を置くという荒っぽい処置である。ピートモスやこもで巻くことで根茎を保護したほうが細根の保護のためにもよいと思われるところではあるが、とりあえず現行方法による活着の結果を観察していただきたい。



イシクル州は盆地形状になっており、西は乾燥度が高く、東に向かうにつれて降水量が増え緑が多くなる地理条件となっている。当プロジェクトサイトは、盆地の最西に位置することから、最も乾燥度が高く、特に水の確保に苦労する場所である。

中間評価時の際に、給水の有効利用を図るために水分吸収能力に勝る灌木や雑草の潔癖除草が提案され、これを受けて JFM プロジェクトではコクモイノクに潔癖除草の試験地を設定している。今回この試験地を視察したが、除草がどれほどの効果があったかは、判然としない状況であった。なお、先方からは、除草によりアブラムシの害が増えたこと、灌水後、雑草がすぐに侵入してきてしまうとの話があった。当該試験地では重機による除草作業跡が上部から下部へ筋状につけられているが、給水が果樹のある溝にどの程度有効に流されているかどうかも含めて、観察を続けてもらいたい。限られた水源しか得られない土地なので、緑化面積の拡大のためには、灌水方法にしても、経済的に許せば、パイプ灌水など水の有効利用のための工夫の検討も必要となってくる。



(2) カラサエフ

当該サイト近郊の標高 2200m 程度の北斜面放牧地において、昨年（2012 年春）首長が自主的にマツを植えた場所がある。今回視察したところ、一部には上部は枯れているものの下部がかろうじて生存している稚樹もあったが、大多数は枯死していた。昨年春に植付け、秋までは順調に成育していたとのことであるが、越冬時に大多数が枯死してしまったようである。

この原因としては、キルギス側からは、土壤に問題があったのかもしれないとの話もあったが、むしろ、冬の積雪が増す前に寒風害でやられた可能性も大きい。その他の要因も含めて枯死の原因を探っていただきたい。当地は一定の水分量が確保される場所とみられ、植林面積拡大に大きく寄与できる可能性があると考えられるので、来春以降、トウヒやカバなどの植栽試験を行って、活着・成長の様子を観察してはどうか。



(3) ジュティ・オグス

従来牧場として使用してきた場所を柵で囲ってトウヒ及びマツを植林している。マツは苗木の管理が悪かったようで、活着率は悪い。周囲にソビエト連邦時代に植えた 40 年生程度のトウヒ、カラマツ、マツ、広葉樹の人工林があり、それぞれ樹高は高くはないが一定の成長を示しているため、樹種的には多くのものが対応可能な場所といえる。活着率の高低が生じるのは、苗木の管理方法の差によるものといえよう。

今回の植栽地は牧場跡地で牛によって長い間踏み固めが行われた場所であるから、初期成長はそれほど期待できないかもしれない。なお、写真に見られるように給水車で稚樹に灌水をしていたが、視察日前後の気象状況を考えると過大という印象を持った。



(4) トン

乾燥が激しい場所であるが、テナントが自主的にパイプ灌水施設を作って、湖近接地の井戸からの水を灌水して水の有効利用を図っている。若干塩分が含まれる水であるということであるが、施肥もうまくされているようで、成長はよく、テナントの個人的な努力が成功している例といえよう。



当該地はイシクル湖に隣接しており、湖岸にはソビエト連邦時代に造成したポプラ林が美しい。造成時は稚樹への給水に相当な努力が払われたらしいが、現在は成長もよく周囲には天然下種更新の稚樹が多く見られる。イシクル湖の塩分濃度は海水の6分の1程度であるので、ポプラの中でも耐塩性の強い樹種・品種を選んでいけば、無尽蔵にあるイシクル湖の水が浸透する湖岸一周にグリーンベルトを造成することも夢物語ではない。



(5) アクベシン

当地の LH の苗畑において、1 人の女子職員は、日本の技術指導の結果、すばらしい接木手としての技能を持っていることが判明したとのことである。このような接木の才能が日本の支援で発掘されたことは素晴らしく、その技術の有効活用が期待される。



(6) ケゲティ

暴れ川の河川改修のための導流堤を重機で設置し、その後背地に広葉樹を植栽したものであるが、植栽木のなかには枯れたものもかなり見られる。視察時の季節には、川の水面と河川敷の高さにそれほど違いはないように見られたが、乾期には流水面が下がり、砂地の河川敷は地下水位が稚樹の根より相当低くなってしまっている可能性がある。ある程度の期間、根が深く張るまでは、給水の必要がある。



当地では JFM プロジェクトの初期に、マツ枯れによる枯損木処理と有効利用のために炭焼きが提案され、炭焼き釜が設置されたものである。しかし、現在、周囲のマツ人工林のマツ枯れは治まり、炭窯は利用されていない。この国では自然資源の保全は重要であり、森林からの継続的な木材供給量が見込めるような状況ではないので、今後この炭窯の継続的な活用や普及が望めるわけではないと思われるが、たとえば、林業体験学習施設として時々利用することは考えらる。



(7) イワノフカ

水車で水をくみ上げ、川岸のヤナギ等に灌水している。JICA 協力のモニュメントとしても、ユニークな存在である。水車施設は簡易な作りなので、高水時には上流からの流下物により、しばしば破損することがあるとのことであり、今後とも先方による適切なメンテナンスが必要である。



(8) ジャンパフタ

プロジェクトのパイロットサイトの中でも、もっとも古い箇所である。サイトの全体図は1万分の1に、テナントの図面は5,000分の1で作成され、契約書に添付されていることを確認した。

サイトの周囲は、成長のよいポプラ林で囲まれている。当該地域の土壌は塩分度が強いが、これに適する品種のものが使われている由である。イシククル湖岸の植林拡大可能性を考える場合にも通じるが、土壌にあった樹種・品種を選抜して利用することは、結果として事業費や労力を軽減することにもつながっていくので、育種・増殖の経験の浅いキルギスでは、今後とも当該分野の技術力向上が図られることが望まれる。



5-2-2 ビシュケク市郊外のチュイ LH（営林署）の現場視察

チュイ LH（営林署）の4つの苗畑のうちの1つ及びその裏山の植栽地を視察した。

当該苗畑は1人のテナントに貸付され、テナントが生産した苗木（コノテガシワなど庭園用の販売が主）を折半して分収する契約になっている。現在はテナントが病気で、苗木への給水が行われていないということで、苗木の枯死が始まっていた。この苗畑の裏山は、40年余り前に LH により、上部にニレ、中央部にアンズ、下部へピスタチオが植栽されたものであるが、2年前に LH の直轄からテナントへの貸付に移行したとのことである。

これらの苗畑や植樹地のテナントへの貸付は、広い意味では JFM 推進のための活動の一部ともいえようが、LH が技術開発・普及を含めた地方の森林管理機関としての役割をどのように担うかの戦略が明確になっていなければ、安易な土地貸し業に陥り、森林への投資がなおざりになってしまうおそれがある。このため、中央の SAEPF と LH の関わり合いのあり方も含めた適切な制度の運用を図っていくことが必要となる。これは、簡単に解決される問題とはいえないが、JICA の JFM プロジェクトでは、LH 署長にメインプレイヤーとしての役割を担わせ、地についた活動により、JFM の成果を積み上げていくことの大切さが確認されている。今後、他ドナーによる森林セクターのリフォーム構想が検討されるような際には、観念的な制度面の改革のみが議論の中心になることのないよう、検討の場に参加し、JICA の JFM プロジェクトの経験が生かされるよう意思疎通を図っていくことが重要である。

5-2-3 JFM ガイドラインについて

プロジェクトでは、現地調査時点で2次ドラフトまでが作成されているが、今後とも内容の見直しを行うべきとの提言が、評価チームによりなされており、キルギス全体で普遍性をもって使えるガイドラインとなることが期待されている。よりわかりやすくかつ関係者に受け入れやすくするために、まず次のような整理から始めることも一考と思料する。

- (1) JFM の定義を明確に示すという観点から、ドラフト本文の「1-1」節の最後の7行は独立した節とする。
- (2) 普遍的な記述に近づけるという観点からは、本文中では、具体的なパイロットサイト名は明示しないで、添付資料（Reference 2）の具体的事例の箇所ごとの説明文書または表中に、本文の該当箇所を示すようにする。
- (3) 添付資料は、すべて Reference となっているが、JICA によるパイロットプロジェクトの実施例は、それ以外のものとは別々に整理しておくほうが分かりやすい。具体的には、

ドラフトの Reference 1～4 については、Example として整理する。

- (4) 新規植栽に要する費用、及び樹種タイプ別の貸付料分収割合 (Reference 6 の分収例の表) については、投資者の最大の関心事項である。まずは Example として事例を示すとともに、計算方法や普遍化の方向性の考え方を示していく。

添付資料

- 添付資料 1 合同評価報告書（英文）
- 添付資料 2 第7回合同調整委員会ミニッツ（英文）
- 添付資料 3 他ドナー機関の主な動向（面談結果概要）

**The Joint Terminal Evaluation Report for
the Project for the Support for Joint Forest Management in
the Kyrgyz Republic**

July 25th, 2013

The Joint Evaluation Team

< Kyrgyz side >

(Kyrgyz Team Leader)

Mr. Chyngojoev Abdymital

Mr. Aliev Mairambek

Mr. Mendekeyev Rahmankul

< Japan side >

(Japanese Team Leader)

Mr. Kenichi Shishido

Mr. Mikihiro Inoue

Mr. Kenji Kitamura

Mr. Koji Asano

Note: This report has been prepared in both English and Russian. In case of any discrepancy, the English text shall prevail.

Table of Contents:

Chapter 1: Outline of the Terminal Evaluation		
1.1	Background	1
1.2	Objectives of the Terminal Evaluation	1
1.3	Members of the Terminal Evaluation Team	2
1.4	Schedule of the Mission	2
1.5	Outline of the Project	2
1.6	Methodology of the Terminal Evaluation	3
Chapter 2: Achievements of the Project		
2.1	Results of Inputs	4
2.2	Project Progress	5
2.3	Progress Towards the Project Purpose	6
2.4	Prospect of Achieving the Overall Goal	7
2.5	Implementation Process	7
Chapter 3: Review by the Five Criteria		
3.1	Relevance	7
3.2	Effectiveness	8
3.3	Efficiency	9
3.4	Impact	9
3.5	Sustainability	10
Chapter 4: Results of Terminal Evaluation		
4.1	Conclusions	11
4.2	Recommendations	11
4.3	Lessons Learned	12
Annex		
A.1	PDM	
A.2	PO	
A.3	Study Schedule of the Mission	
A.4	List of Interviewees	
A.5	List of Japanese Experts	
A.6	List of Participants in the Trainings in Japan	
A.7	List of Equipment Supported by JICA	
A.8	List of Principal Facilities Supported by JICA	
A.9	Project Budget	
A.10	List of Counterpart Personnel	
A.11	Accomplishment Grid 1(Accomplishment based on the Indicators)	
A.12	Accomplishment Grid 2 (Accomplishment based on the Activities)	
A.13	Evaluation Grid	

Abbreviation:

AO	Ail-Okumotu (Local Self-Governance Unit)
CFM	Collaborative Forest Management
C/P	Counterpart(s)
DFED	Department for Forest Ecosystem Development
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations
GPS	Global Positioning System
Jamaat	Community-based organization
JCC	Joint Coordinating Committee
JET	Japanese Expert Team
JFM	Joint Forest Management
JICA	Japan International Cooperation Agency
KGS	Kyrgyz Soms
KIRFOR	Kyrgyz-Swiss Forestry Support Program
LH	Leshoz (Forestry enterprise or District Forest Office)
M/M	Minutes of Meeting
NALSG	National Agency for the Affairs of Local Self-Governance
NAP	National Action Plan for Development of Forestry in Kyrgyzstan (2006-2010)
NFP	National Forest Programme of the Kyrgyz Republic (2005-2015)
NGO	Non-Governmental Organizations
ODA	Official Development Assistance
OECD/DAC	Organization for Economic Cooperation and Development/Development Assistance Committee
PDM	Project Design Matrix
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussion
SACRD	State Agency for Construction and Regional Development
SAEPF	State Agency for Environmental Protection and Forestry
SALGIR	State Agency for Local Self Governance and Interethnic Relations
SDC	Swiss Agency for Development and Cooperation
SFF	State Forest Fund
SPA	Special Protected Nature Area
UFED	Unit for Forest Ecosystem Development
WGM	Working Group Meeting

Chapter 1: Outlines of the Terminal Evaluation

1.1 Background

During the former USSR times from 1925 to 1950, a great deal of forests in the Kyrgyz Republic was felled mainly because of the wartime provision of timbers during the Second World War. This resulted in decrease of the forest dimension from 1,194 thousand ha in 1930 to 691.6 thousand ha in 1956. Afterwards, by implementation of the reforestation policies, the forest has been on the way to recovery, although forest management that includes cull felling and other measures has not been appropriately done due to financial difficulty and manpower shortage. As a result, it is observed that the forest has deteriorated to an extent which resistance of the forest has become weak occasionally to damages from disease and insects.

After the independence from the USSR in 1991, the Kyrgyz Republic has been undertaking reform towards the market-oriented economy. In the forest sector, SAEPF installed the National Forestry Department in 1997 as a core government body to execute an appropriate management of forest, and began to tackle the administration reform that includes privatization of profitable productions in the state forest. Specifically, with cooperation by SDC in Switzerland for the forest sector program, KIRFOR that started in 1995, SAEPF had developed the legal system for the forest sector, information service and others. The Forest Code that provides a base for sustainable forest management has come into force in 1999. The forest policies were also formulated that include Concept of Forestry Development in the Kyrgyz Republic (2004 to 2025), National Forest Program (2005 to 2015), and National Action Plan for Development of Forestry of the Kyrgyz Republic (2006 to 2010).

One of the three pillars of Concept of Forestry Development is aimed at introduction of Joint Forest Management (JFM)¹ and in fact some projects were implemented at five sites in Jalal-Abad Province and at three in Issyk-Kul province in 2008. However, though JFM was specified and presented as a development policy, guideline or code of practices and the institutional system to support the various activities of JFM were insufficient. Therefore, capacity building of the officers involved in implementation of JFM, as well as empowerment of the execution system, has come to be key issues. Under the above situations, the Government of the Kyrgyz Republic requested to the Government of Japan the technical cooperation for the reforestation and the preservation in 2007. In response to the request, the project finding study was conducted in 2007 and also the preliminary study was done in 2008. Thus, the R/D for this Project was concluded on 13 January 2009.

The terminal evaluation is required to be conducted six months before the Project comes to an end in January 2014 by JICA's guideline for project evaluation.

1.2 Objectives of the Terminal Evaluation

The objectives of the terminal evaluation are:

- 1) To confirm the actual inputs and activities, implementation process, the degree of the achievements of the outputs, and the prospects of achieving the project purpose and overall goal according to the Project Design

¹ The term JFM means ways of reforestation, afforestation and management of unused land by the local population (community), on its own initiative. Collaborative Forest Management (CFM) activities – on decree No.377 (27th July, 2001), and provision for lease and use of SFF based on decree No.482 (19th October, 2007) are one of the realization mechanisms of JFM. JFM is an approach of forest management based on multiple partnerships for mutual benefit, which includes local people, local self-governance bodies (ayil okmotu and city), territorial state forest management bodies (Ieskhozes, and State park office) and other parties.

Matrix (PDM);

- 2) To assess the Project from the five evaluation criteria - Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability – based on the JICA's guideline for project evaluation; and
- 3) To make recommendations on the measures to be taken during and beyond the remaining project period in consultation with agencies concerned, and draw lessons learned for similar technical cooperation projects in future.

1.3 Members of the Evaluation Team

Members of the Joint Evaluation Team are as follows:

<Kyrgyz side>

Name	Role	Position / Organization
Mr. Chyngojev Abdymital	Kyrgyz Team Leader	Deputy Director, SAEPF
Mr. Aliev Mairambek	Project Evaluation	Head, Unit for Forestry, Plantation and JFM, DFED, SAEPF
Mr. Mendekeyev Rahmankul	Project Evaluation	Head, Monitoring Unit, SALGIR

<Japan side>

Name	Role	Position / Organization
Mr. Kenichi Shishido	Japanese Team Leader	Deputy Director General, Global Environmental Department, JICA
Mr. Mikihiko Inoue	Forest Management	Senior Policy Analyst for Overseas Forestry, Forestry Agency, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
Mr. Kenji Kitamura	Planning Cooperation	Technical Advisor, Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environmental Department, JICA
Mr. Koji Asano	Analysis & Evaluation	Senior Engineer, Environmental Science & Engineering Department, Nippon Koei Co.,LTD.

1.4 Schedule of the Mission

The study schedule of the mission is attached as Annex 3.

1.5 Outline of the Project

According to the PDM Ver.3 approved in the fourth JCC held in June 23rd, 2011, the outline of the project is as follows (Annex 1 and 2);

<Overall Goal>

JFM implemented areas is increased.

3

<Project Purpose>

Framework for expanding JFM in a sustainable manner by the State Agency for Environmental Protection and Forestry (SAEPF) and National Agency for the Affairs of Local Self-Governance (NALSG) is strengthened.

<Outputs>

1. JFM mechanism on involving stakeholders into decision-making are functioned in the Project Sites of JFM in Issyk-Kul Province and Chui Province.
2. The forest management activities are implemented by Forest Users in the Project Sites of JFM.
3. The forest management activities by Forest Users and the supporting activities by Leshozes and Ail-Okumotues in the Project Sites of JFM are monitored properly.
4. JFM implementation guideline is comprehended among relevant organizations.

<Project Target Area>

Capital (Bishkek) and Chui/Issyk-kul Provinces (initially)

1.6 Methodology of the Terminal Evaluation

The terminal evaluation was conducted in accordance with “the JICA New Guideline for Project Evaluation, Ver.1 (June 2010)”, which essentially follows “the Principles for Evaluation of Development Assistance, 1991” issued by OECD/DAC. The Project Design Matrix (PDM) Version 3, which was confirmed on June 23rd, 2011 at the fourth JCC, was used as principle reference for the study.

As a framework to collect relevant data and information as prescribed in the JICA’s evaluation guideline, two types of grid – Accomplishment Grid and Evaluation Grid – were elaborated. Japanese Expert Team (JET) was requested to provide information to fill out the two Accomplishment Grids and the Evaluation Grid, while Kyrgyz counterparts were requested to fill out the questionnaire developed by the Japanese Evaluation Team. During the stay of the Japanese Terminal Evaluation Team in the Kyrgyz Republic, the Joint Evaluation Team (hereafter referred to as “the Team”) interviewed a broad range of stakeholders from partner governmental institutions to local communities who were involved in the Project, and collected information (interviewees are listed in Annex 4). Findings from literature surveys, questionnaire surveys, interviews and field observations were analyzed and used for filling out two grids. Finally, the Team assessed the level of achievements based on the five criteria, made recommendations, and drew lessons learned.

The criteria used for the evaluation are followings:

Criteria	Brief Explanation
Relevance	To be assessed by considering the validity of the project purpose and overall goal of the PDM, in light of development policies of the Government of the Kyrgyz Republic as well as the Japanese cooperation policy.
Effectiveness	To be assessed by considering what extent the Project has achieved its project purpose, clarifying the relationship between the project purpose and outputs of the PDM.

Efficiency	To be assessed by comparing outputs and inputs in terms of timing, quality, and quantity.
Impact	To be assessed in terms of positive/negative and intended/unintended influence caused by the Project.
Sustainability	Prospect of sustainability is to be assessed from institutional, financial, technical, and human resource viewpoints by examining the extent to which the achievements of the Project will be sustained after the Project will be terminated.

Chapter 2: Achievements of the Project

2.1 Results of Inputs

< Japanese side >

1) Dispatch of Expert

In accordance with the R/D, which was agreed and signed on 13 January 2009 between Kyrgyz and Japanese authorities concerned and was amended on 29 January 2010 at second JCC, the Project was officially launched upon the arrival of the first Chief Advisor of JET, whose name was Mr. Yuzuru Kimura. Subsequently or soon afterward to Mr. Kimura, three long-term experts were dispatched by turns. The entire dispatch period of four long term experts are (will be) totaled for 122 man-month over the five years. To complement works of long-term experts, five short-term experts were dispatched totaling for 145 days. Besides, the JET has been hiring local staffs, who have facilitated JET for many aspects of project implementation. (Annex 5)

2) Trainings in Japan

A total of thirty three(33) counterparts from SAEPF/Leskhozes and SALGIR/SACRD/NALSG/Ail-Okumotues have participated in the training courses in Japan over the project period. Trainees include high officials from their HQs, while most of them were from local offices of SAEPF and SALGIR/SACRD/NALSG such as Directors of Leskhozoes and Heads of Ail-Okumotues. (Annex 6)

3) Provision of equipment

To facilitate project activities, equipment including two vehicles, GPSs, PCs and so on was procured by JICA. (Annex 7)

4) Local Cost

JICA has provided necessary local cost to carry out project activities. The disbursement including cost for operation, facilities, equipment, materials, local employment, travel expenses and so on is totaling JPY 105,993,000 of the budget basis over the five years. (Annex 8 and 9)

(Kyrgyz side)

5) Assignment of Counterpart Personnel

Counterpart personnel of the Project were assigned by both SAEPF and SALGIR/SACRD/NALSG to work in their headquarters in Bishkek as well as in their local offices which govern respective project pilot sites. By the time of terminal evaluation, over the past fifty four (54) months, the total of fifty four (54) staff members from SAEPF/Leskhozes and nineteen (19) staff members from SALGIR/SACRD/NALSG/ Ail-Okumotues have been considered as the Project C/Ps. (Annex 10)

6) Office Space and Facilities/Materials

Office space (approx. 30 m²) for the Project was provided by SAEPF in the building of its headquarters in Bishkek.

7) Project Cost

SAEPF/Leskhozes and SALGIR/SACRD/NALSG/Ail-Okumotues have provided a part of local costs for project activities that include vehicle fuel and maintenance, hiring labors, travel expenses and other miscellaneous. Leskhozes and Ail-Okumotues had disbursed their own resources substantially for implementing project activities in the JFM pilot sites especially for the installment of facilities.

2.2 Project Progress

Achievements and progress of the Project were examined using two Accomplishment Grids – one for accomplishment based on the Indicators, and another for accomplishment based on the Activities (Annex 11 and 12). Key achievements and progress are described below.

1) Output 1

- (1) Nine in Issyk-Kul and Chui and one in Talas, a total of ten pilot sites were selected. (Indicator 1.1)
- (2) There were many cases of that person in charge for lands in Ail-Okumotues have taken part in the tenant selection committee. Besides, directors of Leskhoz and heads of Ail-Okumotu took major role in the tenant selection committee in many cases. (Indicator 1.2)
- (3) All pilot sites were approved by WGM. (Indicator 1.3)

2) Output 2

- (1) The number of application for JFM tenant recruitment at each pilot site has been increasing. (Indicator 2.1)
- (2) Almost all members of JFM pilot sites in natural forest areas have participated in planting activities etc., because of their consciousness on forest conservation was raised by the Project. (Indicator 2.1)
- (3) As a result of project activities, forest users became not use the wood of illegal logging in some JFM pilot sites. As the Project secured forest for their timber production or the revenue from forest activities. (Indicator 2.1)
- (4) Although the regulatory procedures on land lease already exist, level of understanding in staff concerned is considered to be low. The Guidelines will provide summary of existing regulatory procedures in precise and comprehensive manner that is expected to deepen their understanding. (Indicator 2.2)

- (5) For existing legislations, which are considered to have been making the JFM application difficult (e.g. tenant selecting criteria, etc.), possible revision is to be suggested separately from the preparation of the Guidelines. (Indicator 2.2)

3) Output 3

- (1) SAEPF has a monitoring format and procedures to receive information from Leskhozoes in every quarter (from 2012, every half a year). (Indicator 3.1)
- (2) Leskhozoes are responsible to monitor activities in JFM pilot sites, and to submit monitoring reports using above mentioned monitoring format to SAEPF HQ every half a year. (Indicator 3.2)
- (3) When monitoring was carried out quarterly, the submission ratio was considered to be low, however, after revising monitoring format, and at the same time, made it to be submitted every half a year, all Leskhozoes became to submit. (Indicator 3.2)

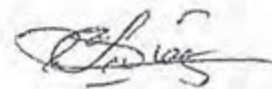
4) Output 4

- (1) As soon as the Guidelines will be completed, the Project plans to conduct seminars in each Raion(district) of Issyk-kul and Chui Oblast to promote JFM application. (Indicator 4.1)
- (2) Second draft of the Guidelines (English and Russian version) was completed in June 2013. (Indicator 4.2)
- (3) JFM guideline seminar was held in June 2013 to collect comments on the second draft. After collection of opinion and amendment necessary, the Project will translate the Guidelines into Kyrgyz language. (Indicator 4.2)
- (4) The Project will discuss on proposal of necessary revision of related legislations to promote JFM. (Indicator 4.2)

2.3 Progress towards the Project Purpose

- 1) The understanding on JFM implementation among relevant staff of SAEPF and SALGIR is considered to be deepening enough. Since project conducted seven seminars, invited concerned staff of Leskhozoes in all provinces, and there was no doubt on the importance of JFM; on the other hand, there found many needs for similar JFM activity in their territory. (Project Purpose Indicator 1)
- 2) Latest news concerning project activities has been provided by newsletters widely not only to SAEPF, SALGIR, Leskhozoes and related Ail-Okumotues, but also to all State Parks, State Nature Reserves and international organizations. (Project Purpose Indicator 1)
- 3) According to survey to Leskhozoes and Ail-Okumotues where pilot sites were established, new JFM activity without Project's support has started in the territory of four(4) Leskhozoes and three(3) Ail-Okumotues. (Project Purpose Indicator 1)
- 4) When first draft of the Guidelines was presented, to promote legalization process, the Project suggested on new regulations or amendment of existing regulations to SAEPF and SACRD at the sixteenth WGM in 2012. (Project Purpose Indicator 2)

3
7



- 5) When presented the second draft of the Guidelines, the Project suggested SAEPF to initiate drafting of new or amendment of regulations after completion of the Guidelines. (Project Purpose Indicator 2)
- 6) The second draft of the Guidelines has prepared, yet to be finalized after integrating comments from related parties. (Project Purpose Indicator 3)

2.4 Prospect of achieving the Overall Goal

- 1) According to survey to Leskhozoes and Ail-Okumotues where pilot sites were established, new JFM activity without Project's support has started in the territory of four(4) Leskhozoes and three(3) Ail-Okumotues. (Overall Goal Indicator 1)
- 2) The Project sought opinion in the seminars held in each province of the country in order to improve the second draft of the Guidelines. (Overall Goal Indicator 2)
- 3) The JFM Project plans to diffuse the Guidelines to Leskhozoes of other provinces using occasion such as field visit. (Overall Goal Indicator 2)

2.5 Implementation Process

- 1) Four long-term experts and eight short-term experts were dispatched as planned. Thirty three trainees who were key members of the project activities were sent to Japan.
- 2) C/Ps under exclusive assignment has not been existed in SAEPF and SALGIR; therefore, many of the Project activities had been implemented by JICA side. This situation made technology/knowledge transfer from the project experts inefficient.
- 3) The timing of the procurement of equipment was decided in consideration of the project progress and season. The supplied equipment was used effectively. However, it is necessary to guide for the practical use of technical equipment such as GPS and weather station.
- 4) Leskhozoes and Ail-Okumotues had disbursed their own resources substantially in timely manner for implementing project activities especially for the installment of facilities.
- 5) By the time of terminal evaluation, over the past fifty four (54) months, JCC meetings were conducted five times. Besides, WGMs have been held 18 times, which functioned as the table of decision making between JET and C/Ps.
- 6) Memorandum of Understanding(MoU) for cooperation between SAEPF and SALGIR was made in 2011. Leskhozoes and Ail-Okumotues who are managing JFM pilot project had weekly regular meetings to have coordination for the Project.

Chapter 3: Review by the Five Criteria

3.1 Relevance

The relevance of the Project is evaluated as "high" from the following reasons.

- 1) Project's JFM approach to involve local residents in Joint Forest Management is concordant with one of the

main aims of the forest policy of the Kyrgyz Republic. The Kyrgyz Republic is a pilot country of the Comprehensive Development Framework (CDF) which the World Bank advocated, and decided upon the second State Poverty Reduction Strategy (PRSP) and adopted the Medium-Term Development Program (2012-2014) by the Government of the Kyrgyz Republic in April 2012.

- 2) Activities of Output 1, 2 and 3 were concerning the initiation, implementation and monitoring of JFM pilot projects. The approach to start JFM practices in the field rather than developing theory on the desk is relevant considering the needs and expectation of implementing agencies and local residents. Pilot projects has demonstrated advantages of JFM approach of forest management based on multiple partnerships for mutual benefit, which includes local people, local self-governance bodies (Ayil-Okmotu and city), territorial state forest management bodies (Leskhozoes, and State Park Office) and other parties. Activities of Output 1, 2 and 3 were planned to be utilized for developing the Guidelines in Output 4. Five or more pilot sites were to be selected in the project plan. This secures the diversity of the contents of location, natural conditions, and activity of pilot projects.
- 3) It is the approach of the Project to advance forest management under the agreement among Leskhozoes, Ail-Okumotues, and forest users that meets local resident's needs. Unemployment rate especially in interior part of the country is very high. There were strong needs in local residents to have income source. The approach for forest management of the Project is to support local residents to improve their livelihood by providing way of income through JFM project.
- 4) The JFM approach seeks the way to realize rural development and effective forest management at the same time. Rural development is one of the three priority areas for Japan's development assistance policy in the Kyrgyz Republic.

3.2 Effectiveness

The effectiveness of the Project is evaluated as "medium" from the following reasons.

- 1) The Project has already achieved most of its Outputs as summarized in "2.2 Project Progress". PDM states to have more than five pilot projects in two provinces in its indicator. The Project undertook ten model JFMs in the province of Chui, Issyk-Kul and Talas, that secured the diversity of the contents of location, natural conditions, and activity. All pilot projects have been successfully implemented, and the Project effectively accumulated knowledge and experience for the establishment of JFM projects in the whole Kyrgyz Republic.
- 2) Activities of Output 1, 2 and 3 were designed to extract lessons for developing the Guidelines in Output 4. To achieve the Project Purpose, the Project needs to further integrate the latest results of the monitoring (Output 3) at the same time, lessons learned obtained through implementation of pilot projects (Output 1 & 2) into the Guidelines. As soon as finalizing the Guidelines, the Project needs to support SAEPP on drafting of amendment or/and new regulations concerning JFM. Besides, SAEPP HQ needs to work for the diffusion of the Guidelines and to promote JFM application on the forest management in the state, Also SAEPP is expected to have an effort to get an additional budget for JFM dissemination.

3.3 Efficiency

The efficiency of the Project is evaluated as “moderately high” from the following reasons.

- 1) In view of the project progress and the situation at the time, PDM was revised twice and PO was revised three times. Activities have been conducted according to the latest version of PDM and PO. The revised PDM and PO made it possible to have appropriate input of experts, equipment, facilities, training in Japan and so on, and contributed to have outputs efficiently as expected. All inputs from Japanese side were properly used for project activities.
- 2) By the time of terminal evaluation, over the past fifty four (54) months, JCC meetings were conducted 5 times, and WGMs have been conducted 18 times. Leskhozoes and Ail-Okumotues who are managing JFM pilot project had weekly regular meetings to have coordination for the Project. The periodical and daily communication between Japanese experts and C/Ps as well as among C/Ps contributed to have expected outputs efficiently.
- 3) Although, the Project Director and the Co-Project Managers have been assigned to be the project C/Ps, C/Ps under exclusive assignment for daily operation have not been existed in both SAEPF and SALGIR; therefore, many of the project activities had been implemented by the Japanese experts. The situation made technology/knowledge transfer from the Japanese experts not efficient. Since qualified C/Ps in SAEPF and SALGIR to discuss on the technical aspect of the Guidelines and the regulatory framework to promote JFM was inadequate, participation in the development of the JFM Guideline was limited.

3.4 Impact

The impact of the Project is evaluated as “moderately high” from the following reasons.

- 1) The Project aims at that local residents and Leskhozoes become Win-Win; for example, the apricot forest development as represented at Kok-Moinok pilot site had great success economically. Such success case had demonstrated advantage of JFM project extensively especially in the neighborhood of pilot sites. According to the survey conducted by the Project, new JFM activity without Project’s support has started in the territory of 4 Leskhozoes and 3 Ail-Okumotues. This situation will assist JFM projects by a similar concept being developed all over the country in future as stated in the Overall Goal.
- 2) However, to achieve the Overall Goal in near future, SAEPF is expected to work extensively for the diffusion of the Guidelines and to promote JFM application on the forest management in all over the country. Also, the Guidelines and related regulatory framework need to have continuous improvement to be appropriate to the future circumstances.
- 3) JFM pilot projects have generated employment for local residents. There are many people who don’t have job in local communities, and the Project provided ways of getting income for those people. It helped people’s livelihood to be more stable and decrease social grievance.
- 4) Many case of that the JFM pilot projects stimulated other neighboring businesses such as tourism and agriculture were observed. For example in the case at Issyk-Kul Leskhoz, the pilot project repaired the forest road to spruce forests which are located at the higher part of the mountain. The road, originally facilitated to

gather wind fallen trees, provided access to pasture land for local farmers to graze their livestock, also it attracted tourists so that tourism companies constructed "Yurtas"² for getting extra income.

3.5 Sustainability

The prospect of sustainability is evaluated as "medium" from the following reasons.

- 1) JFM practices under the jurisdiction of Leskhoz are in line with the Forest Code of Kyrgyz Republic. However, because the reform on organizational structure in SAEPF and SALGIR is still undergoing, jurisdiction of staff for the JFM Project has been unclear. Continuous reform may spoil efficient dissemination of JFM concept as stated in the overall Goal.
- 2) Although, the field operational staff in Leskhozoes seem to be confident for continuous management of JFM pilot projects, GPS survey technique, nursery managerial technique, apricot cultivation techniques and spruce forest research, which were introduced by the Project, need to have continuous improvement to be self-sustainable technically. Besides, to go to next stage of fruit production, technology/knowledge on processing, transportation, marketing, harvesting and so on, need to be developed through the cooperation with other sectors such as agriculture.
- 3) Although change of personnel in the management level at SAEPF and SALGIR has been frequent, the personnel in the field level at Leskhozoes and Ail-Okumotues are comparatively stable. Many of Leskhozoes and Ail-Okumotues have adequate number of personnel and they are willing to disseminate JFM scheme to their neighboring territories. Besides, remarkable number of local residents are willing to participate in JFM projects. On the other hand, it seems that there is not sufficient number of people who have technical expertise in the field level.
- 4) The government budget, except staff emolument, observed to be quite limited. Continuous financial input will be required to maintain facilities (e.g. fence, water-well, water-wheel, low-temperature storage, suspension bridge etc.) supported by the Project. As stated in the Overall Goal, to disseminate JFM concept and to expand areas under JFM methodology in the future, external financial assistance may be necessary. To start new JFM project, financial incentive for installing irrigation, fencing, seedling etc., may be required. Forestry fund shall be spent for financing of forest management activities and is considered to be stable rather than the ordinary government budget.

² The "Yurta" is a tent-style house, which has been traditionally used by nomads in the steppes of Central Asia.



Chapter 4: Results of Terminal Evaluation

4.1 Conclusions

The Project implemented an innovative framework of JFM in the Kyrgyz Republic. The Project undertook activities in the pilot sites, where positive impacts were observed such as increase in the forest area, improvement in the local livelihoods, awareness regarding JFM, cooperation between local authorities (Leskhozoes and Ail-Okumotues) and participation of local people, despite unexpected political reforms during its implementation. In some cases, JFM also contributed to environmental education.

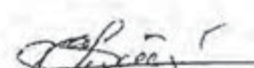
The pilot sites were set up and they are moving forward with positive outcomes being expected. These experiences in the pilot sites were compiled as the guidelines. JFM is understood by an increasing number of people, and is in the process of spreading out more broadly. We conclude that the Project has been successfully implemented.

However, for broader application of JFM, the legal framework and the institutional capacity, such as human and financial resources (including the forestry fund) in SAEPP, need to be strengthened. Efforts of seeking opportunities for collaboration with partner organizations should also be continued in order for the JFM framework to be developed and applied further.

4.2 Recommendations

Recommendations regarding the Project within its period are as follows:

- 1) Based on the experience in the pilot sites, additional information should be included in the JFM guidelines as a reference, such as: a) initial investment; b) lease fees; and c) profit sharing and reinvestment.
- 2) Legislative rules and processes should be improved under the initiatives of SAEPP in consultation with the experts. The JFM framework should also be applied on lands managed by Ail-Okumotues.
- 3) For extended JFM application in the future and in other places, the Project should strengthen networks with relevant groups such as the agricultural sector, universities and research institutes, donor organizations and NGOs. By working together with researchers, useful knowledge would be accumulated for future JFM activities. Particular attention should be paid to studies to find out causes of failed plantation, which would produce valuable lessons.
- 4) Management of facilities and equipment supported by the Project should be clarified for the operation and maintenance after the project completion by concerned Leskhozoes, Ail-Okumotues or SAEPP.

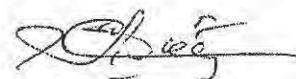


Recommendations for JFM implementation after the Project period are as follows:

- 5) The JFM scheme should be adaptive to variations of forest activities such as production and environmental protection. Based on more practices, the guidelines should be revised occasionally for fair and strategic expansion of JFM activities.
- 6) In accordance with the above mentioned revision of the guidelines, legislative adjustment should be considered by SAEPF. In addition, mechanisms like a dedicated fund should become a standard in JFM arrangements for securing long-term forest management. Those mechanisms would also facilitate initial investment for accelerating the expansion of JFM.
- 7) To promote JFM application in areas other than state forest fund, the cooperation between SAEPF and SALGIR should be continued and further strengthened.
- 8) Capacity of staff responsible for JFM in SAEPF and SALGIR should be further developed.
- 9) Networking with relevant groups such as the agricultural sector, universities and research institutes, donor organizations and NGOs should be enhanced for expansion of JFM. Good practices and knowledge should be shared for mutual learning among the people in different JFM sites.

4.3 Lessons Learned

- 1) Participatory JFM is effective in not only increasing the forest area but also awareness and livelihoods of local population, and contributed to the development of public infrastructure and related industries such as production and tourism.
- 2) Participation of local authorities in both forestry (Leskhozoes) and local governance (Ail-Okumotues) is an effective institutional arrangement for implementing JFM, which suits to the realities in the Kyrgyz Republic.
- 3) The Project places emphasis on implementation on the ground rather than conceptual work on documents. Through the activities in the pilot sites, JFM produces practical guidelines and promoted understanding and participation by stakeholders.



Annex 1: PDM (Ver.3)

Revised Project Design Matrix (PDM₃)

Project Title: Support for Joint Forest Management in the Kyrgyz Republic
 Project Sites: Capital (Bishkek) and Chui/Issyk-kul Provinces (initially)
 Life of Project: From dispatch of Japanese experts [2009 to 2014 (five years)]
 Target Beneficiaries: SAEPP, NALSG, and Leshozes / Ail-Okmutues / Forest Users in the Project Sites

		June, 23, 2011	
Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	Means of Verifications
			Important Assumptions
Overall Goal: JFM implemented areas is increased.		<ul style="list-style-type: none"> - JFM is implemented in not less than 10 sites different from the project sites and such sites should be selected not only from SFF areas but also from AO areas. - "JFM implementation guideline" is utilized in other Provinces. 	Government reports - Project reports
Project Purpose: Framework for expanding JFM in a sustainable manner by the State Agency for Environment Protection and Forestry(SAEPF) and National Agency for the Affairs of Local Self-Governance(NALSG) is strengthened.		<ul style="list-style-type: none"> - Comprehension on the JFM implementation knowledge and experience is shared among relevant staff of SAEPP and NALSG - JFM is implemented by only Kyrgyz side in more than two (2) sites different from the project pilot sites by the end of the project. - Legalization process of rules and regulations for JFM implementation should be initiated. - "JFM implementation guideline" is utilized by relevant organizations. 	- Relevant laws and policies remain as they are.
Outputs: 1. JFM mechanism on involving stakeholders into decision-making are functioned in the Project Sites of JFM in Issyk-kul Province and Chai Province.		<ul style="list-style-type: none"> - More than 5 Project Sites of JFM are selected in the two Provinces. - Persons of Leshozes and Ail-Okmutues who understand their role of JFM are involved in decision-making of JFM pilot project in each Project Site. - Selected Project Sites are approved as JFM implementation area by SAEPE. 	-Project reports -Organization of SAEPP remains as they are.
2 The forest management activities are implemented by Forest Users in the Project Sites of JFM.		<ul style="list-style-type: none"> - Forest users will appreciate JFM scheme and their awareness for forest conservation will be enhanced through JFM activities. - Administrative procedures related to JFM such as on land use are clarified. 	-Project reports

<p>3. The forest management activities by Forest Users and the supporting activities by Leshozes and Ail-Okumotues in the Project Sites of JFM are monitored properly.</p> <p>4. JFM implementation guideline is comprehended among relevant organizations.</p>	<p>- Procedure and indicator of the monitoring are set down in each Project Site.</p> <p>- The forest management activities and the supporting activities are recorded in the documents.</p> <p>- At least one seminars is conducted in each Raion of Issyk-kul and Chui Oblast, and all of AOs in each Raion are participated to those.</p> <p>- "JFM implementation guideline" is admitted by SAEPF and NALSG.</p>	<p>- Project reports</p> <p>- Project reports</p>	
<p>Activities:</p> <p>1-1 Review the pilot projects of JFM implemented by KIRFOR³ and identify the problems on implementation.</p> <p>1-2 Survey the natural and social conditions in Issyk-kul and Chui provinces, and identify the appropriate forest management sites.</p> <p>1-3 Gather information on the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.</p> <p>1-4 Select the Project Sites of JFM by taking account of the natural and social conditions, and the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.</p> <p>1-5 Facilitate consensus building among Leshozes, Ail-Okumotues and Forest Users for involving stakeholders into decision-making.</p> <p>2-1 Instruct Forest Users to develop their own forest management plans and submit them to Leshozes and Ail-Okumotues.</p> <p>2-2 Arrange a framework for the supporting activities such as technical assistance, clarification of administrative procedures on land use, income generation through the use of local resources to implement the forest management plans.</p> <p>2-3 Facilitate consensus building among Leshozes, Ail-Okumotues and Forest Users, on the forest management plans and the framework for the supporting activities.</p> <p>2-4 Encourage and promote substantial activities.</p>	<p>Inputs:</p> <p><u>JICA</u></p> <p>Experts Long term - Chief Advisor - Project Coordinator/ Participatory Forest Management</p> <p>Short term (less than 12 months) - Forest Management and/or other areas of expertise necessary/to be determined</p> <p><u>Machinery and Equipment</u> - PCs, Software - Vehicle(2)</p> <p><u>Training of Kyrgyz Project participants in Japan</u></p>	<p><u>SAEPF</u></p> <p><u>Project Participants</u> - Project Director - Project Managers - Other participants as the counterparts to experts allocated through JICA - Clerical personnel</p> <p><u>Office Spaces and Facilities/Materials</u> - Office space (HQ) - Desk/Office spaces (local) - Other facilities/spaces/materials necessary for the implementation of the Project</p> <p><u>Administration and Operational Costs</u></p>	<p>- Natural resources to execute recommendations available</p>

³ Kyrgyz-Swiss Forestry Support Program; Swiss Agency for Development and Cooperation

<p>3-1 Conduct periodic monitoring on the implementation of the forest management activities by Leshozes, Ail-Okumotues, and the Forest Users.</p> <p>3-2 Reflect the monitoring results into subsequent forest management and support activities.</p> <p>3-3 Report periodically to the SAEPE, NALSG and the district governments (at oblast and rayon levels).</p> <p>3-4 Share experiences and information on JFM implementation among stakeholders of the Project Sites.</p> <p>3-5 Conduct training activities including observation in the pilot sites for LH and AO staff in other areas different from the pilot sites.</p> <p>4-1 Identify lesson learned based on each monitoring result of JFM implementation.</p> <p>4-2 Conduct seminars to share the lesson learned of JFM implementation among relevant organizations.</p> <p>4-3 Make out JFM implementation guideline based on the lesson learned of JFM implementation and the opinion of relevant organizations.</p>		<p>Pre-conditions</p> <ul style="list-style-type: none"> - Relevant laws and policies on JFM remains as they are.
---	--	--

Annex 2: PO (Ver.4)

Plan of Operation (PO)

Revised in February 07, 2013

Outputs	Activities	Year 1		Year 2		Year 3		Year 4		Year 5		Responsible Organization(s)
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
1 JFM mechanism on involving stakeholders into decision-making are functioned in the Project Sites of JFM in Issyk-kul Province and Chui Province.	1.1 Review the pilot projects of JFM implemented by KIRFOR and identify the problems on implementation.	■										PROJECT, DFED, SACRD, KIRFOR
	1.2 Survey the natural and social conditions in Issyk-kul and Chui provinces, and identify the appropriate forest management sites.	■	■		■	■						PROJECT, AO, Forest User, SAEPF, DFED, LH
	1.3 Gather information on the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.		■		■		■					PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	1.4 Select the Project Sites of JFM by taking account of the natural and social conditions, and the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.		■		■		■	■	■	■		PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	1.5 Facilitate consensus building among Leshozes, All-Okumotues and Forest Users for involving stakeholders into decision-making.		■		■		■	■	■	■		PROJECT, SAEPF, DFED, LH, SACRD, AO, Forest Users
2 The forest management activities are implemented by Forest Users in the Project Sites of JFM.	2.1 Instruct Forest Users to develop their own forest management plans and submit them to Leshozes and All-Okumotues.			■		■		■	■	■		SAEPF, DFED, LH, SACRD, AO
	2.2 Arrange a framework for the supporting activities such as technical assistance, clarification of administrative procedures on land use, income generation through the use of local resources to implement the forest management plans.			■		■		■	■	■		PROJECT, SAEPF, DFED, LH
	2.3 Facilitate consensus building among Leshozes, All-Okumotues and Forest Users, on the forest management plans and the framework for the supporting activities.			■		■		■	■	■		SAEPF, DFED, LH, SACRD, AO, Forest Users
	2.4 Encourage and promote substantial activities.			■	■	■	■	■	■	■	■	SAEPF, DFED, LH, SACRD, AO, Forest Users
3 The forest management activities by Forest Users and the supporting activities by Leshozes and All-Okumotues in the Project Sites of JFM are monitored properly.	3.1 Conduct periodic monitoring on the implementation of the forest management activities by Leshozes, All-Okumotues, and the Forest Users.				■		■		■			PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	3.2 Reflect the monitoring results into subsequent forest management and support activities.				■		■		■		■	PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	3.3 Report periodically to the SAEPF, NALSG and the district governments (at oblast and rayon levels).				■		■		■		■	PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	3.4 Share experiences and information on JFM implementation among stakeholders of the Project Sites.								■	■	■	PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	3.5 Conduct training activities including observation in the pilot sites for LH and AO staff in other areas different from the pilot sites.								■		■	PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
4 JFM implementation guideline is comprehended among relevant organizations.	4.1 Identify lesson learned based on each monitoring result of JFM implementation.			■	■	■	■	■	■	■		PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	4.2 Conduct seminars to share the lesson learned of JFM implementation among relevant organizations.							■	■	■	■	PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD
	4.3 Make out JFM implementation guideline based on the lesson learned of JFM implementation and the opinion of relevant organizations.							■	■	■	■	PROJECT, SAEPF, DFED, SACRD

Legends

- Activities that must take place at a given time
- (Rvised part) Activities that must take place at a given time
- Occasional activities

Annex 3: Study Schedule of the Mission

Date, Time	Mr. Asano	Mr. Shishido/Mr. Inoue/Mr. Kitamura	Stay
Jul 7 Sun	Departure from Japan		On board
8 Mon	05:10 Arrive at Bishkek		Bishkek
	13:30 Meeting with JICA and Japanese experts		
	15:00 Courtesy call to the Deputy Director, SAEPF 15:30 Interview to Japanese Experts		
9 Tue	9:00 Interview to the Head of Monitoring Unit, NALSG 10:00 Interview to the C/Ps of Frunze LH		Bishkek
	13:30 (Site visit: plantation)		
	14:00 Interview to the C/Ps of Ivanovka AO 15:30 Interview to the C/Ps of Issyk-Ata LH		
10 Wed	10:00 Interview to the C/Ps of Chui LH 11:00 Interview to the C/Ps of Kegeti AO		Cholpon-Ata
	13:40 Interview to the C/Ps of Balykchy LH 14:40 Interview to the C/Ps of Kok-Moinok AO		
	9:30 Interview to the C/Ps of Issyk-Kul LH 10:45 Interview to the C/Ps of Oruktu AO 11:45 (Site visit: plantation)		
11 Thu	13:30 Interview to the C/Ps of Karasaev AO 15:00 Interview to the C/Ps of Tup LH 16:15 (Site visit: nursery)		Karakul
	8:30 Interview to the C/Ps of Jeti-Oguz LH 9:30 Interview to the C/Ps of Jeti-Oguz LH		
	10:30 Move to Bishkek 15:00 (Site visit: water wheel) 17:00 Meeting with JICA and Japanese experts		
12 Fri			Bishkek
13 Sat	(Analysis on information collected, document makings)		Bishkek
14 Sun	(Analysis on information collected, making documents)	Departure from Japan	Bishkek
15 Mon	8:30 Analysis on information collected, making documents	5:10 Arrive at Bishkek	Bishkek
	14:00 Courtesy call to SAEPF (Permanent Secretary Chyngozhoev Abdymital) 15:00 Courtesy call to NALSG (Director Kasiev Naken) 16:15 Meeting with Japanese Experts		
	9:30 1 st Joint Evaluation Committee Meeting		
16 Tue	15:30 Kok-Moinok Pilot Site(Site visit: plantation -1, irrigation facility) 16:30 (Site visit: water-intake facility) 17:30 (Site visit: weather station facility)		Cholpon-Ata
	9:30 Karasaev Pilot Site(Site visit: plantation -1) 10:10 (Site visit: plantation -2) 11:00 (Site visit: suspension bridge)		
	13:50 Jeti-Oguz Pilot Site(Site visit: plantation) 14:30 (Site visit: garbage stockyard) 17:20 Ton Pilot Site(Site visit: plantation)		
18 Thu	8:30 Analysis on information collected, making documents Interview to Japanese Experts	10:00 Ak-Beshim Pilot Site 11:30 Kegeti Pilot Site 13:30 Iwanovka Pilot Site	Bishkek
	13:00 Analysis on information collected, making documents 16:00 Internal meeting of the Mission 17:00 Interview to the Chief Advisor for JICA's "One Village One Product Project"		
	8:30 Analysis on information collected, making documents	10:00 Jangy-Pakhta Pilot Site	
19 Fri	14:00 Meeting with Japanese Experts 16:00 Meeting with International Organizations (GIZ, FAO)		Bishkek
20 Sat	Internal meeting of the mission, meeting with Japanese experts, analysis on information collected, making documents.		Bishkek
21 Sun	Analysis on information collected, making documents		Bishkek
22 Mon	Internal meeting of the mission, making documents		Bishkek
	14:00 2 nd Joint Evaluation Committee Meeting		
23 Tue	Internal meeting of the mission, making documents		Bishkek
	15:30 Interview to UNDP		
24 Wed	Internal meeting of the mission, making documents.		Bishkek
	14:00 Field observation on nursery management (Frunze LH)		
25 Thu	11:00 3 rd Joint Evaluation Committee Meeting Signing on the Joint Terminal Evaluation Report		Bishkek
	15:00 7 th Joint Coordinating Committee Meeting		
26 Fri	Departure from Bishkek	Report to the Embassy of Japan Report to JICA	On board
		Departure from Bishkek	
27 Sat	Arrive at Japan		-

Annex 4: List of Interviewees

1. SAEPP

	Name	Title and Organization	When
1) Central Government (HQ)			
1	Abdiev Bahtiyar Mamadiyarovich	Permanent Secretary	15/7
2	Chyngozhoev Abdymital Turgunaliyevich	Deputy Director	8/7, 16/7
3	Aliev Mairambek	Head, Unit for Forestry and JFM	15/7, 16/7
2) Local Offices (Leskhozoes)			
1	Abdygaziev Isabek	Director of Frunze LH	9/7, 19/7
2	Tynymseitov Torokan	Deputy Director of Frunze LH	9/7, 19/7
3	Almaz Seidaliev	Forest Engineer of Frunze LH	9/7
4	Bakashov Muktar	Engineer of Frunze LH	19/7
5	Seidakmatov Rustam	Engineer of Frunze LH	19/7
6	Alabachaer Emil	Director of Issyk-Ata LH	9, 18/7
7	Abdykadyrov Turdahun	Deputy Director of Issyk-Ata LH	9/7
8	Nasirdinov Kenjebek	Chief Engineer of Issyk-Ata LH	9/7
9	Sydygaliev Midin	Deputy Director of Chui LH	10/7, 19/7
10	Baktursunova Dinar	Forest Engineer of Chui LH	10/7
11	Akylbekov Aziz	Head of Ak-Beshim Foresters' Office, Chui LH	10/7, 18/7
12	Moldosydykova Saikagul	Nursery Engineer Chui LH	18/7
13	Makeshov Asylbek	Forester of Chui LH	18/7
14	Aliev Shayrbek	Forester of Balykchy LH (Chairman of Jamatt, Oasis SAKURA)	10/7
15	Jantaev Kanatbek	Director of Balykchy LH	10, 16, 19/7
16	Akbarova Bibaisha	Deputy Director of Balykchy LH	19/7
17	Aliev Shayrbek	Forester of Balykchy LH	19/7
18	Sadakiev Taalaibek	Director of Issyk-Kul LH	11/7
19	Kubat Taalaibek	Deputy Director of Issyk-Kul LH	11/7
20	Osmouakunov Esenbek	Deputy Director of Tup LH	11/7
21	Kachaganov Zhenishbek	Nursery Manager of Tup LH	11, 17, 19/7
22	Chukumbaev Chorobek	Director of Jeti-Oguz LH	12, 17, 19/7
23	Tashbaev Emilbek	Engineer of Jeti-Oguz LH	12, 17, 19/7
24	Toitukov Kanatbek	Deputy Director of Jeti-Oguz LH	19/7

2. SALGIR

1) Central Government (HQ)			
1	Kasiev Naken	Director	9/7, 16/7
2	Mendekeyev Rahmankul	Head, Monitoring Unit	15/7
3	Ernis Suranbaev	Staff of Monitoring Unit	19/7
2) Local Offices (Ail-Okumotues)			
1	Baidyldaev Murat	Head of Iwanovka AO	9/7
2	Aliev Kanatbek	Deputy Head of Iwanovka AO	9/7
3	Toktomysher Kanat	Chief Engineer of Iwanovka AO	9/7
4	Aliev Kanat	Deputy Director of Iwanovka AO	18/7
5	Kulanbaev Taalatbek	Head of Kok-Moinok AO	10/7
6	Sharshiev Anarbek	Head of Kegeti AO	10/7
7	Asanvevov Almazbek	Deputy Head of Kegeti AO	18/7
8	Almabekov Aibek	Head of Toktoy community, Karashev AO	11/7
9	Toktosoariev Kanubek	Head of Oruktu AO	11/7
10	Satybaldiyev Nurlan	Head of Jeti-Oguz AO	12/7, 17/7
11	Ernis Akmatov	Member of Shapak Jammatt (Karashev AO)	17/7
12	Abdyldaev Kachkyn	Land Specialist of Karashev AO	17/7
13	Sadabaev S.K.	Acting Head of Jangy-Pakhta AO	19/7
14	Iseeva Mairam	Director of the Secondary School in Jangy-Pakhta	19/7
15	Sulaimanov Beishen	Local Tenant Jangy-Pakhta	19/7
16	Asanova M	Local Tenant Jangy-Pakhta	19/7

3. Japan side

1) JET			
1	Mr. Koichi Tokugawa	Chief Advisor	8-23/7
2	Mr. Tatsuji Nishikawa	Project Coordinator/ Participatory Forest Management	8-23/7
2) JICA Kyrgyz Office			
1	Mr. Takayuki Oyama	Chief Representative	8/7
2	Mr. Kenji Mishima	Representative	8/7
3	Mr. Seitov Madaminbek	Program Officer	8/7
3) Other JICA Project			
1	Mr. Akihisa Haraguchi	Chief Advisor for "One Village One Product Project"	

4. Others

1) GIZ			
1	Mr. Andre Fabian	Senior Advisor	19/7
2) FAO			
1	Ms. Venero Surapboevo	National Consultant	19/7
3) UNDP			
1	Mr. Aleksandr Temirbekov	Dimension Chief, Environment and DRM Programme	23/7
2	Dr. Erkinbek Kasybekov	Assistant Resident Representative	23/7

Annex 5: List of Japanese Experts (dispatch period)

As of July 2013

Name	Dispatch Period (departure and arrival date of Japan)												Total					
	2009			2010			2011			2012				2013		2014		
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12		1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
<i>Long-term Experts</i>																		
Mr. Yuzuru Kimura Chief Advisor	*** 19/1	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	(892)
Mr. Ryota Maeda Project Coordinator / Participatory Forest Management	**	***	***	***	***	***	***	***	***	*	31/7							(910)
Mr. Koichi Tokugawa Chief Advisor						*	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	*	(964)
Mr. Tatsuji Nishikawa Project Coordinator / Participatory Forest Management							***	***	***	**	22/7	***	***	***	***	***	*	(911)
<i>Short-term Experts</i>																		
Mr. Kentaro Usuda Simple method of land survey with handy GPS			*	*														(32)
Mr. Mamoru Ueta Nursery management									*	12/9	2/10							(21+23)
Ms. Natsumi Kanzaki Forest disease and pests control									*	25/9/	8/10							(14)
Mr. Ichiro Kajiuura Fruit cultivation technique									*	1/7	-14/7							(15+14)
Mr. Toshio Katsuki Natural forest management as spruce forest														*	24/6	-5/7		(14+12)
Total: 145 days																		

Annex 6: List of Participants in the Trainings in Japan

As of June 2013

Fiscal Year	Name	Position at the time of training	Period	Course Name & Institutions/Lecturers
2008	1 Fattahov Bahtiyarjon	Permanent Secretary of NALSG	17/03/2009 -31/03/2009	(Course Name) Forest Management (Institutions/Lecturers)Ministry of Agriculture, Forestry and Fishery(MAFF), Gotenba City Hall, Hokkaido Regional Forest Office/MAFF, University of Hokkaido, Tokachi-Koiki Forestry Cooperative, Shintoku Town Hall and others.
	2 Kysanov Askat	Head of DFED		
2009	1 Beisheyev Bakytbek	Chief Specialist of UFED	28/02/2010 -16/03/2010	(Course Name) Forest Management (Institutions/Lecturers)Ministry of Agriculture, Forestry and Fishery(MAFF), Gotenba City Hall, Hokkaido Regional Forest Office/MAFF, University of Hokkaido, Tokachi-Koiki Forestry Cooperative, Shintoku Town Hall and others.
	2 Sulundukov Kanatbek	Director of Issyk-Ata LH		
	3 Toitukov Kanatbek	Deputy Director of Jeti-Ogus LH		
	4 Sydygaliev Midin	Deputy Director of Chui LH		
	5 Tulegenova Nazgul	Expert of NALSG		
	6 Musurmankulov Zholdoshali	Head of Jang-Pahta AO		
	7 Kydyaraliev Mairamkul	Head of Kok-Moinok AO		
2010	1 Kuchukov Musa	Director of Tup LH	05/05/2010 -18/05/2010	(Course Name) Forest Management (Institutions/Lecturers)Ministry of Agriculture, Forestry and Fishery(MAFF), Gotenba City Hall, Hokkaido Regional Forest Office/MAFF, University of Hokkaido, Tokachi-Koiki Forestry Cooperative, Shintoku Town Hall and others.
	2 Bokoev Toktomamat	Deputy Chief of UFED		
	3 Yrsaliev Bakytbek	Senior Specialist of UFED		
	4 Sultanov Joldoshbek	Deputy Director of Balykchy LH		
	5 Maigulalov Mars	Deputy Director of Chon-Kemin National Natural Park		
	6 Sadyrova Rashida	Acting Head of Teplokluchenka AO		
	7 Baidyldaev Murat	Head of Ivanovka AO		
	8 Rysmendeeva Aizhan	Specialist of UFED	15/11/2010 -04/12/2010	(Course Name) SATOYAMA Initiative (Institutions/Lecturers)Ministry of Environment, Ishikawa Prefectural Office, Kanazawa University, Japan Wildlife Research Center and others.
2011	1 Abdygaziev Isabek	Director of Frunze LH	05/05/2011 -21/05/2011	(Course Name) Forest Management (Institutions/Lecturers)Ministry of Agriculture, Forestry and Fishery(MAFF), Gotenba City Hall, Hokkaido Regional Forest Office/MAFF, University of Hokkaido, Tokachi-Koiki Forestry Cooperative, Shintoku Town Hall and others.
	2 Jantaev Kanatbek	Director of Balykchy LH		
	3 Satybaldiev Mirbek	Director of Karakol LH		
	4 Osmonaliev Manas	Head of Kegeti AO		
	5 Almabekov Aibek	Head of Toktoyan village, Karasaev AO		
2012	1 Segizekov Azamat	Director of Tup LH	07/05/2012 -24/05/2012	(Course Name) Forest Management (Institutions/Lecturers)Ministry of Agriculture, Forestry and Fishery(MAFF), Gotenba City Hall, Hokkaido Regional Forest Office/MAFF, University of Hokkaido, Tokachi-Koiki Forestry Cooperative, Shintoku Town Hall and others.
	2 Kubat Uulu Taalaibek	Deputy Director of Issyk-kul LH		
	3 Aliev Mairambek	Head of Department Development of Forest Ecosystem, Chui-Bishkek Territorial Unit for Environmental Protection and Forest Ecosystem Development		
	4 Dashbaev Ana Sadyrbek	Main Specialist of UFED		
	5 Urmanbetov Taras	Director of Ton LH		
2013	1 Chyngozhoev Abdymital	Deputy Director of SAEPP	06/05/2013 -23/05/2013	(Course Name) Forest Management (Institutions/Lecturers)Ministry of Agriculture, Forestry and Fishery(MAFF), Gotenba City Hall, Hokkaido Regional Forest Office/MAFF, University of Hokkaido, Tokachi-Koiki Forestry Cooperative, Shintoku Town Hall and others.
	2 Chukumbaev Chorobek	Director of Jeti-Ogus LH		
	3 Akbarova Bidaisha	Deputy Director of Balykchy LH		
	4 Kachaganov Zhenishbek	Nursery Manager of Tup LH		
	5 Mendekeyev Rahmankul	Head of Monitoring Unit, SALGIR		
	6 Satybaldiev Nurlan	Head of Jeti-Ogus AO		

Total: 33 trainees in five years

Annex 7: List of Equipment Supported by JICA

	Item Name	Model	Quantity
1	Vehicles	Toyota Prado	2
2	Weather observation system		1
3	JICA project signboard		7
4	GPS	GARMIN eTrex H	113
5	Desktop PC		10
6	Notebook PC	ASUS X58L CoreDuo T3400 etc.	2
7	OS	Windows XP/Windows 7 Professional SP2 Russian	6
8	PC software	Office2007/Office2010 Win32 Russian/Dr. Web	8
9	Digital camera	SONY DSC-S3000 etc.	2
10	UPS	Mercury Smart 1200Va(720W)	9
11	Multifunction Printer	HP LaserJet M1522nf etc.	4
12	Printer	Canon 3010 etc.	3
13	Portable hard disc	SAMUSUNG G2 Portable(640GB)	1
14	Digital scale	Diamond MODEL100	7
15	Engine pump	PIT P52002 etc.	6
16	Red-White Pole	Taihei Free Pole	3
17	Ribbon Rod / Ribbon Rod Case		2
18	Measure Pole	FT-10	2
19	Map Measure	MM-1	1
20	Soil Inspection Trowel	DIK-1676	1
21	Pocket Compass	LS-25	1
22	Compass Tripod	No.33	1
23	Mobile house	Storage type of 40ft container	6
24	Mini Tractor	VH660	1
25	Tractor attachment, mowing	SK-Z 2.2m wide	1
26	Tractor attachment, raking	GPG-4.2 4.2m wide	1
27	Hand hole digger	with 49cc engine	1
28	Chainsaw	Royal Garden CS5200	2
29	Brush cutter	PIT P73102 etc.	5
30	Engine Spray	RTR RTM9620	2
31	Gabion nets	Gabion nets (2m x 1m x 0.4m)	70

Annex 8: List of Principal Facilities Supported by JICA

	Item Name	Details	Cost (KGS)	Recipient
1	Nursery storage of Jangy-Pakhta	Construction materials as bricks, cement, electricity equipment etc.	1,068,747	Frunze LH
2	Irrigation system of Kok-Moinok	Design, construction, settling etc. Water intake and water pipeline	8,902,205	Balykchy LH
3	Cooling seedling storage	Design and improvement from old shelter to installed cooler system	1,053,749	
4	Irrigation channel to Kok-Moinok South area	Lease the crane for disassemble and assemble concrete channel Lease track to transport the concrete channel	624,320	
5	Charcoal Kiln of Kegeti	Design and construction 2.4m x 1.2m x 3m by bricks, mortar and cement.	798,034	Chui LH
		Design and construction 4.3m x 4.4m by logs, wood and iron sheet.		
		Design and construction 7.2m x 2.7m x 4.5m by logs, wood and iron sheet.		
6	Dike construction on the Kegeti riverbank	Lease the bulldozer for level land.	483,775	
7	Storage of Ak-Besihm	Construction 5m x 9m x 3m by slate, cement, concrete block etc.	332,040	
		Construction 5m x 3m x 2.2m by slate, cement, concrete block etc.		
		Cooling seedling storage Construction 5m x 7m x 2.2m by gravel, cement etc.		
8	Water intake from Chui river and shore protection work	Lease the crane for assemble water wheel. Lease the bulldozer for level land.	745,399	Issyk-Ata LH
9	Forestry road maintenance	Lease the bulldozer for level land.	825,515	Issyk-Kul LH
10	Suspension bridge	Design and construction materials as cement, wire etc.	310,293	Tup LH
11	Greenhouse	Construction materials as cement, steel, wire, plastic films, timber etc.	68,100	
12	Irrigation system of Ton seaside	Setting transformer and electric wire for water pump	947,305	Ton LH
		Improvement for 2 old wells		
		Setting 25 ton water tank and connect with pipe		
13	Garbage stockyard	Design and construction 6m x 3m x 2.5m by slate, cement, concrete block etc. Garbage can	239,860	Jeti-Ogus LH

Annex 9: Project Budget

1) Japan side (unit: thousand JPY)

		Japanese Fiscal Year (Apr-Mar)						Total
		2008	2009	2010	2011	2012	2013	
1	Disbursement for dispatch of Japanese Experts	6,912	23,672	26,873	29,743	25,352	21,770	134,322
2	Disbursement for project implementation (e.g. operation, facilities, equipment, materials, local employment, travel expenses etc.)	3,799	41,573	16,011	14,536	19,567	10,507	105,993
3	Disbursement for trainings in Japan	6,611	10,866	12,955	6,061	8,855	6,553	51,901
	Total	17,322	76,111	55,839	50,340	53,774	38,830	292,216

Note: Figures indicated above are secured budget at the beginning of the each fiscal year.

Note: Costs indicated for the year 2012 are estimates.

2) Kyrgyz side (unit: thousand KGS)

		Kyrgyz Fiscal Year (Jan-Dec)						Total
		2008	2009	2010	2011	2012	2013	
1	Chui LH (Pest control)		192.7					192.7
2	Balykchy LH (Irrigation system)				1,441.4			1,441.4
	Total		192.1		1,441.4			1,634.1

Note: Dedicated funds from Environmental Fund for the designated use to support JFM Projects. The budget contribution from the tenants and forestry is not indicated.

Annex 10: List of Counterpart Personnel

1. SAEPF

	Name	Title and Organization	Role/Responsibility in the Project	Period
1) Project Director / JCC Member				
1	Abdiev Bahtiyar Mamadiyarovich	Permanent Secretary	Member of JCC	Dec. 2012-
2	Burhanov Aitkul	Deputy Director of SAEPF	Project Director	Jan. 2009-Apr. 2010
3	Chyngozhoev Abdymital	Permanent Secretary of SAEPF	Project Director	Apr. 2010-Jul. 2012
4		Deputy Director of SAEPF	Project Director	Jul. 2012-
2) Project Manager				
1	Kysanov Askat	Director of DFED	Project Manager	Jan. 2009-Dec. 2009
2	Koichumanov Bakytbek	Chief of UFED	Project Manager	Jan. 2010-Jan. 2011
3	Kysanov Askat	Chief of UFED	Project Manager	Jan. 2011-Mar. 2012
4	Koichumanov Bakytbek	Director of DFED	Project Manager	Mar. 2012- Apr. 2013
3) Staff of DFED				
1	Uzgenov Altynbek	Chief of Unit of Monitoring and JFM, DFED		Jan. 2009-Dec. 2009
2	Beisheyev Bakytbek	Chief Specialist of UFED		Jan. 2009- Jan. 2012
3	Joldosheva Elnura	Senior Specialist of Unit of Monitoring and JFM, DFED		Jan. 2009-Dec. 2009
4	Aibek Baidaliev	Specialist of Unit of Monitoring and JFM, DFED		Jan. 2009-Dec. 2009
5	Rysmendeeva Aizhan	Specialist of UFED		Jan. 2009- Mar. 2012
6	Bokoiev Toktomamat	Acting head, Unit for Forestry and JFM		Dec. 2011-Jan. 2012
7	Yrsaliev Bakytbek	Deputy Director, DFED		Jan. 2012-
8	Aliev Mairambek	Head, Unit for Forestry and JFM		Jan. 2012-
9	Andashbaev Sadyrbek	Specialist of DFED		Jan. 2011-
10	Dabaev Kanatbek	Specialist of DFED		Apr. 2011-
11	Termeev Ruslan	Specialist of DFED		Mar. 2012-
12	Alymkulov Ulan	Specialist of DFED		Mar. 2012-
13	Kablitskaya Tatyana	Specialist of DFED		Jan. 2009-
14	Akulov Ruslan	Specialist of DFED		Mar. 2012-
4) Staff of LH				
1	Abdygaziev Isabek	Director of Frunze LH		Apr. 2009-
2	Bektemirov Alimjan	Deputy Director of Frunze LH		Apr. 2009- Jun. 2012
3	Tynymseitov Torokan	Deputy Director of Frunze LH		Jun. 2012-
4	Bakashov Muktar	Engineer of Frunze LH		Apr. 2009-
5	Seidakmatov Rustam	Engineer of Frunze LH		Feb. 2011-
6	Ivakhov Kanybek	Director of Chui LH		Jul. 2009-
7	Sydygaliev Midin	Deputy Director of Chui LH		Jul. 2009-
8	Suiundukov Kanatbek	Director of Issyk-Ata LH		Feb. 2010-May. 2013
9	Alabachayev Emil	Director of Issyk-Ata LH		May. 2013-
10	Abdykadyrov Turdahun	Deputy Director of Issyk-Ata LH		Feb. 2010-
11	Jantaev Kanatbek	Director of Balykchy LH		Jun. 2009-Feb. 2010
12	Musabaev Bakyt	Director of Balykchy LH		Feb. 2011-
13	Sultanov Joldoshebek	Deputy Director of Balykchy LH		Feb. 2010-Feb. 2011
14	Akbarova Bibaisha	Deputy Director of Balykchy LH		Jun. 2009- Feb. 2011
15	Aliev Shayrbek	Forester of Balykchy LH		Feb. 2011-
16	Kuchukov Musa	Director of Tup LH		Feb. 2011-
17	Segizekov Azamat	Director of Tup LH		Jun. 2010- Jun. 2011
18	Mukanbetov Maksat	Director of Tup LH		Jun. 2011- Jul. 2012
19	Kachaganov Zhenishbek	Nursery Manager of Tup LH		Jul. 2012-
20	Kojobaev Ruslan	Director of Issyk-Kul LH		Jun. 2010-
21	Dabaev Victor	Director of Issyk-Kul LH		Feb. 2011- Jun. 2011
22	Sadakiev Taalaibek	Director of Issyk-Kul LH		Jun. 2011-Dec. 2012
23	Kubat Taalaibek	Deputy Director of Issyk-Kul LH		Dec. 2012-
24	Urmanbetov Taras	Director of Ton LH		Feb. 2011-
25	Isaev Esengul	Director of Ton LH		Dec. 2011-Jan. 2013
26	Koilbaev Tolonbek	Deputy Director of Ton LH		Jan. 2013-
27	Bekturov Akimkan	Acting Deputy Director of Ton LH		Dec. 2011- Mar. 2013
28	Chukumbaev Chorobek	Director of Jeti-Ogus LH		Mar. 2013-
29	Toitukov Kanatbek	Deputy Director of Jeti-Ogus LH		July 2012-
30	Tashybaev Emir	Engineer of Jeti-Ogus LH		July 2012-
31	Janaliev Ergeshbai	Director of Talas LH		July 2012-
32	Eshenkulov Sapparbai	Deputy Director of Talas LH		Feb. 2013-

Note: DFED was restructured to be UFED, however, UFED was restructured again to be DFED in March 2012.

2. SALGIR/SACRD/NALSG

	Name	Title and Organization	Role/Responsibility in the Project	Period
1)	Co-Project Manager			
1	Fattahov Bahtiyarjon	Permanent Secretary of NALSG	Co-Project Manager	Jan. 2009-Jan. 2010
2	Dushembiev Akyibek	Deputy Director of NALSG	Co-Project Manager	Jan. 2010-Feb. 2011
3	Mendekeyev Rahmankul	Head, Monitoring Unit	Co-Project Manager	Sep. 2011-
2)	Staff of SALGIR/SACRD/NALSG			
1	Tulegenova Nazgul	Senior Specialist of NALSG		Jan. 2009-Jun. 2010
2	Abdraeva Nestan	Specialist of NALSG		Jun. 2010-
3)	Staff of AO			
1	Musurmankulov Joldoshbek			Apr. 2009-Oct. 2010
2	Kulmurzaev Nurbek	Head of Jang-Pahta AO		Oct. 2010-Mar. 2011
3	Asanova Bubu			Apr. 2013-Mar. 2013
4	Atalova Atyrgul			Mar. 2013-
5	Osmonaliev Manas	Head of Kegeti AO		Jul. 2009-
6	Baidyldaev Murat	Head of Iwanovka AO		Feb. 2010-
7	Kydyralieva Mairamkul			Jun. 2009-Feb. 2011
8	Elebesov Beken	Head of Kok-Moinok AO		Feb. 2011-May. 2011
9	Kulanbaev Taalai			May. 2011-
10	Kayikov Kurmanbek	Head of Karasaev AO		Jun. 2010-
11	Almabekov Aibek	Head of Toktoyan village, Karasaev AO		Jun. 2010-
12	Usebaev Muktar	Head of Oruktu AO		Feb. 2011-
13	Cholponbaev Junus	Head of Orto-Oruktu village, Oruktu AO		Feb. 2011-
14	Satybaldiev Nurlan	Head of Jeti-Ogus AO		Jul. 2012-

Note: NALSG was restructured to be the State Agency for Construction and Regional Development: SACRD in January 2012. In February 2013, SACRD was restructured to be the State Agency on Local Self Governance and Interethnic Relations: SALGIR.

Note: Above indicated personnel were listed by considering the degree of involvement in the Project, in accordance with the observation by JET.

Note: Due to reorganizations or changes, if the person served in multiple positions, it describes the position of the final.

Annex 11: Accomplishment Grid 1 (Accomplishment based on the Indicators)

		As of July 2013	
Narrative Summary	Indicators	Current Status	
【Overall Goal】 JFM implemented areas is increased.	<ol style="list-style-type: none"> 1. JFM is implemented in not less than 10 sites different from the Project sites and such sites should be selected not only from SFF areas but also from Ail-Okumotu areas. 2. "JFM implementation guideline" is utilized in other Provinces. 	<p>Scale: Achieved, Almost achieved, Not achieved yet</p> <ul style="list-style-type: none"> - According to survey to Leskhoz and Ail-Okumotues where pilot sites were established, new JFM activity without Project's support has started in the territory of 4 Leskhoz and 3 Ail-Okumotues. 	
【Project Purpose】 Framework for expanding JFM in a sustainable manner by the State Agency for Environment Protection and Forestry(SAEPF) and National Agency for the Affairs of Local Self-Governance(NALSG) is strengthened.	<ol style="list-style-type: none"> 1. Comprehension on the JFM implementation knowledge and experience is shared among relevant staff of SAEPF and NALSG 2. JFM is implemented by only Kyrgyz side in more than two (2) sites different from the Project pilot sites by the end of the Project. 3. Legalization process of rules and regulations for JFM implementation should be initiated. 4. "JFM implementation guideline" is utilized by relevant organizations. 	<ul style="list-style-type: none"> - The Project sought opinion in the seminars held in each province of the country in order to improve the second draft of the Guidelines. - The JFM Project plans to diffuse the Guidelines to Leskhoz of other provinces using occasion such as field visit. <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - The understanding on JFM implementation among relevant staff of SAEPF and SALGIR is considered to be deepening enough. Because, project conducted seven seminars which invited concerned staff of Leskhoz in all provinces. There was no doubt on the importance of JFM; on the other hand, there were many needs for similar JFM activity. - Latest news concerning project activities has been provided by newsletters widely not only to SAEPF, SALGIR, Leskhoz and related Ail-Okumotues, but also to all State Parks, State Nature Reserves and international organizations. <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - According to survey to Leskhoz and Ail-Okumotues where pilot sites were established, new JFM activity without Project's support has started in the territory of 4 Leskhoz and 3 Ail-Okumotues. <p>Not achieved yet</p> <ul style="list-style-type: none"> - When first draft of the Guidelines was presented, to promote legalization process, the Project suggested on new regulations or amendment of existing regulations to SAEPF and SACRD at the sixteenth WGM in 2012. - When presented the second draft of the Guidelines, the Project suggested SAEPF to initiate drafting of new or amendment of regulations after completion of the Guidelines. <p>Not yet achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - The second draft of the Guidelines has prepared, yet to be completed after integrating comments from related parties. 	
【Outputs】 1. JFM mechanism on involving stakeholders into decision-making are functioned in the Project Sites of JFM in Issyk-kul Province and Chui Province.	<ol style="list-style-type: none"> 1.1 More than 5 Project Sites of JFM are selected in the two Provinces. 1.2 Persons of Leskhoz and Ail-Okumotues who understand their role of JFM are involved in decision-making of JFM pilot project in each Project Site. 1.3 Selected Project Sites are approved as JFM implementation area by SAEPF. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - Nine in Issyk-Kul and Chui and one in Talas, a total of ten pilot sites were selected. <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - There were many cases of that person in charge for lands in Ail-Okumotues have taken part in the tenant selection committee. Besides, directors of Leskhoz and heads of Ail-Okumotu took major role in the tenant selection committee in many cases. <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - All pilot sites were approved by WGM. 	
2. The forest management activities are implemented by Forest Users in the Project Sites of JFM.	<ol style="list-style-type: none"> 2.1 Forest users will appreciate JFM scheme and their awareness for forest conservation will be enhanced through JFM activities. 	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - The number of application for JFM tenant recruitment at each pilot site has been increasing. - Almost all members of JFM pilot sites in natural forest areas have participated in planting activities etc, because of their consciousness on forest conservation was raised by the Project. 	

	<p>2.2 Administrative procedures related to JFM such as on land use are clarified.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - As a result of project activities, forest users became not use the wood of illegal logging. The project secured forest for their timber production or the revenue from forest activities. - Almost achieved - Although the regulatory procedures on land lease already exist, level of understanding in staff concerned is considered to be poor. The Guidelines will provide summary of existing regulatory procedures in precise and comprehensive manner that is expected to deepen their understanding. - For existing legislations, which are considered to have been making the JFM application difficult (e.g. tenant selecting criteria, etc.), possible revision is to be suggested separately from the preparation of the Guidelines.
<p>3. The forest management activities by Forest Users and the supporting activities by Leskhoz and Ail-Okumotues in the Project Sites of JFM are monitored properly.</p>	<p>3.1 Procedure and indicator of the monitoring are set down in each Project Site. 3.2 The forest management activities and the supporting activities are recorded in the documents.</p>	<p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - SAEPF has a monitoring format to receive information from Leskhoz in every quarter (from 2012, every half a year). <p>Achieved</p> <ul style="list-style-type: none"> - Leskhoz are responsible to monitor activities in JFM pilot sites, and to submit monitoring reports using above mentioned monitoring format to SAEPF HQ every half a year. - When monitoring was carried out quarterly, the submission ratio was considered to be low, however, after revising monitoring format, and at the same time, made it to be submitted every half a year, all Leskhoz became to submit.
<p>4. JFM implementation guideline is comprehended among relevant organizations.</p>	<p>4.1 At least one seminar is conducted in each Raion of Issyk-kul and Chui Oblast, and all of Ail-Okumotues in each Raion are participated to those. 4.2 "JFM implementation guideline" is admitted by SAEPF and NALSG.</p>	<p>Not achieved yet</p> <ul style="list-style-type: none"> - As soon as the Guidelines will be completed, the Project needs to conduct seminars in each Raion of Issyk-kul and Chui Oblast to promote JFM application. <p>Not achieved yet</p> <ul style="list-style-type: none"> - Second draft of the Guidelines (English and Russian version) was completed in June 2013. - JFM guideline seminar was held in June 2013 to collect comments on the second draft. After collection of opinion and amendment necessary, the Project will translate the Guidelines into Kyrgyz language. - The Project will discuss on proposal of necessary revision of related legislations to promote JFM.

Annex 12: Accomplishment Grid 2 (Accomplishment based on the Activities)

As of July 2013

Narrative Summary	Activities	Current Status	List of Tangible Products																													
<p>{Outputs}</p> <p>1. JFM mechanism on involving stakeholders into decision-making are functioned in the Project Sites of JFM in Issyk-kul Province and Chui Province.</p>	<p>1-1 Review the pilot projects of JFM implemented by KIRFOR and identify the problems on implementation.</p> <p>1-2 Survey the natural and social conditions in Issyk-kul and Chui provinces, and identify the appropriate forest management sites.</p>	<p>JICA expert accompanied all the JFM activities which KIRFOR carried out, and visited/ observed all of their JFM sites.</p> <p>KIRFOR experts took part in the Project's meetings till the termination of KIRFOR project in April, 2010.</p>	<p>(2010-2011) Four files which compile information of baseline surveys (Ru, Kg, En)</p> <p>(December 2011) Forest Inventory Report in Karasaev Ail-Okumotu (Ru, JP)</p> <p>(May 2013) Translations of "Passport" of 2012 or 2013 (En)</p>																													
	<p>1-3 Gather information on the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.</p> <p>1-4 Select the Project Sites of JFM by taking account of the natural and social conditions, and the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.</p> <p>1-5 Facilitate consensus building among Leskhazes, Ail-Okumotues and Forest Users for involving stakeholders into decision-making.</p>	<p>The Project did not conduct particular survey for entire target region. Instead, the Project has translated the latest information of Ail-Okumotues (annual census of Ail-Okumotues and cites="passport") and stocked information using a fixed format.</p> <p>The Project conducted the baseline surveys in Jangy-Pakhta, Kok-Moinok, Karasaev, Oruktu centering on social conditions being conscious of measuring the result by the Project.</p> <p>Baseline surveys were conducted in four places.</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">When</th> <th style="text-align: center;">Place</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">October 2010</td> <td style="text-align: center;">at Jangy Pakhta</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">December 2010</td> <td style="text-align: center;">at Kok-Moinok</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">November 2011</td> <td style="text-align: center;">at Karasaev</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">November 2011</td> <td style="text-align: center;">at Oruktu</td> </tr> </tbody> </table> <p>Forest inventory was conducted in Karasaev in December 2011.</p> <p>Various field surveys were conducted to identify the appropriate forest management sites.</p>		When	Place	October 2010	at Jangy Pakhta	December 2010	at Kok-Moinok	November 2011	at Karasaev	November 2011	at Oruktu	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">Year</th> <th style="text-align: center;">Name of Survey</th> <th style="text-align: center;">Date</th> <th style="text-align: center;">Purpose</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2011</td> <td style="text-align: center;">Forest Disease and Pests Control</td> <td style="text-align: center;">September 26th-October 7</td> <td style="text-align: center;">Collected scientific information and investigate the cause of the pine withers by the disease or pest.</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2012</td> <td style="text-align: center;">Apricot Cultivation Field Survey</td> <td style="text-align: center;">February 28th-March 2nd</td> <td style="text-align: center;">Survey for understanding cultivation and root system of Chui and Issyk-Kul province's apricot.</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2012-2013</td> <td style="text-align: center;">Growth ratio and survival ratio</td> <td style="text-align: center;">May 2012-</td> <td style="text-align: center;">Study of growth ratio at Jangy Pakhta and Kok-Moinok pilot sites, and of survival ratio at Ton pilot site.</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2012-2013</td> <td style="text-align: center;">Weather observation</td> <td style="text-align: center;">July 2012-</td> <td style="text-align: center;">Collect accurate weather information for Kok-Moinok pilot site.</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Name of Survey	Date	Purpose	2011	Forest Disease and Pests Control	September 26th-October 7	Collected scientific information and investigate the cause of the pine withers by the disease or pest.	2012	Apricot Cultivation Field Survey	February 28th-March 2nd	Survey for understanding cultivation and root system of Chui and Issyk-Kul province's apricot.	2012-2013	Growth ratio and survival ratio	May 2012-	Study of growth ratio at Jangy Pakhta and Kok-Moinok pilot sites, and of survival ratio at Ton pilot site.	2012-2013	Weather observation
When	Place																															
October 2010	at Jangy Pakhta																															
December 2010	at Kok-Moinok																															
November 2011	at Karasaev																															
November 2011	at Oruktu																															
Year	Name of Survey	Date	Purpose																													
2011	Forest Disease and Pests Control	September 26th-October 7	Collected scientific information and investigate the cause of the pine withers by the disease or pest.																													
2012	Apricot Cultivation Field Survey	February 28th-March 2nd	Survey for understanding cultivation and root system of Chui and Issyk-Kul province's apricot.																													
2012-2013	Growth ratio and survival ratio	May 2012-	Study of growth ratio at Jangy Pakhta and Kok-Moinok pilot sites, and of survival ratio at Ton pilot site.																													
2012-2013	Weather observation	July 2012-	Collect accurate weather information for Kok-Moinok pilot site.																													
	<p>1-3 Gather information on the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.</p> <p>1-4 Select the Project Sites of JFM by taking account of the natural and social conditions, and the capacity and willingness of relevant organizations and Forest Users.</p> <p>1-5 Facilitate consensus building among Leskhazes, Ail-Okumotues and Forest Users for involving stakeholders into decision-making.</p>	<p>While visiting Leskhazes and State Nature Parks, the Project had numerous numbers of discussions on their views of JFM, the Project held a briefing session with all related Ail-Okumotues to explain about JFM pilot project.</p> <p>In order to select pilot sites with transparency, the Project set selection criteria, invited proposed pilot site along with it, and approved pilot sites in WGM.</p> <p>In WGM, which the Project organized under JCC, the Project discussed the concrete selection procedure of pilot sites.</p> <p>The Project made 5,000 leaflets and distributed to disseminate information regarding selection criteria and procedures.</p> <p>In case competency in application creation was observed to be low, the Project has provided diligent technical advice.</p> <p>The Project prepared a technical note (En, Ru, Jp) on the type of pilot sites to be integrated to the Guidelines.</p> <p>When selecting a pilot site, the Project strongly and always requested proposers to submit the plan for establishing pilot sites with the joint signature of the Leskhaz and the Ail-Okumotu.</p> <p>Because the statement of mutual agreement based on lease contract and three parties' agreement are new in Kyrgyz Republic, continuous and repetitive explanation on these was necessary to make them understand.</p>	<p>(Sep 2009) Leaflet "The Project for the Support of Joint Forest Management in Kyrgyz Republic" - (En, Ru, Kg)</p>																													

<p>2. The forest management activities are implemented by Forest Users in the Project Sites of JFM.</p>	<p>2-1 Instruct Forest Users to develop their own forest management plans and submit them to Leshozes and Ail-Okumotues.</p>	<p>Tenants are obligated to submit proposal for forest management of his own site. When Leshozes and the tenant make a contract, it was common to describe plan of forest activities in the contract.</p> <p><Number of forest users who submitted forest management plan to Leshkoz or Ail-Okumotu ></p> <table border="1" data-bbox="247 504 351 1467"> <thead> <tr> <th></th> <th>Jangy-Pakhtia</th> <th>Kok-Moinok</th> <th>Ivanovka</th> <th>Kegeti</th> <th>Karasaev</th> <th>Oruktu</th> <th>Ton</th> <th>Jeti-Oguz</th> <th>Ak-Beshim</th> <th>Talas</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Individual</td> <td>17</td> <td>116</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>14</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>Group</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		Jangy-Pakhtia	Kok-Moinok	Ivanovka	Kegeti	Karasaev	Oruktu	Ton	Jeti-Oguz	Ak-Beshim	Talas	Individual	17	116	7	0	1	-	14	-	3	11	Group	2	-	2	-	3	-	-	2	-	-																																				
	Jangy-Pakhtia	Kok-Moinok	Ivanovka	Kegeti	Karasaev	Oruktu	Ton	Jeti-Oguz	Ak-Beshim	Talas																																																													
Individual	17	116	7	0	1	-	14	-	3	11																																																													
Group	2	-	2	-	3	-	-	2	-	-																																																													
<p>2-2 Arrange a framework for the supporting activities such as technical assistance, clarification of administrative procedures on land use, income generation through the use of local resources to implement the forest management plans.</p>	<p>2-3 Facilitate consensus building among Leshozes, Ail-Okumotues and Forest Users, on the forest management plans and the framework for the supporting activities.</p>	<p>Administrative regulations and their interpretation relevant to JFM had studied by JET. The results will be described in the Guidelines.</p>																																																																					
<p>2-4 Encourage and promote substantial activities.</p>	<p>The Project has promoted three parties' agreement and achieved 9 agreements.</p> <p><Number of three parties' agreement ></p> <table border="1" data-bbox="598 504 710 1467"> <thead> <tr> <th></th> <th>2009</th> <th>2010</th> <th>2011</th> <th>2012</th> <th>2013</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Jangy-Pakhtia</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Kok-Moinok</td> <td></td> <td></td> <td>Karasaev(4)</td> <td>Jeti-Oguz</td> <td>Jeti-Oguz</td> </tr> </tbody> </table> <p>The Project has promoted formulation of forest users' group ("Jamaat").</p> <p><Number of forest users' groups in each pilot sites ></p> <table border="1" data-bbox="750 504 837 1467"> <thead> <tr> <th></th> <th>Jangy-Pakhtia</th> <th>Kok-Moinok</th> <th>Ivanovka</th> <th>Kegeti</th> <th>Karasaev</th> <th>Oruktu</th> <th>Ton</th> <th>Jeti-Oguz</th> <th>Ak-Beshim</th> <th>Talas</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		2009	2010	2011	2012	2013		2	4	1	1	1	Jangy-Pakhtia						Kok-Moinok			Karasaev(4)	Jeti-Oguz	Jeti-Oguz		Jangy-Pakhtia	Kok-Moinok	Ivanovka	Kegeti	Karasaev	Oruktu	Ton	Jeti-Oguz	Ak-Beshim	Talas		0	1	2	0	3	0	1	2	0	0	<p>Various infrastructure buildings necessary for forest activities were supported by the Project. Since those lands, which were provided for JFM, had problems in forest activities such as afforestation, the forest activities by local residents were activated by the infrastructure building especially in Jangy-Pakhtia, Kok-Moinok, Karasaev, Kegeti and AK-Besim.</p> <p><Major Infrastructure in each pilot site></p> <table border="1" data-bbox="981 504 1276 1467"> <thead> <tr> <th>Name of pilot sites</th> <th>Name of infrastructure</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Jangy-Pakhtia</td> <td>Nursery House</td> </tr> <tr> <td>Kok-Moinok</td> <td>Water pipelines, Intake facility, Seedling storage, Weather station</td> </tr> <tr> <td>Ivanovka</td> <td>Water wheel</td> </tr> <tr> <td>Kegeti</td> <td>Charcoal kiln, Dike</td> </tr> <tr> <td>Karasaev</td> <td>Sustaining bridges, Green house</td> </tr> <tr> <td>Oruktu</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Ton</td> <td>Well with pump and water tank</td> </tr> <tr> <td>Jeti-Oguz</td> <td>Garbage stockyard</td> </tr> <tr> <td>AK-Beshim</td> <td>Seedling storage</td> </tr> <tr> <td>Talas</td> <td>Pump system in nursery</td> </tr> </tbody> </table>	Name of pilot sites	Name of infrastructure	Jangy-Pakhtia	Nursery House	Kok-Moinok	Water pipelines, Intake facility, Seedling storage, Weather station	Ivanovka	Water wheel	Kegeti	Charcoal kiln, Dike	Karasaev	Sustaining bridges, Green house	Oruktu	-	Ton	Well with pump and water tank	Jeti-Oguz	Garbage stockyard	AK-Beshim	Seedling storage	Talas	Pump system in nursery	
	2009	2010	2011	2012	2013																																																																		
	2	4	1	1	1																																																																		
Jangy-Pakhtia																																																																							
Kok-Moinok			Karasaev(4)	Jeti-Oguz	Jeti-Oguz																																																																		
	Jangy-Pakhtia	Kok-Moinok	Ivanovka	Kegeti	Karasaev	Oruktu	Ton	Jeti-Oguz	Ak-Beshim	Talas																																																													
	0	1	2	0	3	0	1	2	0	0																																																													
Name of pilot sites	Name of infrastructure																																																																						
Jangy-Pakhtia	Nursery House																																																																						
Kok-Moinok	Water pipelines, Intake facility, Seedling storage, Weather station																																																																						
Ivanovka	Water wheel																																																																						
Kegeti	Charcoal kiln, Dike																																																																						
Karasaev	Sustaining bridges, Green house																																																																						
Oruktu	-																																																																						
Ton	Well with pump and water tank																																																																						
Jeti-Oguz	Garbage stockyard																																																																						
AK-Beshim	Seedling storage																																																																						
Talas	Pump system in nursery																																																																						
		<p>(Aug 2009) Translation of materials on charcoal making (Ru)</p> <p>(Sep 2009) Translation of Public function of forest in Japan (Ru)</p> <p>(Oct 2009) Field Data Collection Guidelines Using a Handheld GPS (Ru)</p> <p>(Nov 2011) Translation of the establishment regulations on forest cooperative</p> <p>(Dec 2011) Teaching Materials of Nursery Management (Ru)</p> <p>(September 2012) The Manual of Apricot Cultivation (Ru)</p> <p>(Jul 2013) The population structure and the possibility for natural regeneration in Picea schrenkiana at Issyk Kul Province, Kyrgyz (Ru)</p>																																																																					

<p>3. The forest management activities by Forest Users and the supporting activities by Leskhazes and Ail-Okumotues in the Project Sites of JFM are monitored properly.</p>	<p>3-1 Conduct periodic monitoring on the implementation of the forest management activities by Leskhazes, Ail-Okumotues, and the Forest Users.</p> <p>3-2 Reflect the monitoring results into subsequent forest management and support activities.</p> <p>3-3 Report periodically to the SAEPE, NALSG and the district governments (at oblast and rayon levels).</p> <p>3-4 Share experiences and information on JFM implementation among stakeholders of the Project Sites.</p>	<p>- Monitoring on forestry management have been appropriately done by Leskhazes and Ail-Okumotues. The local residents were guided by Leskhazes and Ail-Okumotues to do monitoring by themselves.</p> <p>- Although it is desirable for a tenant to take the lead for monitoring in the future, under the present circumstances, a tenant does not have such ability.</p> <p>- The plan of afforestation and/or additional support by the Project in the next year have been considered based on the results of monitoring done by Leskhazes, forest users and a part of Ail-Okumotues.</p> <p>- Based on the suggestion made by the Project, UFED set new format for reporting JFM activities quarterly.</p> <p>- Based on the suggestion made by the Project, DFED improved the format to be used from the second half-year of 2012, and newly appointed the person in charge for monitoring.</p> <p>- In November 2010, the Project held the JFM seminar to share experience of in Jarjy-Pakhta among the persons concerned.</p> <p>- The Project invited Leskhazes which manage pilot sites and other key Leskhazes from all provinces, held the JFM seminar including field training in Balykchy in August 2012.</p> <p>- From 2012, the Project started issuing the JFM newsletter and widely distributed it to all Leskhazes, concerned Ail-Okumotues, and concerned international organizations.</p> <p><List of Information Dissemination Items></p>	<p>- (Jun 2010)Development of 1st format of the periodical report</p> <p>- (Oct 2012)Development of 2nd format of the Periodical report</p> <p>- (2012-2013)Nine Newsletters (En, Ru)</p> <p>- (Nov 2012, to present)Web site (En, Ru, Jp)</p>																																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Leaflet</th> <th>Title</th> <th>language</th> <th>Month / year</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>The Project for the Support of Joint Forest Management in Kyrgyz Republic</td> <td>English/ Russian/ Kyrgyz</td> <td>September 2009</td> </tr> <tr> <td>Manual</td> <td>Field Data Collection Guidelines Using a Handheld GPS</td> <td>Russian</td> <td>October 2009</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Teaching Materials of Nursery Management</td> <td>Russian</td> <td>December 2011</td> </tr> <tr> <td></td> <td>The Manual of Apricot Cultivation</td> <td>Russian</td> <td>September 2012</td> </tr> <tr> <td>Guidelines</td> <td>JFM Guidelines (The Draft)</td> <td>English/ Russian</td> <td>July 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Summary of the Draft of JFM Guidelines</td> <td>English/ Russian</td> <td>July 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Guidelines for Joint Forest Management (Second draft)</td> <td>English/ Russian</td> <td>June 2013</td> </tr> <tr> <td>Newsletter</td> <td>NEWSLETTER Vol. 1</td> <td>English (only web site)/ Russian</td> <td>January 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 2</td> <td></td> <td>April 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 3</td> <td></td> <td>August 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 4</td> <td></td> <td>September 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 5</td> <td></td> <td>November 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 6</td> <td></td> <td>December 2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 7</td> <td></td> <td>February 2013</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 8</td> <td></td> <td>April 2013</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NEWSLETTER Vol. 9</td> <td></td> <td>June 2013</td> </tr> <tr> <td>Web site</td> <td>Previous Web Site</td> <td>English/ Japanese</td> <td>August 2010 - September 2011</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Current Web Site</td> <td>English/ Russian/ Japanese</td> <td>November 2012 -</td> </tr> </tbody> </table>	Leaflet	Title	language	Month / year		The Project for the Support of Joint Forest Management in Kyrgyz Republic	English/ Russian/ Kyrgyz	September 2009	Manual	Field Data Collection Guidelines Using a Handheld GPS	Russian	October 2009		Teaching Materials of Nursery Management	Russian	December 2011		The Manual of Apricot Cultivation	Russian	September 2012	Guidelines	JFM Guidelines (The Draft)	English/ Russian	July 2012		Summary of the Draft of JFM Guidelines	English/ Russian	July 2012		Guidelines for Joint Forest Management (Second draft)	English/ Russian	June 2013	Newsletter	NEWSLETTER Vol. 1	English (only web site)/ Russian	January 2012		NEWSLETTER Vol. 2		April 2012		NEWSLETTER Vol. 3		August 2012		NEWSLETTER Vol. 4		September 2012		NEWSLETTER Vol. 5		November 2012		NEWSLETTER Vol. 6		December 2012		NEWSLETTER Vol. 7		February 2013		NEWSLETTER Vol. 8		April 2013		NEWSLETTER Vol. 9		June 2013	Web site	Previous Web Site	English/ Japanese	August 2010 - September 2011		Current Web Site	English/ Russian/ Japanese	November 2012 -	
Leaflet	Title	language	Month / year																																																																												
	The Project for the Support of Joint Forest Management in Kyrgyz Republic	English/ Russian/ Kyrgyz	September 2009																																																																												
Manual	Field Data Collection Guidelines Using a Handheld GPS	Russian	October 2009																																																																												
	Teaching Materials of Nursery Management	Russian	December 2011																																																																												
	The Manual of Apricot Cultivation	Russian	September 2012																																																																												
Guidelines	JFM Guidelines (The Draft)	English/ Russian	July 2012																																																																												
	Summary of the Draft of JFM Guidelines	English/ Russian	July 2012																																																																												
	Guidelines for Joint Forest Management (Second draft)	English/ Russian	June 2013																																																																												
Newsletter	NEWSLETTER Vol. 1	English (only web site)/ Russian	January 2012																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 2		April 2012																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 3		August 2012																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 4		September 2012																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 5		November 2012																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 6		December 2012																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 7		February 2013																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 8		April 2013																																																																												
	NEWSLETTER Vol. 9		June 2013																																																																												
Web site	Previous Web Site	English/ Japanese	August 2010 - September 2011																																																																												
	Current Web Site	English/ Russian/ Japanese	November 2012 -																																																																												

	<p>3-5 Conduct training activities including observation in the pilot sites for LH and AO staff in other areas different from the pilot sites.</p>	<p>The Project invited Leskhozhes which manage pilot sites and other key Leskhozhes in the country, held field inspection in Balykchy in August, 2012.</p> <p>Various technical trainings were conducted to support forest activities.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Name of training</th> <th>Date/Venue</th> <th>Number of participants</th> <th>Target</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">2009</td> <td rowspan="5">GPS training</td> <td>September 22nd / Karakol LH</td> <td>23</td> <td rowspan="5">Staffs of Leskhozhes, SAEPF, State Nature Parks, State Reserves and AII-Okmotues</td> </tr> <tr> <td>September 24th/ Balykchy LH</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>September, 28th/ Bishkek</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>November 18th/ Jalal-Abad</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>November 21st/ Osh Univ.</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>November 25th/ Talas LH (Total)</td> <td>11</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>153</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2010</td> <td rowspan="4">Nursery Training</td> <td>September 16th/ Fruenze LH</td> <td>25</td> <td rowspan="4">Staffs of Leskhozhes and State Nature Parks</td> </tr> <tr> <td>September 21st/ Karakol LH</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>September 23rd/ Naryn LH</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>September 24th/ Balykchy LH</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>September 28th/ Chui LH (Total)</td> <td>27</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>112</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">2011</td> <td rowspan="6">Nursery Training</td> <td>April 20th/ Chui LH</td> <td>15</td> <td rowspan="6">Staffs of Leskhozhes and State Nature Parks</td> </tr> <tr> <td>April 21st/ Fruenze LH</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>April 25th/ Karakol LH</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>April 26th/ Karakol LH</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>April 28th/ Naryn LH</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>May 3rd/ Balykchy LH</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>May 4th/ Chui LH (Total)</td> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>157</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2012</td> <td rowspan="3">Apricot Cultivation Field School</td> <td>July 3rd/ Chui LH</td> <td>24</td> <td rowspan="3">Staffs of Leskhozhes and tenants</td> </tr> <tr> <td>July 6th/ Balykchy LH</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>July 9th/ Ton LH (Total)</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>60</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2012</td> <td rowspan="2">Spruce Forest Survey</td> <td>September 5th-8th/Juti-Oguz LH</td> <td>23</td> <td rowspan="2">Staffs of SAEPF, Leskhozhes and Agrarian University</td> </tr> <tr> <td>June 25th-29th /Karakol LH, Karakol SNP, Juti-Oguz LH</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2013</td> <td rowspan="2">Spruce Forest Survey</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Year	Name of training	Date/Venue	Number of participants	Target	2009	GPS training	September 22 nd / Karakol LH	23	Staffs of Leskhozhes, SAEPF, State Nature Parks, State Reserves and AII-Okmotues	September 24 th / Balykchy LH	14	September, 28 th / Bishkek	48	November 18 th / Jalal-Abad	30	November 21 st / Osh Univ.	27			November 25 th / Talas LH (Total)	11					153		2010	Nursery Training	September 16 th / Fruenze LH	25	Staffs of Leskhozhes and State Nature Parks	September 21 st / Karakol LH	25	September 23 rd / Naryn LH	29	September 24 th / Balykchy LH	6			September 28 th / Chui LH (Total)	27					112		2011	Nursery Training	April 20 th / Chui LH	15	Staffs of Leskhozhes and State Nature Parks	April 21 st / Fruenze LH	23	April 25 th / Karakol LH	30	April 26 th / Karakol LH	30	April 28 th / Naryn LH	30	May 3 rd / Balykchy LH	20			May 4 th / Chui LH (Total)	9					157		2012	Apricot Cultivation Field School	July 3rd/ Chui LH	24	Staffs of Leskhozhes and tenants	July 6th/ Balykchy LH	18	July 9th/ Ton LH (Total)	18				60		2012	Spruce Forest Survey	September 5 th -8 th /Juti-Oguz LH	23	Staffs of SAEPF, Leskhozhes and Agrarian University	June 25 th -29 th /Karakol LH, Karakol SNP, Juti-Oguz LH	115	2013	Spruce Forest Survey							<ul style="list-style-type: none"> - Lessons learned of JFM in each pilot site were collected in April 2013. - The Project held the JFM seminars at five places across the country in August and September 2012, to present first draft of the Guidelines and the progress of the Project. - The project held the JFM seminar in Bishkek to ask further opinions on the second draft of Guidelines from various stakeholders on June 21th. - First draft of the Guidelines (English and Russian version) was completed in July 2012. - Second draft of the Guidelines (English and Russian version) was completed in June 2013. 	<ul style="list-style-type: none"> - (Apr 2013)Lessons learned from each pilot site (En, Ru, Jp) - (Jun 2012)Recommendations for expand JFM activities (Policy recommendations) (En, Ru) - (Jul 2012)JFM Guidelines (The Draft) (En, Ru) - (Jul 2012)Summary of the Draft of JFM Guidelines (En, Ru) - (Jun 2013)Guidelines for JFM (Second draft) (En, Ru)
Year	Name of training	Date/Venue	Number of participants	Target																																																																																																							
2009	GPS training	September 22 nd / Karakol LH	23	Staffs of Leskhozhes, SAEPF, State Nature Parks, State Reserves and AII-Okmotues																																																																																																							
		September 24 th / Balykchy LH	14																																																																																																								
		September, 28 th / Bishkek	48																																																																																																								
		November 18 th / Jalal-Abad	30																																																																																																								
		November 21 st / Osh Univ.	27																																																																																																								
		November 25 th / Talas LH (Total)	11																																																																																																								
			153																																																																																																								
2010	Nursery Training	September 16 th / Fruenze LH	25	Staffs of Leskhozhes and State Nature Parks																																																																																																							
		September 21 st / Karakol LH	25																																																																																																								
		September 23 rd / Naryn LH	29																																																																																																								
		September 24 th / Balykchy LH	6																																																																																																								
		September 28 th / Chui LH (Total)	27																																																																																																								
			112																																																																																																								
2011	Nursery Training	April 20 th / Chui LH	15	Staffs of Leskhozhes and State Nature Parks																																																																																																							
		April 21 st / Fruenze LH	23																																																																																																								
		April 25 th / Karakol LH	30																																																																																																								
		April 26 th / Karakol LH	30																																																																																																								
		April 28 th / Naryn LH	30																																																																																																								
		May 3 rd / Balykchy LH	20																																																																																																								
		May 4 th / Chui LH (Total)	9																																																																																																								
			157																																																																																																								
2012	Apricot Cultivation Field School	July 3rd/ Chui LH	24	Staffs of Leskhozhes and tenants																																																																																																							
		July 6th/ Balykchy LH	18																																																																																																								
		July 9th/ Ton LH (Total)	18																																																																																																								
			60																																																																																																								
2012	Spruce Forest Survey	September 5 th -8 th /Juti-Oguz LH	23	Staffs of SAEPF, Leskhozhes and Agrarian University																																																																																																							
		June 25 th -29 th /Karakol LH, Karakol SNP, Juti-Oguz LH	115																																																																																																								
2013	Spruce Forest Survey																																																																																																										
<p>4. JFM implementation guideline is comprehended among relevant organizations.</p>	<p>4-1 Identify lesson learned based on each monitoring result of JFM implementation.</p> <p>4-2 Conduct seminars to share the lesson learned of JFM implementation among relevant organizations.</p> <p>4-3 Make out JFM implementation guideline based on the lesson learned of JFM implementation and the opinion of relevant organizations.</p>																																																																																																										

Annex 13: Evaluation Grid (Evaluation based on the Five Criteria)

Criteria	Evaluation Question	Source	Information and data obtained from literature surveys, questionnaire surveys, interviews etc.
1 Relevance The Relevance of the Project is high.	1-1 Laws, national policies, strategic documents associated with forest conservation in Kyrgyz Republic.	JET, SAEPP	<ul style="list-style-type: none"> - Project's JFM approach to involve local residents in Joint Forest Management is concordant with one of the main aims of the forest policy of Kyrgyz Republic. - Before the Project, there were only state forests which Leskhozes manage directly. The Project has introduced various forestry management forms whom involved in residents and/or concerned parties that were concordant with Kyrgyz's democratization policy. - Kyrgyz Republic is a pilot country of the Comprehensive Development Framework (CDF) which the World Bank advocated, and decided upon the second State Poverty Reduction Strategy (PRSP) and adopted the Medium-Term Development Program (2012-2014) by the Government of the Kyrgyz Republic in April 2012. - In above plan and the forest policy (Concept for Forestry Development, National Forest Program, National Action Plan for Forestry Development) of Kyrgyz Republic, since private practical use, and the preservation and expansion of the national forest towards forest and biodiversity conservation, and maintainable forestry management are positioned as a concrete measure, therefore, the Project has agreed with the national policy of Kyrgyz Republic.
	1-2 Change of mandate/structure and staff of implementing agencies that may affect the Project implementation.	JET	<ul style="list-style-type: none"> - As for SAEPP, DFED (Department of Forest Ecosystem Development) was restructured to be UFED (Unit of Forest Ecosystem Development) temporarily, and there was changed again to be DFED in 2012.
	1-3 Alignment of the Project with the needs and expectation of implementing agencies.	SALGIR, SAEPP	<ul style="list-style-type: none"> - NALSG was restructured to be SACRD in January 2012, and then restructured again to be SALGIR in March 2013. Because the reform is still undergoing, jurisdiction became unclear under each new organizational structure. - There have been no Co-Project Manager of SAEPP since April 2013.
	1-4 Local demands on the implementation of JFM projects.	JET, SAEPP, SALGIR	<ul style="list-style-type: none"> - If what Project Purpose states has become realized, what Overall Goal states will be achieved. Therefore, the alignment of the Project is considered to meet the needs and the expectation of implementing agencies. - Five or more pilot sites are to be selected in the Project plan. This secures the diversity of the contents of location, natural conditions, and activity.
	1-5 Priority areas of the Government of Japan for the development assistance to Kyrgyz Republic.	JET	<ul style="list-style-type: none"> - It is the approach of the Project to advance forest management under the agreement among Leskhozes, Ail-Okumotues, and forest users that meets local resident's needs.
	2-1 Attainment level of the Output 1.	Interviews conducted by the Team JET	<ul style="list-style-type: none"> - Unemployment rate especially in interior part of the country is very high. There were strong needs in local residents to have income source. The approach for forest management of the Project is to support local residents to improve their livelihood by providing way of income through JFM project. - The JFM approach seeks the way to realize rural development and effective forest management at the same time. Rural development is one of the three priority areas for Japan's development assistance policy in Kyrgyz.
	2-2 Attainment level of the Output 2.	JET, SAEPP, SALGIR	<ul style="list-style-type: none"> - (Annex 10, 11) - The Project has assisted for carrying out JFM with ten pilot sites for the purpose of extracting lessons for developing the Guidelines. - The Project defined the selection criteria which consist of five items, and the application format for new JFM activity. Proposed pilot sites were examined by Working Group Meeting (WGM) to decide if it should be implemented by the Project
	2 Effectiveness The Effectiveness of the Project is medium.	JET, SAEPP, SALGIR	<ul style="list-style-type: none"> - (Annex 10, 11) - In province of Chui, Issyk-Kul and Talas, the Project undertook ten model JFMs, and accumulated knowledge for the establishment of JFM in the whole Kyrgyz Republic. - Infrastructure improvement for performing forest management activity advanced smooth implementation of JFM (e.g., maintenance of an irrigation channel, construction of dike, maintenance of a well, etc.).

3 Efficiency of the Project is moderately high.	2-3 Attainment level of the Output 3.	JET, SAEPE, SALGIR	(Annex 10, 11) <ul style="list-style-type: none"> - Monitoring results came to be reported to SAEPP HQ after new monitoring format was developed by DFED and the person in charge was nominated by DFED in December 2012. - The format of an old periodic report was simple, and its reaction had too much individual difference. Having also the interval in half a year, the new monitoring format made it possible to perform an effective report conjointly. - Additional training is required for the analysis of the monitoring results, and making feedback.
	2-4 Attainment level of the Output 4.	JET, SAEPE, SALGIR	(Annex 10, 11) <ul style="list-style-type: none"> - The second draft of the Guidelines was prepared in June 2013, and the final edition will be finalized based on discussions with the persons concerned. - As soon as finalizing the Guidelines, the Project needs to support SAEPP on drafting of amendment or/and new regulations concerning JFM.
	2-5 Prospect of the Project Purpose to be achieved by the end of the Project period.	JET, SAEPE, SALGIR	(Annex 10, 11) <ul style="list-style-type: none"> - To achieve the project purpose, the Project needs to further integrate the latest results of the monitoring (Output 3) at the same time, lessons learned obtained through implementation of pilot projects (Output 1 & 2) into the Guidelines. - To achieve the project purpose, SAEPP HQ needs to work for the diffusion of the Guidelines and to promote JFM application on the forest management in the state. Also SAEPP is expected to have an effort to get an additional budget for JFM dissemination. - PDM was revised twice, and PO was revised three times. Activities have been conducted based on the latest version of PDM and PO. JCC meetings were conducted five times to share the plan of the Project. There was no notable confusion on the PDM and PO.
	3-1 The overall plan of the Project is clear and appropriate to all project staff.	JET, SAEPE, SALGIR	(Annex 5) <ul style="list-style-type: none"> - Four long-term experts and eight short-term experts were dispatched as planned.
	3-2 Dispatch of experts.	JET	(Annex 6) <ul style="list-style-type: none"> - Two trainees in the fiscal year of 2008 were Co- project managers of those days. The training helped them understand the state of Japan's cooperation. Thirty trainees in the fiscal year of 2009 to 2013 were key members of the project activities. - There was a big impact of the training also from a viewpoint of improvement in the positiveness to the Project activities.
	3-3 Training in Japan.	JET	(Annex 7, 8) <ul style="list-style-type: none"> - Two vehicles, twenty computers, one hundred and sixteen GPSs, weather station etc. - The timing of the procurement of equipment was decided in consideration of the Project progress and season. - The supplied equipment was used effectively. However, it is necessary to guide for the practical use of GPS and weather station.
	3-4 Provision of equipment & facilities	JET	<Major Facilities> <ul style="list-style-type: none"> - Nursery house in Jangy-Pakhia, Irrigation system and seedling storage in Kok-Moinok, Kilin in Kegeti, Waterwheel in Ivanovka, Sustaining bridge in Karasaev, well in Ton, garbage stock yard in Jeti-Oguz, Seedling Storage in Ak-Beshim, Nursery water intake facility in Talas
	3-5 Local cost.	JET	(Annex 9) <ul style="list-style-type: none"> - Expenditures of main infrastructures were borne by JICA. - Supply of seedling was borne by JICA partially.
	3-6 Assignment of counterpart personnel.	SAEPE, SALGIR	<ul style="list-style-type: none"> - The Project Director and the Co-Project Managers have been assigned to be the project C/Ps. - The Co-Project Manager of SAEPP side has been absent since April 2013. - C/Ps under exclusive assignment has not been existed in SAEPP and SALGIR; therefore, many of the Project activities had been implemented by JICA side.
	3-7 Disbursement for project operation.	SAEPE, SALGIR	<ul style="list-style-type: none"> - SAEPP and SALGIR have paid for their administrative costs, such as a salary of C/P personnel. - One room has been assigned as a project office. The lands of Leskhozoes and Ail-Okumotues are provided as a place to undertake JFM projects. - Leskhozoes and Ail-Okumotues had disbursed their own resources substantially for implementing project activities especially for

<p>4 Impact The Impact of the Project is moderately high.</p>	<p>3-8 Communication (periodical and daily) for project coordination - within the Project. 3-9 Communication (periodical and daily) for project coordination - among Kyrgyz's organizations. 3-10 Methods and contents of technology/knowledge transfer from the Project experts to counterparts and partner organizations. 3-11 Promoting/hindering factors that may have affected the Project implementation.</p>	<p>JET, SAEPP, SALGIR JET, Interviews conducted by the Team JET, Interviews conducted by the Team JET, Interviews conducted by the Team</p>	<p>the installment of facilities. - By the time of terminal evaluation, over the past fifty four (54) months, JCC meetings were conducted five times. - WGMs have been held 18 times, which functioned as the table of decision making between JET and C/Ps. - Official agreement for technical cooperation between SAEPP and SALGIR was made in 2011. - Leskhoz and Ail-Okumotus who are managing JFM pilot project had weekly regular meetings to have coordination for the Project. - Most Leskhoz and Ail-Okumotus believe that support provided by JET were very helpful. - Due to the absence of C/Ps under exclusive assignment in SAEPP and SALGIR, technology/knowledge transfer from the Project experts was not efficient. (Promoting factor) - Local residents' desire to have income source is very high since the beginning of the Project. It promoted active participation of the local residents in JFM pilot projects (Hindering factor) - Since qualified C/Ps in SAEPP and SALGIR to discuss on the technical aspect of the Guidelines and the regulatory framework to promote JFM was inadequate, participation in the development of the Guideline was limited. - The Project aims at that local residents and Leskhoz become Win-Win; for example, the apricot forest development as represented at Kok-Moinok pilot site had great success economically. Such pilot site contributes to JFM by a similar concept being developed all over the country in future. - In the neighborhood of some pilot sites, many places have started similar JFM projects with Leskhoz or/and Ail-Okumotus without the Project's support. - Many forms of forest management with the participation of local residents were indicated by the Project. Success case such as Kok-Moinok pilot site had demonstrated advantage of JFM project. - To achieve the overall goal in near future, SAEPP HQ needs to work for the diffusion of the Guidelines and to promote JFM application on the forest management in all over the country. By having set the pilot site in five Leskhoz among six Leskhoz in the Province of Issyk-Kul, this province is expected to be a field training place for JFM deployment in the near future. - This project succeeded a part of Kyrgyz-Swiss Forestry Support Program (KIRFOR) which Swiss Agency for Development and Cooperation (SDC) had been carrying out. The cooperation between JICA and KIRFOR had been continuing till April 2010, when KIRFOR project was terminated. - UNDP is carrying out the riverside forest reproduction project in Balykchy, and the Project has been exchanging information with them. (Positive impact) - Many of the JFM pilot projects have generated employment for local residents. There are many people who don't have job in local communities. Project provided ways of getting income for those people. It helped people's livelihood to be more stable and decrease social grievance. - Many case of that the JFM pilot projects stimulated other neighboring businesses such as tourism and orchard management were observed. For example in the case at Issyk-Kul Leskhoz, the pilot project repaired the forest road to spruce forests which are located at the higher part of the mountain. The road, originally facilitated to gather wind fallen trees, provided access to pasture land for local farmers to graze their livestock, also it attracted tourists so that tourism companies constructed "Yurutas" for getting extra income. (Potential negative impact) - Inequality between supported communities and non-supported communities has potential negative impact. Also, financial input among different pilot sites had inequality in some extent.</p>
---	---	---	---

<p>5 Sustainability The Sustainability of the Project is medium.</p>	<p>5-1 Prospect from institutional viewpoint (such as legislations & policies, rule & regulation, organization, operational procedures, participation of stakeholders etc.)</p>	<p>JET, Interviews conducted by the Team, SAEPP, SALGIR</p>	<ul style="list-style-type: none"> - JFM practices under the jurisdiction of Leskhoz are in line with the Forest Code of Kyrgyz Republic. - Because the reform on organizational structure in SAEPP and SALGIR is still undergoing, jurisdiction of staff for the Project is unclear. Continuous reform may affect efficient dissemination of JFM concept as stated in the overall goal.
<p>5-2 Prospect from technical viewpoint (technology/knowledge and its update, deliverables and its maintenance etc.)</p>		<p>JET, Interviews conducted by the Team, SAEPP, SALGIR</p>	<ul style="list-style-type: none"> - The field operational staff in Leskhoz seem to be confident technically for continuous management. - Although staff trainings on GPS survey technique, nursery managerial technique, apricot cultivation techniques and spruce forest research were carried out. Those techniques need to have continuous improvement. - For the next stage of apricot production, collaboration with other ministries to develop technology/knowledge on processing, transportation, marketing, harvesting and so on, are necessary.
<p>5-3 Prospect from human resource viewpoint (Number of staff, Assignment of responsible personnel, His/her qualification and motivation, New recruitment and volunteer)</p>		<p>JET, Interviews conducted by the Team, SAEPP, SALGIR</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Although change of personnel in the management level is frequent, the personnel in the field level are comparatively stable. - Many people expressed their interest to participate JFM projects. Besides, many of Leskhoz and Ail-Okumotoues are willing to disseminate JFM techniques to their neighboring communities. - Local residents are willing to continue efforts for their forest management. - It seems that there is not sufficient number of people who have technical expertise.
<p>5-4 Prospect from financing viewpoint (budget allocation within institutions, external financing etc.)</p>		<p>JET, Interviews conducted by the Team, SAEPP, SALGIR</p>	<ul style="list-style-type: none"> - The government budget, except staff emolument, is quite limited. - It is obligated to transfer to the forestry fund of SAEPP, 5% of the revenues of Leskhoz, and to transfer 4% of the revenue to the account of DFED. - Forestry fund shall be spent for financing of forest management activities and is considered to be stable rather than the ordinary government budget. - As for private tenants who applied pilot project, they had a cost estimate for long-term basis, and they thought the project is profitable. Therefore, they can be sustainable by themselves. - Continuous financial input will be required to maintain facilities (e.g. fence, water-well, water-wheel, low-temperature storage, bridge etc.) provided by the Project. - As stated in the overall goal, to disseminate JFM concept and to expand areas under JFM methodology in the future, external financial assistance will be necessary. To expand areas under JFM scheme, financial incentive for installing irrigation, fencing, seedling etc., may be required.

The Project for the Support for Joint Forest Management in the Kyrgyz Republic

Minutes of Meeting of the Seventh Meeting of
the Joint Coordinating Committee (JCC)

The Seventh Meeting of the Joint Coordinating Committee (JCC) of the Project for the Support for Joint Forest Management in the Kyrgyz Republic was held on 25 July 2013. The Joint Evaluation Team reported the results of evaluation to the JCC. As described in the Attachment, the JCC discussed and then approved the Joint Terminal Evaluation Report.

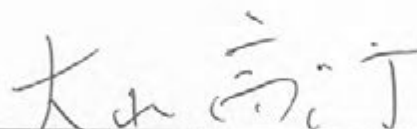
The Minutes of Meeting was prepared in both English and Russian. In case of discrepancy, the English text shall prevail.

Bishkek, 25 July 2013



Mr. Abdiev Bahtiyar Mamadiyarovich
Permanent Secretary
The State Agency for Environmental Protection
and Forestry under the Government of
the Kyrgyz Republic (SAEPF)

On behalf of
JCC Chairman
Mr. Atadjanov Sabir Sadykdjanovich
Director, SAEPF



Mr. Takayuki Oyama
Resident Representative
Kyrgyz Republic Office
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Attachment

Seventh Meeting of the Joint Coordinating Committee (JCC)

Date: 25 July, 2013
Time: 3:00 p.m. - 4:00 p.m.
Venue: 1st floor, conference hall, SAEPF, 228, Toktogula str., Bishkek.
Participants: List attached.

After the opening of the Meeting and welcome remarks, the Meeting discussed the following matters.

1. Joint Terminal Evaluation Report (the Report)

- The Joint Evaluation Team (the Team) presented the summary of the Report.
- The JCC shared the summary presented by the Team.

2. Comments from the Kyrgyz side

- The Kyrgyz side appreciates the achievements of the Project JFM and the Joint Evaluation Team (JET), which has estimated the reality, and we will take all measures to further expand JFM based on the recommendations written in the Report.
- The Kyrgyz side stressed that assistance of experts on forestry from Japan is necessary as following reasons;
 - Forestry Legislation
It is the best time to make additions or changes to the forest law, because most legal and regulatory acts are from the Soviet Union, assistance in this area is much needed to the Kyrgyz Republic.
 - Technical Issue (Tree Breeding):
 - ❖ SAEPF began to engage the local population. But there is still an issue on the selection of tree species. We need help to create a breeding base, that people were interested in plantation of salt-tolerant, drought-resistant and high yielding species for timber production. Besides, according to the report of Dr. Katsuki, short term expert of the Project, coniferous forests have weakness of natural regeneration. So now the most important thing is to plant a selected species of trees with the involvement of the local population.
 - ❖ Since today no other ministry has nurseries which produce fruits seedlings, assistance for SAEPF in creating breeding base for high-yielding, resistant to all kinds of pests and diseases will greatly work in the development of our country



and will serve as a logical continuation of the activities of JFM.

➤ Climate Change

These activities will contribute to the prevention of natural disasters in the Kyrgyz Republic, mitigate climate change and increase the forest area and promote transition to a "Green Economy", which stated in the signed agreement between our President and the Prime Minister of Japan.

- The Kyrgyz side requests the future cooperation in the forestry / environmental sector for the next step in the JFM between Japan and the Kyrgyz Republic as follows;
 - An expert in a short interval after the completion of the Project
 - A volunteer for environmental education in Jeti-Oguz Leskhoz, which was requested in last December.

3. Comments from JICA

- The initiatives by the Government of the Kyrgyz Republic are more important than anything else, and we hope they will be strengthened.
- JICA sets a Country Assistance Strategy for each country through the dialog between recipient country and JICA. New projects should be complied with the strategy. For the Kyrgyz Republic, there are two priority areas such as, (1) agriculture and business, and (2) transportation infrastructure. Direction of a new Project should be complied with the Strategy.
- JICA will seriously consider the request made by the Kyrgyz side, in line with the strategy.

The JCC took notes of the comments, approved the Report, and closed the Meeting.



**The Project for the Support for Joint Forest Management
in the Kyrgyz Republic**

SEVENTH JOINT COODINATING COMMITTEE

Venue: 228, Toktogula str., 1st floor, conference hall

Date: July 25th, 2013

Time: 15:00 – 16:00

Main objectives:

Discussion on the Report of the Joint Terminal Evaluation on the Project for the Support for Joint Forest Management (the Report)

Agenda:

1. Opening

Agenda adoption

Welcome remarks of Chairperson (Mr. Abdiev Bahtiyar)

2. Presentation of the Report (Joint Evaluation Team)

Outline of the Terminal Evaluation (Mr. Shishido)

Achievements of the project (Mr. Mendekeyev)

Review by the Five Criteria (Mr. Asano)

Results of Terminal Evaluation (Mr. Chyngojoev)

3. Discussion of the Report

4. Adoption

5. Closing



Participants of Joint Coordinating Committee (JCC)
July 25th, 2013

Bishkek

No.	Surname and Name	Position	Organization
JCC Member			
1	Abdiev Bahtiyar Mamadiyarovich	Permanent Secretary <Chairperson>	State Agency for Environmental Protection and Forestry (SAEPF)
2	Salykmambetova Baglan Nursultanovna	Head of International Department	SAEPF
3	Ikramov Sanjar Ikramovich	Permanent Secretary	State Agency for Local Self Governance and Interethnic Relations (SALGIR)
4	Oyama Takayuki	Resident Representative	Kyrgyz Republic Office, Japan International Cooperation Agency (JICA)
Joint Evaluation Team			
5	Chyngojev Abdymital Turgunaliyevich	Kyrgyz Team Leader, Deputy Director <Project Director>	SAEPF
6	Aliiev Mairambek Shaikovich	Head of Unit of Forestry, Plantation and Joint Forest Management, Department of Forest Ecosystem Development (DFED)	SAEPF
7	Mendekeyev Rahmankul Abdymananov	Head of Monitoring Unit <Co-Project Manager>	SALGIR
8	Shishido Kenichi	Japanese Team Leader, Deputy Director General, Global Environment Department	JICA
9	Inoue Mikiriro	Senior Policy Analyst for Overseas Forestry Programme Officer,	Forestry Agency
10	Kitamura Kenji	Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environment Department	JICA
11	Asano Koji	Senior Engineer, Environmental Science & Engineering Department	Nippon Koei Co., Ltd.
Observer			
12	Yrsaliev Bakytbek Keneshovich	Deputy Director, DFED	SAEPF
13	Mishima Kenji	Representative	Kyrgyz Republic Office, JICA
14	Onishi Keiichiro	Project Formulation Advisor	Kyrgyz Republic Office, JICA
15	Seitov Madaminbek	Program Officer	Kyrgyz Republic Office, JICA
16	Tokugawa Koichi	Chief Advisor	Project for the Support for Joint Forest Management in the Kyrgyz Republic (JFM Project)
17	Nishikawa Tatsuji	Project Coordinator	JFM Project
18	Sultanov Nurlan	Project Assistant	JFM Project
19	Dildemuratova Saikal	Project Assistant	JFM Project




他ドナー機関の主な動向（面談結果概要）

1. 国連食糧農業機関（FAO）及びドイツ国際協力公社（GIZ）

（1）面談概要

日時： 2013年7月19日（金）16：00～17：00

場所： JICA キルギス事務所

参加者（敬称略）：

Ms. Venero Surapboevo（FAO）、Mr. Andre Fabian（GIZ）

徳川浩一（チーフアドバイザー）

三島健史、大西啓一郎（以上、JICA キルギス事務所）

宍戸健一、井上幹博、浅野剛史、北村健二（以上、調査団）

（2）面談内容（要点）

FAO が今後展開する予定のプロジェクトを中心に、国際ドナー機関のキルギスにおける森林関連の活動状況、現状における課題、今後の JICA との連携の可能性等について自由に話し合う形で聞き取った。主な内容は以下のとおり。

- FAO のキルギスでの森林分野の協力はこれから本格的に始まる段階。プラットフォーム作りに主眼を置きつつ、5州でパイロット事業を選定のうえ実施する予定。どの営林署・村役場を対象とするかを審査し、全体で1万 ha で実施するのが目標。5州それぞれにおいて各3カ所のサイトではアグロフォレストリーを実施予定で、成長の速い果樹栽培を想定している。来年に活動を開始すべく、地球環境ファシリティ（GEF）への提出書類を作成している段階。
- 世界銀行が2016年に森林ガバナンス関連で大きな資金投入を予定しており、それに向けたドナー強調のための会合が続く見込み。EU の FLEG（Forest Law Enforcement and Governance）プログラムにも世界銀行は関心を持っている。
- GIZ は、森林セクターが脆弱なキルギスでどのような仕掛けが機能するのかを検討しつつ、諸活動を整合させるための改革を支援する。SAEPF のガバナンスは弱く、生態系に基づいた森林管理もできていない（これは SAEPF 副長官の認識でもある）。SAEPF よりもっと高いレベルの政府機関もしくは副首相クラスのイニシアティブが必要かもしれない。
- FAO の加工技術などを持たないテナントが商品を販売できるようにするためには加工技術や販売に関する普及が必要となるが、周辺国においても需要はあるし、フェアトレードを活用できる可能性もあるので、まずは中期的なインセンティブによって現場での活動を開始する。牧畜やクルミ栽培など他分野の経験を生かしながら、現場において革新的な取り組みを実施できるよう留意するのがよいと考えている。森林と牧畜との間には常に利害の対立があるが、現地の利害関係に対して中立の立場である外部者の利点も生かしたい。

2. 国連開発計画（UNDP）

（1）面談概要

日時： 2013年7月23日（火）15：30～16：40

場所： UNDP キルギス事務所

参加者（敬称略）：

Dr. Erkinbek Kasybekov、Mr. Aleksandr Temirbekov、（以上、UNDP）

三島健史、Mr. Madaminbek Seitov（以上、JICA キルギス事務所）

宍戸健一、井上幹博、浅野剛史、北村健二（以上、調査団）

（2）面談内容（要点）

上記1. と同様に、UNDP のキルギスにおける森林関連の活動状況、現状における課題、今後の JICA との連携の可能性等について自由に話し合う形で聞き取った。主な内容は以下のとおり。

- UNDP も SAEPF を主たるカウンターパートとして森林セクターへの協力をしている。また、各地域で1つの大きな問題を解決することを目指す統合的な開発事業を実施している。国連ボランティア計画（UNV）と共同で、持続可能な森林管理のための能力向上のプログラムも実施している。いずれの事業においても SAEPF だけでは力が足りていない。地方の開発に関しては SALGIR が推進役になるべきと考えている。
- JICA の JFM プロジェクトはスイスのプロジェクトを引き継いでうまく展開したもので、荒廃した森林の再生と地域住民の生計向上という2つの目的を同時に達成するものとして UNDP としても注目している。JFM プロジェクトが提供した GPS により、営林署の地図が精緻化されるなどよい貢献をしている。バリクチでは灌漑と植林を組み合わせた最良の協力事例と考え UNDP としても高く評価している。まず適性の高いテナントを確保することが重要ということを実証した。自然資源の持続可能な管理には従事する人たちの能力向上が必要であり、JFM の成果物であるガイドラインは広く活用されうらだろうと認識している。法令とは違って現場に役立つ実践的な内容である点は興味深い。また、法令を整備していく際にも役立つだろう。
- キルギスの南部では灌漑水を巡る紛争がある。SALGIR は、自ら管理する土地のデータベースがなく、せつかく外部機関の協力で植林しても記録に残らないという問題がある。SAEPF にはモニタリングの仕組みがきちんとあるので、これを SALGIR にどう移転するかが課題。
- キルギス国内の3州に UNDP のエリア事務所があり、社会経済分野の支援で既に実績がある。タジキスタン等との貿易拡大のため、加工、包装、ラベリングの工場を建設し、ブランド化を図っている。品質は高いのでカザフスタンやロシアにも販路を広げたい。まだ生産能力は低いけど潜在能力は十分にある。JICA が生計向上に重点を置いた協力を実施していくのであれば、農産物のマーケティングや輸送などに関して連携することも可能。
- 文書レベルの政策はあるが、実践は追いついていない。広大な面積の国有林がうまく活用

されず、過放牧が起こっている。こうしたなかでアンズ栽培の事業は2期目に入り、森林セクターの改革を続けながら人間開発の目的も掲げている。

- これまで北部に限定されている JICA の JFM を南部に展開するのであれば、UNDP との連携が十分に可能。UNDP は南部で共同森林管理を実施しており、営林署でなく村役場がパートナーとなっている。管理されていない土地ではこれまで違法伐採などが発生していた。そのような土地をリモートセンシングにより特定する。GEF に申請し、クルミ林のプロジェクトを実施しており、EU とも連携している。水の少ない南部地域では JICA による JFM の経験を生かせるし、加工・販売まで含めるのもよいアイデアである。
- このほか、セクター改革の一環としてデータベース整備なども求められており、UNDP でも Municipalities レベルの土地利用システムを構築した。従来は地図がないのでせっかく植林しても記録に残らないという問題があった。
- UNDP の事業は自然資源管理全般を対象としているので耕作地や放牧地も含むが、森林に関しては JFM と連携可能と考えている。イシククリ州のパイロットサイトが模範となる。荒廃地に 100ha 単位で植林していく効果は大きい。ナレッジマネジメントの観点からガイドラインを出版するのも一案。研究者、NGO、地元住民などと連携しながら JFM を普及させていく過程において UNDP も協力することが可能である。

以上